

【文献文化学】

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
M631001	東洋文献文化学系英語論文実習	実習	1	前期	木1	Klebanov, Andrey	大学院系共通科目	文献文化学系1
1330001	国語学国文学	特殊講義	4	通年	月2	河村 瑛子		文献文化学系2
1330002	国語学国文学	特殊講義	4	通年	火2	池田 恭哉		文献文化学系3
1331001	国語学国文学	特殊講義	2	前期	水4	須田 千里		文献文化学系4
1331002	国語学国文学	特殊講義	2	後期	水4	須田 千里		文献文化学系5
1331003	国語学国文学	特殊講義	2	前期	木2	佐野 宏		文献文化学系6
1331004	国語学国文学	特殊講義	2	後期	木2	佐野 宏		文献文化学系7
1331005	国語学国文学	特殊講義	2	前期	水3	長谷川 千尋		文献文化学系8
1331006	国語学国文学	特殊講義	2	後期	水3	長谷川 千尋		文献文化学系9
1331009	国語学国文学	特殊講義	2	前期	集中	橋本 行洋		文献文化学系10
1331010	国語学国文学	特殊講義	2	後期	金2	橋本 行洋		文献文化学系11
1331011	国語学国文学	特殊講義	2	前期	火4	奥野 久美子		文献文化学系12
1331012	国語学国文学	特殊講義	2	後期	火4	奥野 久美子		文献文化学系13
1331013	国語学国文学	特殊講義	2	前期	集中	豊島 正之		文献文化学系14
1340003	国語学国文学	演習	4	通年	月4	河村 瑛子		文献文化学系15
1340004	国語学国文学	演習	4	通年	金3	田中 草大		文献文化学系16
1341001	国語学国文学	演習	2	前期	火4	緑川 英樹		文献文化学系17
1341002	国語学国文学	演習	2	後期	火4	緑川 英樹		文献文化学系18
1341003	国語学国文学	演習	2	前期	水2	本井 牧子		文献文化学系19
1341004	国語学国文学	演習	2	後期	水2	本井 牧子		文献文化学系20
M112001	国語学国文学	演習	4	通年	木5	田中 草大		文献文化学系21
M112002	国語学国文学	演習	4	通年	火5	金光 桂子		文献文化学系22
M114001	国語学国文学	修論演習	4	通年	水1	金光 桂子,河村 瑛子,田中 草大		文献文化学系23
1431001	中国語学中国文学	特殊講義	2	前期	火1	永田 知之		文献文化学系24
1431002	中国語学中国文学	特殊講義	2	後期	火1	永田 知之		文献文化学系25
1431003	中国語学中国文学	特殊講義	2	前期	火2	道坂 昭廣		文献文化学系26
1431004	中国語学中国文学	特殊講義	2	後期	火2	道坂 昭廣		文献文化学系27
1431005	中国語学中国文学	特殊講義	2	前期	月4	大竹 昌巳		文献文化学系28
1431006	中国語学中国文学	特殊講義	2	後期	月4	大竹 昌巳		文献文化学系29
1431007	中国語学中国文学	特殊講義	2	前期	金4	緑川 英樹		文献文化学系30
1431008	中国語学中国文学	特殊講義	2	後期	金2	野原 将揮		文献文化学系31
1431009	中国語学中国文学	特殊講義	2	前期	水1	赤松 紀彦		文献文化学系32
1431010	中国語学中国文学	特殊講義	2	後期	水1	赤松 紀彦		文献文化学系33
1431012	中国語学中国文学	特殊講義	2	前期	集中	大木 康		文献文化学系34
1464001	中国語学中国文学	外国語実習	1	前期	木4	王 宜瑗		文献文化学系35
1464002	中国語学中国文学	外国語実習	1	後期	木4	王 宜瑗		文献文化学系36
M123001	中国語学中国文学	演習	2	前期	月2	成田 健太郎		文献文化学系37
M123002	中国語学中国文学	演習	2	後期	月2	成田 健太郎		文献文化学系38
M123003	中国語学中国文学	演習	2	前期	金3	木津 祐子		文献文化学系39
M123004	中国語学中国文学	演習	2	後期	金3	木津 祐子		文献文化学系40
M123005	中国語学中国文学	演習	2	前期	水4	緑川 英樹		文献文化学系41
M123006	中国語学中国文学	演習	2	後期	水4	緑川 英樹		文献文化学系42
M123007	中国語学中国文学	演習	2	通年	水2	木津 祐子,緑川 英樹,成田 健太郎		文献文化学系43
1530002	中国哲学史	特殊講義	4	通年	水1	池田 恭哉		文献文化学系44
1531001	中国哲学史	特殊講義	2	前期	集中	工藤卓司		文献文化学系45
1531002	中国哲学史	特殊講義	2	前期	火1	永田 知之		文献文化学系46
1531003	中国哲学史	特殊講義	2	後期	火1	永田 知之		文献文化学系47
1531004	中国哲学史	特殊講義	2	前期	木2	倉本 尚徳		文献文化学系48
1531005	中国哲学史	特殊講義	2	後期	木2	倉本 尚徳		文献文化学系49
1531006	中国哲学史	特殊講義	2	前期	火4	船山 徹		文献文化学系50
1531007	中国哲学史	特殊講義	2	後期	火4	船山 徹		文献文化学系51
1540001	中国哲学史	演習	4	通年	金5	宇佐美 文理		文献文化学系52
1540002	中国哲学史	演習	4	通年	月2	池田 恭哉		文献文化学系53
1541001	中国哲学史	演習	2	前期	金3	吉本 道雅		文献文化学系54
1541002	中国哲学史	演習	2	後期	金3	吉本 道雅		文献文化学系55

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
1541003	中国哲学史	演習	2	前期	月3	古勝 隆一		文献文化学系56
1541004	中国哲学史	演習	2	後期	月3	古勝 隆一		文献文化学系57
1541005	中国哲学史	演習	2	前期	金2	中 純夫		文献文化学系58
1541006	中国哲学史	演習	2	後期	金2	中 純夫		文献文化学系59
1633001	インド古典学	特殊講義	2	前期	金3	横地 優子		文献文化学系60
1633002	インド古典学	特殊講義	2	後期	水5	VASUDEVA, Somdev		文献文化学系61
1633003	インド古典学	特殊講義	2	前期	月2	Klevanov Andrey		文献文化学系62
1633005	インド古典学	特殊講義	2	前期	水2	天野 恭子		文献文化学系63
1633006	インド古典学	特殊講義	2	前期	火3	福山泰子		文献文化学系64
1633007	インド古典学	特殊講義	2	後期	水3	CATT, Adam Alvah		文献文化学系65
1633008	インド古典学	特殊講義	2	前期	水3	CATT, Adam Alvah		文献文化学系66
1633010	インド古典学	特殊講義	2	前期	集中	山畑倫志		文献文化学系67
1643001	インド古典学	演習	4	前期	火5	Klevanov Andrey		文献文化学系68
1644003	インド古典学	演習	2	後期	金3	横地 優子		文献文化学系69
1644004	インド古典学	演習	2	前期	水5	VASUDEVA, Somdev		文献文化学系70
1644005	インド古典学	演習	2	前期	木4	山口 周子		文献文化学系71
1644006	インド古典学	演習	2	後期	木4	芳原 綾子		文献文化学系72
1644007	インド古典学	演習	2	後期	水2	天野 恭子		文献文化学系73
1644009	インド古典学	演習	2	前期	火1	横地 優子,VASUDEVA,Klevanov		文献文化学系74
1644010	インド古典学	演習	2	後期	火1	横地 優子,VASUDEVA, Somdev,未定		文献文化学系75
M143001	インド古典学	演習	2	前期	火2	VASUDEVA, Somdev		文献文化学系76
M143002	インド古典学	演習	2	後期	火2	VASUDEVA, Somdev		文献文化学系77
1653001	インド古典学	講読	2	前期	月4	横地 優子		文献文化学系78
1653002	インド古典学	講読	2	後期	月4	天野 恭子		文献文化学系79
1653003	インド古典学	講読	2	前期	木3	Klevanov Andrey		文献文化学系80
1653006	インド古典学	講読	2	後期	火2	DEROCHE, Marc-Henri Jean		文献文化学系81
9616001	インド古典学	語学	4	通年	月4	山口 周子	大学院共通科目	文献文化学系82
9617001	インド古典学	語学	8	通年	月5,木5	Klevanov Andrey	大学院共通科目	文献文化学系83
9633001	インド古典学	語学	4	通年	金5	小松 久恵	大学院共通科目	文献文化学系84
9659001	インド古典学	語学	2	前期	火3	西岡 美樹	大学院共通科目	文献文化学系85
9660001	インド古典学	語学	2	後期	火3	西岡 美樹	大学院共通科目	文献文化学系86
1831001	仏教学	特殊講義	2	前期	水3	宮崎 泉		文献文化学系87
1831002	仏教学	特殊講義	2	後期	水3	宮崎 泉		文献文化学系88
1831003	仏教学	特殊講義	2	前期	火4	船山 徹		文献文化学系89
1831004	仏教学	特殊講義	2	後期	火4	船山 徹		文献文化学系90
1831005	仏教学	特殊講義	2	前期	木5	室寺 義仁		文献文化学系91
1831006	仏教学	特殊講義	2	後期	木5	室寺 義仁		文献文化学系92
1831010	仏教学	特殊講義	2	前期	金2	DEROCHE, Marc-Henri Jean		文献文化学系93
1831007	仏教学	特殊講義	2	後期	金2	DEROCHE, Marc-Henri Jean		文献文化学系94
1831008	仏教学	特殊講義	2	前期	木2	倉本 尚徳		文献文化学系95
1831009	仏教学	特殊講義	2	後期	木2	倉本 尚徳		文献文化学系96
1841001	仏教学	演習	2	前期	月4	宮崎 泉		文献文化学系97
1841002	仏教学	演習	2	後期	火3	宮崎 泉		文献文化学系98
1841003	仏教学	演習	2	前期	集中	加納 和雄		文献文化学系99
1841004	仏教学	演習	2	前期	水4	熊谷 誠慈		文献文化学系100
1841005	仏教学	演習	2	後期	水4	熊谷 誠慈		文献文化学系101
1841006	仏教学	演習	2	前期	火2	佐藤 直実		文献文化学系102
1841007	仏教学	演習	2	後期	月5	志賀 浄邦		文献文化学系103
1841008	仏教学	演習	2	前期	木4	山口 周子		文献文化学系104
1841009	仏教学	演習	2	後期	木4	芳原 綾子		文献文化学系105
1851001	仏教学	講読I	2	前期	木3	Klevanov Andrey		文献文化学系106
1853002	仏教学	講読II	2	後期	火2	DEROCHE, Marc-Henri Jean		文献文化学系107
9628001	仏教学	語学	2	前期	月1	高橋 慶治	大学院共通科目	文献文化学系108
9629001	仏教学	語学	2	後期	月1	高橋 慶治	大学院共通科目	文献文化学系109
9630001	仏教学	語学	2	前期	水1	宮崎 泉	大学院共通科目	文献文化学系110
9630002	仏教学	語学	2	後期	水1	宮崎 泉	大学院共通科目	文献文化学系111

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
3130002	西洋古典学	特殊講義	4	前期	金3,金4	高橋 宏幸		文献文化学系112
3131001	西洋古典学	特殊講義	2	前期	木2	河島 思朗		文献文化学系113
3131002	西洋古典学	特殊講義	2	後期	木2	河島 思朗		文献文化学系114
3141001	西洋古典学	演習	2	前期	水3	高橋 宏幸		文献文化学系115
3141002	西洋古典学	演習	2	後期	金3	平山 晃司		文献文化学系116
3141003	西洋古典学	演習	2	後期	水3	高橋 宏幸		文献文化学系117
3141004	西洋古典学	演習	2	前期	水5	高橋 宏幸		文献文化学系118
3141005	西洋古典学	演習	2	後期	水5	高橋 宏幸		文献文化学系119
3141006	西洋古典学	演習	2	前期	月5	河島 思朗		文献文化学系120
3141007	西洋古典学	演習	2	後期	月5	河島 思朗		文献文化学系121
3141008	西洋古典学	演習	2	前期	火3	早瀬 篤		文献文化学系122
3141009	西洋古典学	演習	2	後期	火3	早瀬 篤		文献文化学系123
3151001	西洋古典学	講読	2	前期	月3	河島 思朗		文献文化学系124
3151002	西洋古典学	講読	2	後期	月3	河島 思朗		文献文化学系125
3151003	西洋古典学	講読	2	前期	火2	山下 修一		文献文化学系126
3151004	西洋古典学	講読	2	後期	火2	山下 修一		文献文化学系127
3231001	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	2	前期	火4	堀口 大樹		文献文化学系128
3231002	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	2	後期	火4	堀口 大樹		文献文化学系129
3231003	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	2	後期	月3	中村 唯史		文献文化学系130
3231005	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	2	前期	月3	中村 唯史		文献文化学系131
3231006	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	2	後期	月4	有宗 昌子		文献文化学系132
3241001	スラブ語学スラブ文学	演習	2	前期	月4	中野 悠希		文献文化学系133
3241002	スラブ語学スラブ文学	演習	2	前期	火2	中村 唯史		文献文化学系134
3241003	スラブ語学スラブ文学	演習	2	後期	火2	中村 唯史		文献文化学系135
3241004	スラブ語学スラブ文学	演習	2	前期	木2	中村 唯史		文献文化学系136
3241005	スラブ語学スラブ文学	演習	2	後期	木2	中村 唯史		文献文化学系137
3241006	スラブ語学スラブ文学	演習	2	前期	金3	堀口 大樹		文献文化学系138
3241007	スラブ語学スラブ文学	演習	2	後期	金3	堀口 大樹		文献文化学系139
3241011	スラブ語学スラブ文学	演習	2	前期	金3,金4	Fedorova Anastasia	前期後半8週	文献文化学系140
3251003	スラブ語学スラブ文学	講読	2	前期	水3	中村 唯史		文献文化学系141
3251004	スラブ語学スラブ文学	講読	2	後期	水3	中村 唯史		文献文化学系142
3251005	スラブ語学スラブ文学	講読	2	後期	金4	帯谷 知可		文献文化学系143
9661001	スラブ語学スラブ文学	語学	2	前期	木4	Bogna Sasaki	大学院共通科目	文献文化学系144
9662001	スラブ語学スラブ文学	語学	2	後期	木4	Bogna Sasaki	大学院共通科目	文献文化学系145
9642001	スラブ語学スラブ文学	語学	2	前期	木5	Bogna Sasaki	大学院共通科目	文献文化学系146
9642002	スラブ語学スラブ文学	語学	2	後期	木5	Bogna Sasaki	大学院共通科目	文献文化学系147
9646001	スラブ語学スラブ文学	語学	2	後期	水2	中村 唯史	大学院共通科目	文献文化学系148
9647001	スラブ語学スラブ文学	語学	2	前期	水2	中村 唯史	大学院共通科目	文献文化学系149
3331001	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	前期	金4	川島 隆		文献文化学系150
3331002	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	後期	金4	松村 朋彦		文献文化学系151
3331005	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	前期	金3	河崎 靖		文献文化学系152
3331006	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	前期	木3	TRAUDEN, Dieter		文献文化学系153
3331007	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	後期	木3	TRAUDEN, Dieter		文献文化学系154
3331008	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	前期	火3	岡田 暁生		文献文化学系155
3331009	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	後期	火3	岡田 暁生		文献文化学系156
M181001	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	2	前期	火5	細見 和之		文献文化学系157
3345001	ドイツ語学ドイツ文学	演習III	2	前期	金5	松村 朋彦,川島 隆		文献文化学系158
3345002	ドイツ語学ドイツ文学	演習III	2	後期	金5	松村 朋彦,川島 隆		文献文化学系159
M183001	ドイツ語学ドイツ文学	演習	2	前期	水2	松村 朋彦		文献文化学系160
M183002	ドイツ語学ドイツ文学	演習	2	後期	水2	松村 朋彦		文献文化学系161
M183003	ドイツ語学ドイツ文学	演習	2	前期	水3	川島 隆		文献文化学系162
M183004	ドイツ語学ドイツ文学	演習	2	後期	水3	川島 隆		文献文化学系163
M183005	ドイツ語学ドイツ文学	演習	2	後期	火5	細見 和之		文献文化学系164
M191002	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	木1	廣田 篤彦		文献文化学系165
M191003	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	火3	佐々木 徹		文献文化学系166
M191004	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	月4	小林 久美子		文献文化学系167

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
M191005	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	月4	森 慎一郎		文献文化学系168
M191006	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	水4	谷口 一美		文献文化学系169
M191007	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	水4	谷口 一美		文献文化学系170
M191010	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	木5	西村 秀夫		文献文化学系171
M191011	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	木5	西村 秀夫		文献文化学系172
M191012	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	月3	出口 菜摘		文献文化学系173
M191013	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	水5	里内 克巳		文献文化学系174
M191014	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	月1	メドロック 麻弥		文献文化学系175
M191015	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	月5	吉田 恭子		文献文化学系176
M191016	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	木3	木島 菜菜子		文献文化学系177
M191017	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	木3	木島 菜菜子		文献文化学系178
M191018	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	金1	Karin L. Swanson		文献文化学系179
M191019	英語学英米文学	特殊講義	2	後期	金1	Karin L. Swanson		文献文化学系180
M191020	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	集中	南谷 奉良		文献文化学系181
M191021	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	集中	越智 博美		文献文化学系182
M191022	英語学英米文学	特殊講義	2	前期	集中	家入 葉子		文献文化学系183
M193001	英語学英米文学	演習	2	前期	金2	佐々木 徹		文献文化学系184
M193002	英語学英米文学	演習	2	後期	金2	佐々木 徹		文献文化学系185
M193003	英語学英米文学	演習	2	前期	火5	家入 葉子		文献文化学系186
M193004	英語学英米文学	演習	2	後期	火5	家入 葉子		文献文化学系187
M193005	英語学英米文学	演習	2	前期	木2	廣田 篤彦		文献文化学系188
M193006	英語学英米文学	演習	2	後期	木2	廣田 篤彦		文献文化学系189
M193007	英語学英米文学	演習	2	前期	水3	小林 久美子		文献文化学系190
M193008	英語学英米文学	演習	2	後期	水3	小林 久美子		文献文化学系191
M193009	英語学英米文学	演習	2	前期	月5	森 慎一郎		文献文化学系192
M193010	英語学英米文学	演習	2	後期	月3	森 慎一郎		文献文化学系193
3631001	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	後期	木2	永盛 克也		文献文化学系194
3631003	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	前期	木3	Raphaelle BRIN		文献文化学系195
3631004	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	後期	木3	Raphaelle BRIN		文献文化学系196
3631008	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	前期	水3	村上 祐二		文献文化学系197
3631010	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	後期	金2	森本 淳生		文献文化学系198
3631012	フランス語学フランス文学	特殊講義	2	後期	月3	伊藤 玄吾		文献文化学系199
3645003	フランス語学フランス文学	演習	2	前期	木4	Raphaelle BRIN		文献文化学系200
3645004	フランス語学フランス文学	演習	2	後期	木4	Raphaelle BRIN		文献文化学系201
M202001	フランス語学フランス文学	演習	4	通年	火4	永盛 克也,増田 眞,村上 祐二		文献文化学系202
M203001	フランス語学フランス文学	演習	2	前期	火3	Raphaelle BRIN		文献文化学系203
M203002	フランス語学フランス文学	演習	2	後期	火3	Raphaelle BRIN		文献文化学系204
3731001	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	前期	金2	菊池 正和		文献文化学系205
3731002	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	前期	月2	村瀬 有司		文献文化学系206
3731003	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	後期	月2	村瀬 有司		文献文化学系207
3731004	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	前期	水3	Ida Duretto		文献文化学系208
3731005	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	後期	水3	Ida Duretto		文献文化学系209
3731006	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	前期	水5	Ida Duretto		文献文化学系210
3731007	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	後期	水5	Ida Duretto		文献文化学系211
3731008	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	2	後期	金2	菊池 正和		文献文化学系212
3740001	イタリア語学イタリア文学	演習	4	通年	木1,木2	村瀬 有司,Ida Duretto		文献文化学系213
3741001	イタリア語学イタリア文学	演習	2	前期	金3	村瀬 有司		文献文化学系214
3741002	イタリア語学イタリア文学	演習	2	後期	金3	村瀬 有司		文献文化学系215
3741003	イタリア語学イタリア文学	演習	2	前期	火4	河合 成雄		文献文化学系216
3741004	イタリア語学イタリア文学	演習	2	後期	火4	河合 成雄		文献文化学系217
3764001	イタリア語学イタリア文学	外国語実習	1	前期	火3	Ida Duretto		文献文化学系218
3764002	イタリア語学イタリア文学	外国語実習	1	後期	火3	Ida Duretto		文献文化学系219

文献文化学系2

科目ナンバリング		G-LET10 61330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河村 瑛子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		芭蕉研究									
[授業の概要・目的]											
<p>俳諧は、俳句の源流とされる短詩型文芸である。近世初期、俳諧は文学ジャンルとして確立し、以来、急速な成熟と変容を遂げた。そのような俳諧史の変革に最も意識的に与した人物に、芭蕉がいる。芭蕉は、同時代より近現代に到るまで日本文学史上の重要人物とされており、文学・文化・思想における影響力は甚大である。本講義では、最新の研究状況を踏まえ、その文学的特性や表現上の妙味について実践的に把握することを目指す。</p> <p>前期は、芭蕉が意識的に取り組んだ文学形式である「俳文」を取り上げる。俳文史について概説した上で、芭蕉作品をいくつか取り上げて精読し、その生成過程を吟味しつつ、読解方法を講義する。関連資料の運用方法を学びながら、一字一句に込められた作意を繙くことで、作品を実証的に解釈する手法を身につける。</p> <p>後期は、芭蕉の作品と分かちがたく結びつく重要資料であり、俳文作品としても親しまれた芭蕉の書簡を取り上げる。書簡資料を扱う上での入門的な講義を行った上で、芭蕉書簡の読解に取り組む。関連する芭蕉の作品や、伝記上の問題、俳壇状況、芭蕉の思想・人間性など、俳諧史の諸問題と併せて解説し、芭蕉の文事を史的動態の中に位置づける。</p> <p>芭蕉は、文学作品・書簡を含めた「ふみ」の持つ力について、きわめて意識的な人物として特筆される。本講義の主体的な受講を通して、文学および文学研究の意味について、各自が考察を深めることを期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>芭蕉俳文の生成過程を理解し、関連資料を適切に運用しつつ、作品を精密に読解できるようになる。近世前期から中期にかけての俳諧史を把握し、その動態の中で、芭蕉文学の特性を説明できるようになる。くずし字の読解能力を身につけ、俳諧作品や書簡資料を読解できるようになる。テキストにおける良質な問題点を自ら発見し、それを実証的方法によって解決できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 芭蕉以前の俳文(1) 短編句文 3. 芭蕉以前の俳文(2) 紀行 4. 芭蕉の短編句文(1) 句文精読 5. 芭蕉の短編句文(2) 関連資料 6. 『幻住庵記』精読(1) 概説・冒頭 7. 『幻住庵記』精読(2) 入山 8. 『幻住庵記』精読(3) 眺望 9. 『幻住庵記』精読(4) 庵住生活 10. 『幻住庵記』精読(5) 末文・発句 11. 『笈の小文』精読(1) 概説・伊賀上野 12. 『笈の小文』精読(2) 伊勢 13. 『笈の小文』精読(3) 吉野 14. 『笈の小文』精読(4) 紀伊路 											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

15. 前期のまとめ
16. 書簡資料概説
17. 芭蕉の理解者：曲翠宛書簡（1）前半の精読
18. 芭蕉の理解者：曲翠宛書簡（2）後半の精読
19. 芭蕉の理解者：曲翠宛書簡（3）作品草稿としての芭蕉書簡
20. 猶子桃印：荊口宛書簡（1）前半の精読
21. 猶子桃印：荊口宛書簡（2）後半の精読
22. 猶子桃印：荊口宛書簡（3）門人との対話と芭蕉の句作
23. 芭蕉と近江俳壇：智月宛書簡（1）精読
24. 芭蕉と近江俳壇：智月宛書簡（2）芭蕉の支援者たち
25. 軽みの探求：去来宛書簡（1）前半の精読
26. 軽みの探求：去来宛書簡（2）中盤の精読
27. 軽みの探求：去来宛書簡（3）後半の精読
28. 軽みの探求：去来宛書簡（4）元禄俳壇と「軽み」
29. 総括
30. フィードバック

授業の進行度や受講者の理解度、新型コロナウイルスの感染拡大状況等によって、内容や順序等を変更する場合がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（30%）、小テスト（20%）、年度末のレポート（50%）による。平常点は、授業への参加度や、毎回提出されるコメント等によって評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。なお、新型コロナウイルスの感染拡大状況により、小テストを課題提出に変更する可能性がある。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
鈴木勝忠 『俳諧史要』（明治書院、1973）

【授業外学修（予習・復習）等】

版本・写本および書簡資料など文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。配付資料の予習・復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。くずし字を自在に読み解く力を身につけることは、各人の研究活動の幅を広げることとなる。また、書簡資料に馴染みのない場合、活字化された書簡集を読むなどして書簡の文体に親しむことが、読解能力の向上を支えるであろう。

俳諧は、和漢雅俗にわたる文化現象を取りこむ文芸であるから、日頃より幅広い読書を心がけることが望ましい。また、授業で扱わない芭蕉作品や、芭蕉以外の俳人の作品についても、積極的に読解を試みてほしい。講義内容を精緻かつ俯瞰的に理解する助けとなるはずである。

国語学国文学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系3

科目ナンバリング		G-LET10 61330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『文選』の文章を読む(李陵「答蘇武書」)									
【授業の概要・目的】											
<p>漢文を読むための基礎的な知識を習得し、それらを活用して実際の漢文を読み、その読解力を身につけることを最大の目的とする。最初は漢文とその読み方について概説をし、またテキストとなる『文選』について紹介する。</p> <p>その上で、実際の『文選』収録の文章として、李陵「答蘇武書(蘇武に答ふる書=手紙)」を読解する。その際、『文選』に附された唐の李善による注釈もあわせて読むことで、漢文読解における注釈の意義について考えてもらう。</p> <p>単純に漢文に興味を持つ人もいるであろうし、李陵については、中島敦「李陵」を読んだことがある人もいるかもしれない。この授業では、原典の読解を通して、色々な読解の可能性を出席者同士で討議することを重視する。そのため様々な興味関心から、多くの学生の参加を期待する。</p>											
【到達目標】											
<p>目標は下記の五点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、漢文を読むための基礎的な知識を習得する。 2、漢文読解における注釈の意義を理解できる。 3、注釈を活用しつつ、自ら出典を調べ、漢文を正確に読める。 4、出典を調べる際に活用する工具書、あたるべきテキストなどを整理できる。 5、自らの読解内容を、根拠を持って他者に提示しつつ議論することで、自らの読解を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>最初のうちは講義形式で進め、時にその内容の定着を見る問いを発し、それに出席者に答えてもらう。</p> <p>李陵「答蘇武書」を読む段階に入ってから、毎回の担当者を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。その際には、担当者以外の出席者の積極的な参画を望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 漢文の読み方：直読、訓読、現代語訳 3 漢文の読み方：典故について 4 漢文の読み方：注釈について 5 漢文の読み方：注疏について 6 漢文の読み方：対句、文体について 7 『文選』について：成立と受容 8 『文選』について：李善注と五臣注 9 ~ 30 李陵「答蘇武書」の読解と討議 <p>フィードバックの方法は授業時に指示する。</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点による（教員の発問に対する積極的な回答、訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加などを総合的に判断する）。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

基本的には学生が主役であるため、自身の意見を言うためには、相当な予習が必要である。また作成した訳注稿は、後日修正稿を提出してもらう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系4

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花は明治から昭和に涉って活躍した作家である。この授業では、主に鏡花文学の女性像や中国文学、前近代の文学に取材した作品を中心にモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。</p> <p>授業は事前に教員が講義内容の一部をPandAのリソースに置くので、受講生はそれを読んで質疑・意見を全体で5回(各回に締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員は次回の講義でそれに答える。期末にはレポートを提出する。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること、従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。他の受講生の多様な意見を受け入れ、適宜意見交換をしながらさらに自分の論点を深められること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>泉鏡花の研究において受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶべく、適宜講義内容に関する質問、意見、感想などを書いて貰う。教員は、それを踏まえて補足する。</p> <p>学生は、教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見を記入し、授業の際に提出する。</p> <p>全体の授業内容を踏まえて受講生各自でレポートを書く。なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。</p> <p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品 第2回 鏡花文学の女性像とモデル 湯浅茂 第3回 鏡花文学の女性像とモデル 目細照 第4回 鏡花文学の女性像とモデル 紅葉館のお富ほか 第5回 鏡花文学構造化の試み 第6回 中国文学の影響 - 中国文学の影響 明治三十年の随筆 第7回 中国文学の影響 - 中国文学の影響 明治三十年の雑記 第8回 中国文学の影響 - 明治四十年代以降の随筆雑記 - 第9回 中国文学の実作への影響 第10回 鏡花文学における「魔」の女性像 片輪車 第11回 鏡花文学における「魔」の女性像 瀧夜叉と飛天夜叉 第12回 鏡花文学における「魔」の女性像 安達ヶ原の一つ家と前の世 第13回 鏡花文学における「魔」の女性像 通り魔 第14回 鏡花文学における「魔」の女性像 美しい女の通り魔 第15回 まとめ</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

質問・意見の表明 5 割、レポート 5 割。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

[教科書]

PandAのリソースに資料や論文の一部、講義音声等を置く。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見等を記入し、授業の際に提出する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系5

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花は明治から昭和に涉って活躍した作家である。この授業では、主に鏡花が旅行で得た知見をどのように作品化したかや、前近代文学との関わり、子どもを視点とした作品の分析、さらに芥川龍之介や川端康成など鏡花に縁の深い作家との文学的交流、鏡花の単行本に関する書誌的考察を行う。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。</p> <p>授業は事前に教員が講義内容の一部をPandAのリソースに置くので、受講生はそれを読んで質疑・意見を全体で5回(各回に締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員は次回の講義でそれに答える。期末にはレポートを提出する。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること、従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。他の受講生の多様な意見を受け入れ、適宜意見交換をしながらさらに自分の論点を深められること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>泉鏡花の研究において受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶべく、適宜質問、意見などを提出して貰う。教員は、それを踏まえて補足する。</p> <p>学生は、教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文や論文を十分読み込み、質問や意見等を提出し、レポートを作成する。なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。</p> <p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品 第2回 「歌行燈」の舞台と素材 第3回 「歌行燈」の構成と主題 第4回 川端康成と泉鏡花 「雪国」と「歌行燈」 第5回 伊勢・志摩と鏡花文学 第6回 信州・飛騨と鏡花文学 第7回 「黒百合」「葉草取」の山中異界 第8回 「春昼」の山中異界 第9回 明治二十年代の子どもによる一人称小説 第10回 鏡花の子ども語り小説への影響 第11回 鏡花と芥川龍之介 第12回 鏡花と尾崎紅葉・谷崎潤一郎・辻潤・宮島資夫・安成貞雄・佐藤春夫 第13回 鏡花の単行本書誌の諸問題 概要 第14回 鏡花の単行本書誌の諸問題 特論 第15回 まとめ</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

質問・意見等の表明 5 割、レポート 5 割。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

【教科書】

使用しない

PandAのリソースに資料や論文の一部、講義音声等を置く。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見等を記入し、授業の際に提出する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系6

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 佐野 宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		国語史特殊研究									
【授業の概要・目的】											
<p>日本書紀・古事記の歌謡については、従来民俗学的観点からの分析によって多くの成果が示された。「古代歌謡」とも称されるその一群はその限りに於いて万葉集などの「古代和歌」とは別に扱われ、ときとして万葉集の作品群から「古代歌謡」的な要素を抽出することが試みられもしている。その議論は万葉歌に先行する民族的要素の強い記紀歌謡の存在という時代的な先後関係と、それに依拠した影響・受容関係を想定した分析である。しかしながら、後世に象られた「古代歌謡」という概念はそもそもが作業仮説であって、記紀という作品に縛られた以上に実体があるわけではない。さらに記紀編纂以前の伝承歌があったとしても、8世紀当時の彼らに我々の「古代歌謡」があるわけではない。そもそも影響関係が辿れるということは「古代歌謡」と「古代和歌」を同一次元に措いた議論であるが、そのことへの自覚的な分析は十分に試みられたとはいえないように思われる。この点で、記紀歌謡を万葉集の歌々と表現・修辞の方法という観点で同列に見なし、記紀歌謡の一群を万葉集に包摂するとどのように位置づけられるかを考えてみたい。この逆は用例数が異なるため記紀歌謡で万葉集を包摂することはあまり意味をなさない。結局、雑歌・相聞・挽歌があるということに落ち着くからである。すなわち記紀歌謡を古代和歌の次元で解釈することを試みるのが、本講義の目的である。方法は、従来の古典分析とさして変わらない。訓詁として文法史、語彙史の方法が行われるのは当然のことながら、とくに書紀歌謡については漢字音が問題になるため、音韻史、文字史、表記史についての知見が必要になる。日本語学文献講読論IIIと関連する国語学分野の科目を予め受講しておくことが望ましいが、並行して受講することも許容する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代日本和歌の淵源について基礎研究の成果を共有するとともに、新たな研究領域を構築することを目的として、次の2点を到達目標とする。1) 古代歌謡研究の現在について基本的な術語概念について簡潔に説明できること。2) 教養としての古代和歌史について基本的な研究史が説明できること。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 古事記概説 2 日本書紀概説 3 万葉集概説 4 調査研究法 5 古事記歌謡の特質 6 日本書紀歌謡の特質 7 「古代歌謡」について 8 実例演習 倭建尊命歌謡 9 実例演習 素盞烏尊歌謡 10 実例演習 風土記歌謡と東歌 11 歌謡の歌体について 長歌歌体沿革 12 歌謡の歌体について 旋頭歌体沿革 											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

13 実例演習 催馬楽、琴歌譜の課題

14 歌経標式の歌体理論について

15 日本語学・日本文学Iのまとめ

8回から10回は受講生に課題を与えるのでこれまでの議論を踏まえて実際に演習形式で研究発表をしてもらいます。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート試験70%、平常点30%によって評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。その採点基準は、問題設定30点、解決方法50点、結論20点の100点満点で評価する。なお口頭発表を受講者に求めることがあるが、これをもって平常点とする。

【教科書】

坂本信幸・毛利正守 『萬葉事始』(和泉書院)(レポート作成に使用するので購入しておくこと)
井手至 『校注萬葉集』(和泉書院)
大谷雅夫他 『萬葉集 一～四』(岩波書店)(岩波文庫本です。)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

次の2点を通常の授業外学習とする。1)参考文献として掲出している関連論文を要約して、研究史のレポートを作成すること。2)また配付資料を予め検討して講義中の質疑応答の準備をすること。

(その他(オフィスアワー等))

火曜日の13:00～14:00、木曜日の14:40～15:30まで。ただし、木曜日は会議が入りやすいので、事前に確認して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系7

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 佐野 宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		国語史特殊研究									
【授業の概要・目的】											
<p>日本書紀・古事記の歌謡については、従来民俗学的観点からの分析によって多くの成果が示された。「古代歌謡」とも称されるその一群はその限りにおいて万葉集などの「古代和歌」とは別に扱われ、ときとして万葉集の作品群から「古代歌謡」的な要素を抽出することが試みられもしている。その議論は万葉歌に先行する民族的要素の強い記紀歌謡の存在という時代的な先後関係と、それに依拠した影響・受容関係を想定した分析である。しかしながら、後世に象られた「古代歌謡」という概念はそもそもが作業仮説であって、記紀という作品に縛られた以上に実体があるわけではない。さらに記紀編纂以前の伝承歌があったとしても、8世紀当時の彼らに我々の「古代歌謡」があるわけではない。そもそも影響関係が辿れるということは「古代歌謡」と「古代和歌」を同一次元に措いた議論であるが、そのことへの自覚的な分析は十分に試みられたとはいえないように思われる。この点で、記紀歌謡を万葉集の歌々とを表現・修辞の方法という観点で同列に見なし、記紀歌謡の一群を万葉集に包摂するとどのように位置づけられるかを考えてみたい。この逆は用例数が異なるため記紀歌謡で万葉集を包摂することはあまり意味をなさない。結局、雑歌・相聞・挽歌があるということに落ち着くからである。すなわち記紀歌謡を古代和歌の次元で解釈することを試みるのが、本講義の目的である。方法は、従来の古典分析とさして変わらない。訓詁として文法史、語彙史の方法が行われるのは当然のことながら、とくに書紀歌謡については漢字音が問題になるため、音韻史、文字史、表記史についての知見が必要になる。日本語学文献講読論IIIと関連する国語学分野の科目を予め受講しておくことが望ましいが、並行して受講することも許容する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代日本和歌の淵源について基礎研究の成果を共有するとともに、新たな研究領域を構築することを目的として、次の2点を到達目標とする。1) 古代歌謡研究の現在について基本的な術語概念について簡潔に説明できること。2) 教養としての古代和歌史について基本的な研究史が説明できること。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 古事記概説(研究史) 2 日本書紀概説(研究史) 3 万葉集概説(研究史) 4 調査研究法(「初期万葉」と「記紀歌謡」その定義の在り方) 5 古事記歌謡の特質 6 日本書紀歌謡の特質 7 「古代歌謡」について(「歌の共有」がもたらすもの) 8 実例演習 担当者による演習 9 実例演習 担当者による演習 10 実例演習 担当者による演習 11 歌謡の歌体について 長歌歌体沿革 12 歌謡の歌体について 旋頭歌体沿革 											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

- 13 実例演習 催馬楽、琴歌譜の課題
- 14 歌経標式の歌体理論と万葉集内部にみる「歌病歌」の分布
- 15 まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート試験70%、平常点30%によって評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。その採点基準は、問題設定30点、解決方法50点、結論20点の100点満点で評価する。なお口頭発表を受講者に求めることがあるが、これをもって平常点とする。

【教科書】

坂本信幸・毛利正守 『萬葉事始』(和泉書院)
井手至 『校注萬葉集』(和泉書院)
大谷雅夫他 『萬葉集 一～四』(岩波書店)(岩波文庫です。)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

次の2点を通常の授業外学習とする。1)参考文献として掲出している関連論文を要約して、研究史のレポートを作成すること。2)また配付資料を予め検討して講義中の質疑応答の準備をすること。

(その他(オフィスアワー等))

火曜日の13:00～14:00、木曜日の14:40～15:30まで。ただし、木曜日は会議が入りやすいので、事前に確認して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系8

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 長谷川 千尋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		宗祇と兼載の歌学									
【授業の概要・目的】											
<p>日本の中世において、古典学の発展に大きく貢献した人物の一人が宗祇である。宗祇の連歌の弟子であった兼載は、宗祇とは歌学の道統を異にしなから、これもまた古典研究に大きな足跡を残した。しばしば対立することもあった両者の学説を比較することは、それぞれの歌学の本質を浮き彫りにすることにつながるだろう。本講義では、兼載の学説、特に『新古今抜書抄』のそれを中心に読み解き、如上の問題の解明に取り組む。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代中後期の歌学史、古注釈に関する基礎的な素養と資料の読解力を養う。 ・授業に関連する事柄に関して、独自に問題を設定し、考察する能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 兼載伝 2. 兼載の歌学の道統 3. 『新古今抜書抄』奥書の検討 4. 『新古今抜書抄』講読、関連諸注との比較検討（春、夏） 5. 『新古今抜書抄』講読、関連諸注との比較検討（秋、冬） 6. 『新古今抜書抄』講読、関連諸注との比較検討（賀～恋） 7. 『新古今抜書抄』講読、関連諸注との比較検討（雑、神祇） 8. 『自讃歌兼載注』と宗祇注（1） 9. 『自讃歌兼載注』と宗祇注（2） 10. 『自讃歌兼載注』と宗祇注（3） 11. 堯恵『藤川百首注』と兼載説 12. 堯恵『藤川百首注』と宗祇説 13. 兼載と宗祇の歌学 14. 兼載と宗祇の歌学と連歌(1) 15. 兼載と宗祇の歌学と連歌(2) 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>学期末レポートに拠り、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の視点で課題を設定し、実証的に結論を導き出しているものを高く評価する。</p>											
【教科書】											
使用しない プリント配布。											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

レポート課題のテーマの選定、調査、論述が中心となる

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系9

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 長谷川 千尋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		宗祇と兼載の万葉集研究									
【授業の概要・目的】											
<p>本年度前期の国文学特殊講義に引き続き、宗祇と兼載の歌学について、それぞれの『万葉集』研究に焦点を当てて考察する。具体的には、宗祇の『万葉集抄』、兼載の『万葉集百首聞書』に基づき、それぞれの注釈書の成立事情や学統、注説の特質の解明を試みる。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代中後期の歌学史、古注釈に関する基礎的な素養と資料の読解力を養う。 ・授業に関連する事柄に関して、独自に問題を設定し、考察する能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 宗祇と兼載の歌学 2. 宗祇の『万葉集』研究 3. 宗祇『万葉集抄』講読(1) 4. 宗祇『万葉集抄』講読(2) 5. 宗祇『万葉集抄』講読(3) 6. 宗祇『万葉集抄』講読(4) 7. 宗祇『万葉集抄』講読(5) 8. 兼載の『万葉集』研究 9. 兼載『万葉集百首聞書』講読(1) 10. 兼載『万葉集百首聞書』講読(2) 11. 兼載『万葉集百首聞書』講読(3) 12. 兼載『万葉集百首聞書』講読(4) 13. 兼載『万葉集百首聞書』講読(5) 14. まとめ 学期末試験 7. フィードバック 質問を受け付けます。詳細は講義中に説明します。 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験（筆記）に拠り、到達目標の達成度に基づき評価する。											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

定期試験の課題に向けての事前準備が中心となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系10

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 橋本 行洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		新語の造出と定着 近現代日本語における									
【授業の概要・目的】											
<p>日本語語彙の歴史について、語構成の観点を中心に、具体的事例に基づき述べる。その中で語史・語彙史研究の方法を理解するとともに、そのおもしろさに触れることを目的とする。</p> <p>特に新語や新用法がどのようにして生成され、受容されて行くのかについて、具体的な事例を掲げつつ、考察を行う。取り上げる語については、明治期の新漢語から現代の新語まで、複数のものを対象とするつもりであるが、個々の例に対してかなり細部にわたる分析を行う予定である。</p>											
【到達目標】											
<p>語史・語彙史研究に対する基本的研究方法の習得を目的とする。</p> <p>具体的には下記の事項に関わる知識と能力の獲得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的事実の把握 語の成立・定着とその要因 他の語と関わりを視野に入れた語彙史研究 日本語研究資料についての正確な知識 コーパス・データベースの活用 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 「語彙」とは何か</p> <p>第2回 「語彙体系」について</p> <p>第3回 「語基」「形態素」について</p> <p>第4回 近現代語における「-材」を後項とする二字漢語(1)「素材」</p> <p>第5回 近現代語における「-材」を後項とする二字漢語(2)「教材」</p> <p>第6回 近現代語における「-材」を後項とする二字漢語(3)「話材」</p> <p>第7回 近現代語における「-材」を後項とする二字漢語(4)「食材」</p> <p>第8回 「就活」の成立事情(1)「就職運動」から「就職活動」へ</p> <p>第9回 「就活」の成立事情(2)学校用語としての「特活」「学活」「部活」</p> <p>第10回 「就活」の成立事情(3)「部活」の類推としての「就活」</p> <p>第11回 「就活」からの派生語(1)「婚活」の産出と許容</p> <p>第12回 「就活」からの派生語(2)「-活」型語彙の大量生産</p> <p>第13回 造語法の問題(1)「略語」の構成と条件</p> <p>第14回 造語法の問題(2)「略語」か「形態素」か</p> <p>第15回 語構成の歴史に現代の新語を位置づける</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業時のコメント等（30％）レポート（70％）

【教科書】

使用しない
適宜、授業時に講義資料を配付する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
担当者がコピー配布できるものは授業中に配布する。不可能なものは各自図書館等でコピーするか、安価で入手しやすいものは購入すること。

（関連URL）

https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/index.html(国語に関する世論調査(文化庁))

【授業外学修(予習・復習)等】

配布した講義資料は、毎回の講義時に必ずすべて携行してくること。
配付資料には講義中に言及されない情報が含まれる場合もある。疑問のある場合には授業中、授業後に関わらず質問してよい。
受講者が授業担当者と問題意識を共有できるよう工夫して講義を行うつもりであるから、受講者各位はそのつもりで出席してほしい。

（その他(オフィスアワー等)）

授業時にメールアドレスを公開する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系11

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 橋本 行洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語食制語彙の体系とその変遷ーヨルゴハンのできるまで									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義における 食制語彙 というのは、現代で言えば 朝食 昼食 夕食 という“正式な食事”を指す語彙という意味である。</p> <p>本講義では、日本語の食制語彙の語構成、語彙体系とその史的変遷について考察を行い、日本語語彙史・語構成史上への位置づけを試みる。</p> <p>食事制度という文化史的側面を考察するとともに、日本語語彙史研究の具体的事例として、その方法論を提示したい。</p>											
【到達目標】											
<p>食制語彙 という題材を用いつつ、以下の知見を得ることを目標とする。</p> <p>語彙体系・語構成に関わる基本的な知識の習得 語の交替と語彙体系の変遷についての構造理解 語構成に関わる問題点の認識 言語接触とその際に生じる諸現象についての知見</p> <p>以上の事項を中心に、日本語語彙史研究に関わる総合的知識を得るとともに、言語に関わる問題点の発見と、それに対する分析・考察の力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 語彙 と 語彙体系</p> <p>第2回 語構成（語形成） について 形態素 語基 接辞 など</p> <p>第3回 日本語の食制語彙とその造語法 外国語との対照</p> <p>第4回 二食制 から 三食制 へ 食事回数の変遷</p> <p>第5回 古代における食制語彙 ケの時代：古記録・古辞書の記載を中心に</p> <p>第6回 中世における食制語彙 ケからメシへ：『日葡辞書』の記載を中心に</p> <p>第7回 近世における食制語彙 メシの時代：二食制から三食制へ</p> <p>第8回 近代における食制語彙 ゴハンの登場：『和英語林集成』の記載中心に</p> <p>第9回 食事回数の変化に伴う語彙体系の変遷</p> <p>第10回 ヌウ（夕）からヨル（ヨル）へ：「夜食」とは何か？</p> <p>第11回 ヌルゴハンの成立と展開：ヨルゴハンはいつ現れたか</p> <p>第12回 語構成の問題：ヨルを前項とする複合語</p> <p>第13回 古代語ヨルアルキ・近世語ヨルガオ等の存否</p> <p>第14回 ヌル型複合語の展開</p> <p>第15回 現代語におけるヨル-の造語力</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点30%、レポート70%

【教科書】

使用しない
講義中に適宜資料を配付する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する
担当者がコピー配布できるものは授業中に配布する。不可能なものは各自図書館等でコピーするか、安価で入手しやすいものは購入すること。

【授業外学修(予習・復習)等】

配布した講義資料は、毎回の講義時に必ず携行すること。
配付資料には講義中に言及されない情報が含まれる場合もある。疑問のある場合には授業中、授業後に関わらず質問してよい。
受講者が授業担当者と問題意識を共有できるよう工夫して講義を行うつもりであるから、受講者各位はそのつもりで出席してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業時に連絡先(メールアドレス)を通知する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系12

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪市立大学文学研究科 准教授 奥野 久美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代文学作品原稿の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>文学作品には、幸運にも作家直筆の原稿が揃って残されている場合がある。本講義では、文学作品を原稿で読むことで、その生成過程を研究する。文学作品を「読める」状態にするために必要なのは、本文校訂と注釈であるが、原稿の研究は本文校訂の基礎であるとともに、修正痕を調べ、草稿と見比べることで、生成過程を詳細に知ることができる。完成作品を読んだ鑑賞とは異なる、近代文学研究の面白さ、および、文学作品を後世に残すために必要な基礎研究の重要性を学び、身につけることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近代文学研究の基礎を修得する。 ・一般読者の目には触れない直筆稿、草稿類の研究により、作品をその成り立ちや背景に遡って考究することができるようになる。 ・講義を聴き、要点をつかみ、疑問点を整理して問題を発見し、レポート作成を通じて自ら研究し成果をまとめる能力を修得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 授業内容と評価方法等について</p> <p>第2回 芥川龍之介「鼻」の原稿</p> <p>第3回 「鼻」精読(1)</p> <p>第4回 「鼻」精読(2) 典拠など</p> <p>第5回 「鼻」草稿(1)</p> <p>第6回 「鼻」草稿(2)・小レポート</p> <p>第7回 芥川龍之介「山鳴」の原稿</p> <p>第8回 「山鳴」精読(1)</p> <p>第9回 「山鳴」精読(2) 典拠など</p> <p>第10回 「山鳴」草稿(1)</p> <p>第11回 「山鳴」草稿(2)</p> <p>第12回 「山鳴」と一高生のトルストイ受容・小レポート</p> <p>第13回 谷崎潤一郎「異端者の悲しみ」の原稿</p> <p>第14回 「異端者の悲しみ」精読(1)</p> <p>第15回 「異端者の悲しみ」精読(2)・小レポート</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加姿勢（15点）、小レポート（15点）、期末レポート（70点）により評価する。
5回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

山梨県立文学館編 『芥川龍之介資料集』（山梨県立文学館、1993年）（図書館所蔵のものを参照すること。）

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・講義で扱う作品については、事前に下読みをしておくこと。（文庫本や、ネット上のテキストでも可）
- ・一作品を読み終わるごとに小レポートを課すので、毎回の授業での疑問点などを復習としてまとめておき、小レポートに反映させること。

（その他（オフィスアワー等））

非常勤講師のため、授業時以外の連絡や質問はメールにて受け付ける。連絡先は授業時に伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系13

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪市立大学文学研究科 准教授 奥野 久美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代文学と講談本									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、近代文学と講談本との関わりについて研究する。講談本は、明治後半から昭和にかけて、大衆の娯楽であり、数多く出版されたが、多くは読み捨てられ、文学研究史上も長らく研究対象にされてこなかったが、近年は研究が進みつつある。芥川龍之介、菊池寛ら著名作家も講談本を下敷きに作品を書いており、本講義ではそれらを詳細に研究することで、近代文学作品を育てた豊饒な大地に古典文学や外国文学だけでなく、講談本などの大衆文芸までもが含まれていることを、明らかにし、近代文学研究の視野を広げることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近代文学研究の基礎を修得する。 ・原稿・初出資料や典拠の講談本の研究により、作品をその成り立ちや出典、背景に遡って考究することの重要性を理解する。 ・講義を聴き、要点をつかみ、疑問点を整理して問題を発見し、レポート作成を通じて自ら研究し成果をまとめる能力を修得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス：授業内容と評価方法等について</p> <p>第2回 講談本と近代文学</p> <p>第3回 芥川龍之介「鼠小僧次郎吉」と鼠小僧もの</p> <p>第4回 芥川龍之介「鼠小僧次郎吉」精読</p> <p>第5回 芥川龍之介「鼠小僧次郎吉」と「報恩記」</p> <p>第6回 「報恩記」について・小レポート</p> <p>第7回 鼠小僧ものと荒畑寒村の社会講談</p> <p>第8回 社会講談とは</p> <p>第9回 荒畑寒村「紀伊国屋文左衛門」(1)</p> <p>第10回 荒畑寒村「紀伊国屋文左衛門」(2)・小レポート</p> <p>第11回 菊池寛の戯曲「岩見重太郎」と芥川</p> <p>第12回 岩見重太郎もの講談本について</p> <p>第13回 菊池寛「岩見重太郎」精読(1)</p> <p>第14回 菊池寛「岩見重太郎」精読(2)</p> <p>第15回 まとめ・小レポート</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加姿勢（15点）、小レポート（15点）、期末レポート（70点）により評価する。
5回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

菊池寛 『父帰る・藤十郎の恋 菊池寛戯曲集』（岩波文庫、2016年）ISBN:9784003106341（購入は必須ではないが、授業内容に関連して参照を勧める。）

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・講義で扱う作品については、事前に文庫本等、または事前配布のプリントで下読みをしておくこと。
- ・一作品を読み終わるごとに小レポートを課すので、毎回の授業での疑問点などを復習としてまとめておき、小レポートに反映させること。

（その他（オフィスアワー等））

非常勤講師のため、授業時以外の連絡や質問はメールにて受け付ける。連絡先は授業時に伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系14

科目ナンバリング		G-LET10 61331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 豊島 正之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		キリシタン語学									
【授業の概要・目的】											
16世紀後半に来日したイエズス会による日本語研究は、「キリシタン語学」と呼ばれる国語学の一分野を成すが、本講義では、より広く、当時の非ラテン語系言語との言語学的邂逅が生んだ語学研究を研究対象とする「宣教に伴う言語学」Missionary linguisticsの視点から、日本イエズス会の日本語研究を取り扱う。											
【到達目標】											
1. キリシタン語学の特徴を理解し、代表的な文献の知見を得る。 2. キリシタン語学の諸文献を日本語の歴史に関する研究に応用する際の問題点を理解する。 3. キリシタン語学を、「宣教に伴う言語学」として捉え直す視点を獲得する。											
【授業計画と内容】											
集中講義。 1. イエズス会教育に於けるラテン文典の位置 2. ラテン文典とパラダイム 3. 主語と格(1) 4. 主語と格(2) 5. イエズス会以外の文法記述 6. 記述者の問題(1) M. Barreto, D. Collado 7. 記述者の問題(2) J. Rodriguez・音韻記述 8. イエズス会の辞書とイベリア半島の辞書(1) 9. イエズス会の辞書とイベリア半島の辞書(2) 10. キリシタン版の印刷史(1) 11. キリシタン版の印刷史(2) 12. 仮名漢字表記の規範 13. 写本 14. 翻訳(1) 15. 翻訳(2)											
【履修要件】											
特になし											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポートに拠る。内容・提出方法は、講義形態に依存するので、集中講義期間が近付いてから、指示する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

丸山徹 『キリシタン世紀の言語学』(八木書店,2020) ISBN:9784840622448

豊島正之 『キリシタンと出版』(八木書店,2013) ISBN:9784840622073

(関連URL)

<https://joao-roiz.jp/mtoyo/K>

[授業外学修(予習・復習)等]

講義用の資料は、pdfで上記のURLに逐次掲載し、(対面講義の場合も)紙での頒布は行なわない事を原則とする。事前に見し、必要があれば各自印刷する事。
質問などに基づいて資料を改編した場合は、その旨通知する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系15

科目ナンバリング		G-LET10 71340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河村 瑛子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『俳諧類船集』研究									
[授業の概要・目的]											
<p>過去の文献に記されたことがらを正確に理解するためには、言葉の精密な意味合いと、その背後にある世界観を把握することが肝要である。近世前期に花開いた古俳諧は、文学史上初めて、豊富な俗語の資料を残してくれた。本演習では、古俳諧が齎した史上最大の連想語辞書『俳諧類船集』の読解を通して、古人の精神世界に分け入りたい。</p> <p>本書に記された連想語群は、日本人の伝統的な共通認識を反映しており、しかも、和漢雅俗にわたる浩瀚な内容を含んでいる。たとえば「語る」の項目を見ると、その連想語として、浄瑠璃、平家、みどり子、謡、梓神子、盗人、遊女などが挙げられている。これを眺めるだけで、「語る」と「話す」とがどう違うのかといった言葉の原義から、物語や歴史叙述の根源的な問題にまで想像が膨らんでくるだろう。本演習では、『類船集』の連想語のネットワークを分析する方法とその意義について実践的に学ぶ。</p> <p>本演習では、はじめに教員による概説的講義を行い、以後は受講者の発表によって進める。具体的には、本書の見出語と連想語との関係性を文献上の根拠にもとづいて考察し、そこから浮かび上がる問題点を受講者全員で吟味することによって、言葉の深奥に迫る。</p> <p>この授業は、古文献の基礎的な調査・読解の方法を習得し、文学・語学・文化における良質な問題点を発見するための思考を養う場である。近世文学研究の立場にとどまらず、様々な角度から取り組むことが可能であろう。本演習が受講者各々の専門的研究へとつながる視座を獲得する機会となることを期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>くずし字読解能力と、和本の基本的な扱い方を身につける。多様な資料の性格を把握し、古文献を適切に運用できるようになる。テキストを実証的に解釈する方法を習得する。自ら良質な問題点を発見し、それを適切な方法によって解決できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 『俳諧類船集』概説 3. 和装本の扱い方について 4. 受講者による発表と討議 (1) 「鳩」条・前半 5. 受講者による発表と討議 (2) 「鳩」条・後半 6. 受講者による発表と討議 (3) 「はね」条 7. 受講者による発表と討議 (4) 「初音」条 8. 受講者による発表と討議 (5) 「蠅」条・前半 9. 受講者による発表と討議 (6) 「蠅」条・後半 10. 受講者による発表と討議 (7) 「蜂」条 11. 受講者による発表と討議 (8) 「蛤」条 12. 受講者による発表と討議 (9) 「鉢扣」条 13. 受講者による発表と討議 (10) 「博士」条 14. 受講者による発表と討議 (11) 「祝子」条 											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

- 15.受講者による発表と討議 (12) 「坊主」条
- 16.受講者による発表と討議 (13) 「化物」条
- 17.受講者による発表と討議 (14) 「機織」条
- 18.受講者による発表と討議 (15) 「肌」条
- 19.受講者による発表と討議 (16) 「腹」条
- 20.受講者による発表と討議 (17) 「腹立」条
- 21.受講者による発表と討議 (18) 「腹巻」条
- 22.受講者による発表と討議 (19) 「腹帯」条
- 23.受講者による発表と討議 (20) 「腹当」条
- 24.受講者による発表と討議 (21) 「母」条
- 25.受講者による発表と討議 (22) 「はらむ」条
- 26.受講者による発表と討議 (23) 「鼻」条・前半
- 27.受講者による発表と討議 (24) 「鼻」条・後半
- 28.受講者による発表と討議 (25) 「歯」条
- 29.総括
- 30.フィードバック

受講者の理解の度合いや発表の進行度、新型コロナウイルスの感染拡大状況等によって、予定を変更する場合がある。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業への参加度(20%)、発表(40%)、年度末のレポート(40%)による。発表・レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを配付する。

[参考書等]

(参考書)

頼原退蔵『頼原退蔵著作集 第16巻 近世語研究』(中央公論社) ISBN:4124012012
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

発表担当者はもちろん、受講者全員が該当箇所を十分に予習し、自身の見解を持って授業に臨むこと。授業では版本・写本および文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。授業で扱う資料の予習復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。『類船集』の注釈研究においては、古俳諧をはじめとした和漢の古典文学作品はもとより、近世期の随筆類、歴史資料や図像資料、時には民俗学・文化人類学など隣接諸学の成果をも参照することが求められる。専門分野にかかわらず、日頃から広い分野の読書を心がけること。

国語学国文学(演習)(3)へ続く

国語学国文学(演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系16

科目ナンバリング		G-LET10 71340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 田中 草大			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		平安時代語の分析：語義の分類・記述									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習は、「平安時代語の語義の分類・記述」を通じて、日本語の歴史的研究の基本的なノウハウを習得することを目的とします。</p> <p>ある語の語義・用法を分類するためには、その語の用例をなるべく多く収集する必要がありますが、用例の収集には複数の手段があり、それぞれに長所と短所があります。また、用例は全て等質に扱って良いわけではなく、位相・文体上のバリエーション等について理解しておく必要があります。各受講生の発表に先立って、これらのことについて講義形式で概説します。</p> <p>なお評価に際しては、調査・分類が適切に行われているかという点と共に、それらを適切にアウトプットできているか（口頭発表・文章の形で）という点も大いに重視します。研究活動においては、適切な表現や、引用のルールなど、遵守・留意の必要な事項が幾つかあります。このことの要点についても演習中に説明します。自分の知識や経験を適切にアウトプットする能力は、日本語学研究に限らず社会の幅広い局面において有用と考えられます。</p>											
【到達目標】											
<p>(イ) 日本語学研究における用例の集め方・扱い方を身につける。</p> <p>(ロ) 多数の実例に基づいて語の特徴を適切に記述できる。</p> <p>(ハ) 自分の知識や経験を適切にアウトプットできる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：講義（発表準備の方法について）</p> <p>第3・4回：講義（平安時代語の語彙・文体）</p> <p>第5～29回：受講生による発表</p> <p>第30回：フィードバック（講評等）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点および期末課題による（100％）。</p> <p>演習では、自分の発表だけでなく他人の発表も学習の大きな機会です。欠席はなるべく控えて下さい。特に、無断欠席は大幅な減点とします。</p>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：古語辞典などによって対象語の基礎知識を得る。
復習：発表中に指摘された注意点などを確認し、今後の発表に援用する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系17

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を精読してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。 ・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。 ・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の王建「綺岫宮」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 王建「綺岫宮」											
第3回 李洞「送三蔵帰西域」											
第4回 王昌齡「長信秋詞」											
第5回 陳羽「呉城覧古」											
第6回 于鵠「江南意」											
第7回 孟遲「閑情」											
第8回 鄭谷「曲江春草」											
第9回 崔魯「山路見花」											
第10回 岑参「逢入京使」											
第11回 韓コウ「送客之上党」											
第12回 司空曙「病中遣妓」											
第13回 王建「華清宮」											
第14回 杜牧「宣州開元寺」											
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
【履修要件】											
国語学国文学専修所属の大学院生に限る。											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業内での担当、発言）60%および期末の訳注稿提出40%による。

[教科書]

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

[参考書等]

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）ISBN:0198-260129-0042

[授業外学修（予習・復習）等]

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系18

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を読解してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。 ・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。 ・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の杜牧「山行」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 杜牧「山行」											
第3回 張喬「寄山僧」											
第4回 張テイ「寄人」											
第5回 雍陶「過南隣花園」											
第6回 杜牧「宮詞」											
第7回 杜牧「漢江」											
第8回 張喬「寄維揚故人」											
第9回 僧法振「逢友人之上都」											
第10回 顧況「山中」											
第11回 柳宗元「酬曹侍御過象泉見寄」											
第12回 李涉「宿武関」											
第13回 李涉「題開聖寺」											
第14回 李郢「宿虚白堂」											
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
【履修要件】											
国語学国文学専修所属の大学院生に限る。											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業内での担当、発言）60%および期末の訳注稿提出40%による。

[教科書]

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

[参考書等]

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）ISBN:0198-260129-0042

[授業外学修（予習・復習）等]

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系19

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 本井 牧子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『地蔵菩薩靈驗絵詞』精読									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、宋代に撰述された『地蔵菩薩像靈驗記』を和化した絵巻『地蔵菩薩靈驗絵詞』を題材として、中国で撰述された仏教説話の日本における受容と展開の様相を具体的にあきらかにすることを目標とする。</p> <p>宋代に常謹という僧侶によって編まれた『地蔵菩薩像靈驗記』は、地蔵菩薩の像にまつわる靈驗譚を集成したものである。日本に写本が伝存しており、説話集や唱導文献に引かれるなど、中世の地蔵信仰に大きな影響を及ぼしたことが知られている。この靈驗記を和訳し絵巻に仕立てたのが『地蔵菩薩靈驗絵詞』である。本授業では、この『地蔵菩薩靈驗絵詞』をテキストとして、原拠の『地蔵菩薩像靈驗記』と比較しつつ読み進めることで、中国の靈驗譚が日本でどのように受容され、絵巻として再生産されているかを考察する。本授業では絵巻の前半部分を扱う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・影印をもとに、翻刻・語釈を施し、通釈を作成するという、古典文学作品の読解のための基礎作業を行う手法を習得する。 ・日本と中国の文献の比較を行いながら、問題を設定し、調査・考察を行う力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>担当教員による概説の後、受講生による輪読形式で進める。各回の担当者は、担当部分について、翻刻・語釈・通釈を作成し、原拠との比較を通じた考察を行う。</p> <p>第1回 宋 常謹撰『地蔵菩薩像靈驗記』・『地蔵菩薩靈驗絵詞』概説 第2回 『地蔵菩薩像靈驗記』の古写本 第3回 『地蔵菩薩靈驗絵詞』諸本 第4回～第14回 担当者による輪読 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発表およびその成果をまとめたレポート、発表者へのコメントにより総合的に評価する。											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない
写本の影印をテキストとして配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

自分の担当の準備はもちろん、担当以外の回についても、あらかじめテキストを読んで問題点を抽出しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

連絡方法などはPandAに掲載予定

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系20

科目ナンバリング		G-LET10 71341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 本井 牧子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『地蔵菩薩靈驗絵詞』精読									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、宋代に撰述された『地蔵菩薩像靈驗記』を和文化した絵巻『地蔵菩薩靈驗絵詞』を題材として、中国で撰述された仏教説話の日本における受容と展開の様相を具体的にあきらかにすることを目標とする。</p> <p>宋代に常謹という僧侶によって編まれた『地蔵菩薩像靈驗記』は、地蔵菩薩の像にまつわる靈驗譚を集成したものである。日本に写本が伝存しており、説話集や唱導文献に引かれるなど、中世の地蔵信仰に大きな影響を及ぼしたことが知られている。この靈驗記を和訳し絵巻に仕立てたのが『地蔵菩薩靈驗絵詞』である。本授業では、この『地蔵菩薩靈驗絵詞』をテキストとして、原拠の『地蔵菩薩像靈驗記』と比較しつつ読み進めることで、中国の靈驗譚が日本でどのように受容され、絵巻として再生産されているかを考察する。本授業では絵巻の後半部分を扱う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・影印をもとに、翻刻・語釈を施し、通釈を作成するという、古典文学作品の読解のための基礎作業を行う手法を習得する。 ・日本と中国の文献の比較を行いながら、問題を設定し、調査・考察を行う力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>担当者教員による概説の後、受講生による輪読形式で進める。各回の担当者は、担当部分について、翻刻・語釈・通釈を作成し、原拠との比較を通じた考察を行う。</p> <p>第1回 宋 常謹撰『地蔵菩薩像靈驗記』・『地蔵菩薩靈驗絵詞』をめぐる諸問題 第2～第3回 地蔵菩薩靈驗記・社寺縁起の諸相 第4回～第14回 担当者による輪読 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発表およびその成果をまとめたレポート、発表者へのコメントにより総合的に評価する。											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない
写本の影印をテキストとして配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

自分の担当の準備はもちろん、担当以外の回についても、あらかじめテキストを読んで問題点を抽出しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

連絡方法などはPandAに掲載予定

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系21

科目ナンバリング		G-LET10 7M112 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 田中 草大			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	木5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		研究史を共有・活用する									
【授業の概要・目的】											
<p>日本語学・日本文学の先行研究を共有し、それを各自の研究に活用します。</p> <p>前期では、日本語学・日本文学に関する様々なトピックから毎回1つを選び、各自がそのトピックに関する先行研究を持ち寄ります。代表者(その回のトピックの提案者)が、持ち寄られた先行研究を総括します。</p> <p>後期では、各参加者が前期の学習を踏まえて論文を作成・提出し、参加者でそれを議論します。発表者は「先行研究を踏まえて論ずる」「学術的に適切なプロセスにより論ずる」「読み手がストレスなく読めるように書く」、他の参加者は「論文を批判的に読み、疑問点を明確化する」「その論文の向上のために建設的なコメントをする」、といった研究スキルの向上を目指します。</p>											
【到達目標】											
<p>(イ) 先行研究を適切に読解できる。</p> <p>(ロ) 自分の論考を適切にアウトプットできる。</p> <p>(ハ) 他者の論文を批判的に読み、建設的なコメントができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス1、各回の代表者決め</p> <p>第2回：ガイダンス2、各回のトピック決め</p> <p>第3～29回：ディスカッション</p> <p>第30回：フィードバック(講評等)</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点および期末課題による(100%)。</p> <p>演習では、自分の発表だけでなく他人の発表も学習の大きな機会です。欠席はなるべく控えて下さい。特に、無断欠席は大幅な減点とします。</p>											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>(参考書)</p> <p>授業中に紹介する</p>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：（前期）次回のトピックに関わる論文を探し、まとめる。

（後期）次回の論文を読み込み、疑問点などを明確化する。

復習：発表中に指摘された注意点などを確認し、今後の発表に援用する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系22

科目ナンバリング		G-LET10 7M112 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金光 桂子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		国文学作品精読									
[授業の概要・目的]											
国文学のさまざまな作品を取り上げ、詳細な注釈を施しつつ本文を精読する。											
[到達目標]											
作品の本文を正確、精密に読み込むことから問題点を発見する能力と、その問題点を適切な方法によって解決し作品の読みへ還元する能力とを養う。											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨン											
第2回～第30回 作品精読 どの作品のどの部分を読むか、底本に何をを用いるかは毎回の担当者が決定し、テキストを事前に受講者に配布する。担当者の準備した注釈と考察をもとに、全員で議論を行う。 担当者の専門分野の特性や研究の進捗状況によっては、研究発表の形式も可とすることがある。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
発表50点、授業中の発言等50点。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
事前配布されたテキストを熟読し、解釈上の問題点を発見しておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系23

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		国語学国文学（修論演習） Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科	教授	金光	桂子
								文学研究科	准教授	河村	瑛子
								文学研究科	講師	田中	草大
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		修士論文演習									
【授業の概要・目的】											
<p>修士論文の執筆にむけての指導を行う。論文の題目を何にするか、どのような方法で資料を集め、分析し、そこからどのような結論を導くか、各自工夫し、考えたことを発表し、相互批判し、また教員の指導を受ける機会とする。修士論文を提出する予定の二回生は、かならず受講し、中間発表会で発表しなければならない。</p>											
【到達目標】											
<p>修士論文作成のための、それぞれの分野における資料を調査する方法を身に付け、また中間発表で論文の概要を口頭発表し、他の出席者、教員の助言をうけることにより、論証の方法を反省し、修正することが可能になる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>最初の授業時に、全員、どのような修士論文を書こうとしているか、概略を発表する。その後は個別の指導を行い、前期の授業が終わる頃に、数日間の日程をとって集中的に中間発表会を行う。</p>											
【履修要件】											
<p>今年度末に修士課程修了見込みの者。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>中間発表による。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない</p>											
----- 国語学国文学（修論演習）(2)へ続く -----											

国語学国文学（修論演習）（2）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

最初の時間に、各自が修士論文に何を書くかその概要を発表するが、十分な準備をした上で臨むこと。また、中間発表では、論証のための調査と考察に力を尽くすことはもちろんのこと、限られた時間内において分かりやすい発表をするために原稿を準備し、発表の練習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系24

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		漢籍目録法									
【授業の概要・目的】											
漢籍目録の作成要領を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。											
【到達目標】											
各種の漢籍目録（データベースを含む）の構造や内容を読み取る力をつけることにより、目的や用途に応じて必要な漢籍をすぐに検索できるようになる。											
【授業計画と内容】											
漢籍の目録法、書誌情報の採取について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることがあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 漢籍の定義（漢籍と目録の関係） 第3回 カード作成の目的（書誌の基本） 第4回 書名（表題の確定） 第5回 書名（合刻と合綴） 第6回 書名（漢籍の同定） 第7回 巻数（書誌の特徴） 第8回 撰者（書籍への関与の形態） 第9回 撰者（書籍に関与した人物の情報） 第10回 鈔刻（複製の手法） 第11回 鈔刻（刊行年と出版者） 第12回 鈔刻（底本の表示） 第13回 鈔刻（特殊な情報） 第14回 叢書・増出・地志カードの作成 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。 評価の6割はレポート、4割は平常点による。 レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

清水茂 『中国目録学』 (筑摩書房) ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』 (白帝社) ISBN:9784891746346

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編集 『漢籍目録 カードのとりかた』 (朋友書店) ISBN:9784892811067

(関連URL)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/toho/html/top.html>(東方学デジタル図書館)

[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80\(%E8%B3%87%E6%96%99\).pdf](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80(%E8%B3%87%E6%96%99).pdf)(漢籍目録入門(資料)(中里見敬氏))

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/130672/1/kogusho.pdf>(工具書について 漢籍の整理 (永田知之))

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/106/0/106_1493/_pdf/-char/ja(漢籍整理備忘録 中国の古典籍・古文書の理解のために (小島浩之氏))

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。

担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。

メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系25

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		漢籍分類法									
【授業の概要・目的】											
四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。											
【到達目標】											
書物の分類を通じて漢字文化の特徴を理解することにより、西洋近代に由来する学術の枠組みを超えた幅広い視野を養う。											
【授業計画と内容】											
『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説すると共に、漢籍に関わる諸事象を紹介する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。											
第1回 ガイダンス											
第2回 経部・概説											
第3回 経部・五経等（経注疏合刻類～春秋類）											
第4回 経部・四書等（四書類～小学類）											
第5回 史部・概説											
第6回 史部・叙述形式（正史類～載記類）											
第7回 史部・制度、伝記、地理（詔令奏議類～政書類）											
第8回 史部・資料、史論（書目類～史評類）											
第9回 子部・概説											
第10回 子部・思想、技術（儒家類～術数類）											
第11回 子部・趣味、宗教（芸術類～道家類）											
第12回 集部・概説											
第13回 集部・各論											
第14回 叢書部											
第15回 まとめ											
フィードバックの方法については、授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社）ISBN:9784891746346

吉川幸次郎 『吉川幸次郎遺稿集 第1巻』（筑摩書房）ISBN:4480746412

程千帆・徐有富著、向嶋成美・大橋賢一・樋口泰裕・渡邊大訳 『中国古典学への招待 目録学入門』（研文出版）ISBN:9784876364091

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/65024>(京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧：部-類-属-目-例)

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/refguide/13216>(漢籍の探し方（大西賢人氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系26

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		唐代詩序選読									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、唐代に勃興し、中国文学史に定着した詩序について、作品読解を通してその特色を理解することを目的とする。本講義では、東アジア古典文学としての観点から、中国で作られた詩序作品ばかりでなく、日本で作られた詩序も取り上げる。特に奈良から平安時代の詩序作品についても取り上げたい。											
【到達目標】											
詩序は、中国文学の散文の主要なジャンルである。読解を通して、中国文学と当時の社会の関わりについて理解を深めることが可能である。また日本において漢文で作られた詩序を読むことによって、東アジア古典世界の広がりをも具体的に理解することができる。											
【授業計画と内容】											
第1 詩序というジャンルについて 第2 詩序の役割・用途。 第3 唐以前の詩序 第4 唐代の詩序の文体。駢文と古文 第5 唐代の詩序の役割1 第6 唐代の詩序の役割2 第7 詩序の広がり 第8 作品選読・初唐1 第9 作品選読・初唐2 第10 作品選読・日本における詩序作品 第11 作品選読・盛唐1 第12 作品選読・盛唐2 第13 詩序と関連ジャンル。詩、啓など 第14 作品選読・中唐 第15 まとめ・日中古典世界に於ける詩序											
【履修要件】											
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発言と、報告に基づいて評価する。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『駢文史序説』 (研文出版) ISBN:978-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』 (創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

[授業外学修(予習・復習)等]

平仄についての基本的な知識を得ておくこと。

中国の散文の歴史について、基本的な知識を得ておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系27

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		唐代詩序選読									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、唐代に勃興し、中国文学史に定着した詩序について、作品読解を通してその特色を理解することを目的とする。本講義では、東アジア古典文学としての観点から、中国で作られた詩序作品ばかりでなく、日本で作られた詩序も取り上げる。特に奈良から平安時代の詩序作品についても取り上げたい。											
【到達目標】											
詩序は、中国文学の散文の主要なジャンルである。読解を通して、中国文学と当時の社会の関わりについて理解を深めることが可能である。また日本において漢文で作られた詩序を読むことによって、東アジア古典世界の広がりをも具体的に理解することができる。											
【授業計画と内容】											
第1 詩序について概説 第2 詩序の文体（駢文と古文） 第3 詩序の用途、詩序の場 第4 作品選読1・中唐1 第5 作品選読2・中唐2 第6 作品選読3・中唐3 第7 作品選読4・平安朝の詩序 第8 中唐の詩序の特色。 第9 作品選読5・晩唐1 第10 作品選読6・晩唐2 第11 作品選読7・晩唐3 第12 晩唐の詩序の特色。 第13 詩序の役割とその変容。 第14 唐以降の詩序概説 第15 まとめ詩の場と詩序											
【履修要件】											
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発言と、報告に基づいて評価する。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『『駢文史序説』(研文出版) ISBN:978-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』(創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

[授業外学修(予習・復習)等]

中国の散文文体について基本的な知識を得ておくこと

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系28

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中近世中国語音史									
【授業の概要・目的】											
<p>中国語は中世、唐朝がユーラシア東方に広大な版図を築いて国際語として通用したのに伴い、漢字音の移植や借用を通じて周辺諸民族の言語に多大な影響を与え、それらの文献上に記録を残した。近世に至ると、現代の標準語（普通話）で標準音とされる北京語音をはじめとする北方方言の諸特徴を備えた音韻的変種が姿を見せ始める。</p> <p>本授業では、これら中世から近世への移行期の諸文献を読み解き、中近世間の中国語音の歴史的変遷を跡づけることを通じて、文献資料が豊富に残る言語での通時言語学の方法を実践的に学ぶ。はじめに、基準となる中世（中古）中国語音と近世中国語音を反映する資料とその音韻体系について概説したのち、中近世間の中国語音を記録する各種文献に基づきその時代の中国語の声母・韻母・声調の様相について論じる。扱う資料はチベット・コータン・ウイグル等との対音資料や日本・朝鮮・ベトナムに伝承される漢字音、韻図・反切資料、また現代諸方言など様々であるが、とりわけ近年解読が進む契丹文字文献に反映される中国語音に注目する。</p> <p>中国語音の歴史的変遷は、中国語史を研究する者のもとより、中国周辺の諸言語・諸文献を研究する者にとっても知っておくべき基礎知識であるが、とりわけこの時期の中国語音韻史は現代北京語の起源に直結するものであり、現代中国語を研究する者にとっても有用な知識を提供するだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・中国音韻学に特有の術語・概念を理解し、言語研究の多様な視点を養う ・多様な文献資料を利用して言語音の通時的变化を研究する方法を習得する 											
【授業計画と内容】											
<p>前期は以下のトピックについて扱う。ただし、受講者の背景知識等に応じて内容を一部変更する場合があります。</p> <p>〔第1部〕基礎編</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 中国語の音韻構造と現代北京音</p> <p>第3回 中古音概説(1)：韻書・反切・韻図</p> <p>第4回 中古音概説(2)：『切韻』の韻母・声調体系</p> <p>第5回 中古音概説(3)：『切韻』の声母体系</p> <p>第6回 中古音概説(4)：唐代中期の長安音</p> <p>第7回 近世音概説：元代の大都音</p> <p>〔第2部〕声母編</p> <p>第8回 中近世諸文献概説</p> <p>第9回 清濁論(1)：唐代音の清濁と近世への変化</p> <p>第10回 清濁論(2)：中近世諸文献における全濁音</p> <p>第11回 清濁論(3)：中近世諸文献における次濁音</p> <p>第12回 五音論(1)：唇牙喉音に関する諸問題</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

第13回 五音論(2)：舌歯音に関する諸問題

第14回 声母総論

第15回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（小レポートや授業への参加状況）（50%）および期末レポート（50%）による。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する

【参考書等】

（参考書）

牛島徳次・香坂順一・藤堂明保編 『中国文化叢書 1 言語』（大修館書店、2011年新装版）ISBN: 9784469232646

【授業外学修（予習・復習）等】

特に第1部で扱う術語・概念はその後の授業に必須の知識なので、定着するまで復習してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系29

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 大竹 昌巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中近世中国語音史									
【授業の概要・目的】											
<p>中国語は中世、唐朝がユーラシア東方に広大な版図を築いて国際語として通用したのに伴い、漢字音の移植や借用を通じて周辺諸民族の言語に多大な影響を与え、それらの文献上に記録を残した。近世に至ると、現代の標準語（普通話）で標準音とされる北京語音をはじめとする北方方言の諸特徴を備えた音韻的変種が姿を見せ始める。</p> <p>本授業では、これら中世から近世への移行期の諸文献を読み解き、中近世間の中国語音の歴史的変遷を跡づけることを通じて、文献資料が豊富に残る言語での通時言語学の方法を実践的に学ぶ。はじめに、基準となる中世（中古）中国語音と近世中国語音を反映する資料とその音韻体系について概説したのち、中近世間の中国語音を記録する各種文献に基づきその時代の中国語の声母・韻母・声調の様相について論じる。扱う資料はチベット・コータン・ウイグル等との対音資料や日本・朝鮮・ベトナムに伝承される漢字音、韻図・反切資料、また現代諸方言など様々であるが、とりわけ近年解読が進む契丹文字文献に反映される中国語音に注目する。</p> <p>中国語音の歴史的変遷は、中国語史を研究する者のもとより、中国周辺の諸言語・諸文献を研究する者にとっても知っておくべき基礎知識であるが、とりわけこの時期の中国語音韻史は現代北京語の起源に直結するものであり、現代中国語を研究する者にとっても有用な知識を提供するだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・中国音韻学に特有の術語・概念を理解し、言語研究の多様な視点を養う ・多様な文献資料を利用して言語音の通時的变化を研究する方法を習得する 											
【授業計画と内容】											
後期は以下のトピックについて扱う。ただし、受講者の背景知識等に応じて内容を一部変更する場合がある。											
<p>[第1部] 韻母編</p> <p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 中心音論</p> <p>第3回 陽声韻論(1)：-n, -m韻尾類</p> <p>第4回 陽声韻論(2)：-ng韻尾類</p> <p>第5回 陰声韻論(1)：-y, -w韻尾類</p> <p>第6回 陰声韻論(2)：ゼロ韻尾類</p> <p>第7回 入声韻論(1)：-d, -b韻尾類</p> <p>第8回 入声韻論(2)：-g韻尾類</p> <p>第9回 韻母総論</p> <p>[第2部] 声調編</p> <p>第10回 声調論(1)：唐代音の調類と調値</p> <p>第11回 声調論(2)：声調の付随特徴について</p> <p>第12回 声調論(3)：陰陽調について</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

第13回 声調総論
第14回 まとめ
第15回 フィードバック

【履修要件】

前期の中近世中国語音史 を受講していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

平常点（小レポートや授業への参加状況）（50%）および期末レポート（50%）による。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する

【参考書等】

（参考書）
牛島徳次・香坂順一・藤堂明保編 『中国文化叢書 1 言語』（大修館書店、2011年新装版）ISBN:
9784469232646

【授業外学修（予習・復習）等】

前期の復習をして臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系30

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文学論としての総集（選本）									
【授業の概要・目的】											
この講義は、複数の作家の詩文を収めたアンソロジー、中国の目録学の用語でいう「総集」について、文学論・文学批評という視点から考察してゆく。対象とするのは、主に六朝から宋・元に至る重要な著作『（昭明）文選』『文苑英華』『瀛奎律髓』である。											
【到達目標】											
比較的大部の網羅的な「総集」である『文選』『文苑英華』、および唐宋の律詩に限定した選本『瀛奎律髓』に関する基本事項を理解したうえで、それぞれの文学論としての特徴と意義を考察することができる。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の計画に沿って講義を進める。ただし講義の進度や受講者の状況によって、テーマごとの回数や順序を変更することがある。											
第1回 「総集」とは何か											
第2回 「総集」の歴史											
第3回 『文選』の版本と注釈											
第4回 昭明太子「『文選』序」を読む											
第5回 『文選』と沈約											
第6回 『文選』と『玉台新詠』											
第7回 唐宋における『文選』											
第8回 『文苑英華』の編纂と分類											
第9回 『文苑英華』収録作品から見た文学観											
第10回 『文苑英華』と『唐文粹』											
第11回 『瀛奎律髓』の編者方回											
第12回 『瀛奎律髓』と江西詩派の詩学											
第13回 『瀛奎律髓』の詩体観と題材論											
第14回 日本で流行した唐詩選本											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み（40点）、期末レポート（60点）により評価する。											
【教科書】											
使用しない ハンドアウトを配布。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

川合康三ほか『文選 詩篇(一)～(六)』(岩波文庫、2018-19年) ISBN:978-4-00-320451-1

凌朝棟『文苑英華研究』(上海古籍出版社、2005年) ISBN:7-5325-3981-4

詹杭倫『方回的唐宋詩律学』(中華書局、2002年) ISBN:7-101-03428-4

[授業外学修(予習・復習)等]

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系31

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		上古音講義									
【授業の概要・目的】											
<p>上古音研究は清朝考証学者らによる押韻・諧声系列の整理にはじまり、20世紀初頭のKarlgrenの登場によって大きく進展し、Karlgren以降になると、董同[和]、李方桂、Yakhontov、梅祖麟、Baxter、鄭張尚芳、潘悟雲、Schuessler、Sagartらの研究が中心となる。</p> <p>本講義は上古中国語音韻史（上古音研究）の概要と近年の発展について、その大まかな流れを概観し、議論することである。特に、近年の研究について紹介する予定である。</p>											
【到達目標】											
<p>中国語の上古音研究がどのように行われてきたのか、主要な業績を紹介しながら研究の歴史を辿り、詩経の押韻および諧声符から推定される上古中国語の音韻体系を概観する。これまでの研究で何がどのように明らかにされてきたのかについて学ぶとともに、あわせて中国語史の基本的な術語や文献資料についても理解を深める。</p> <p>また出土資料等でみられる通仮（当て字の用法）の可否を判断できるようになることを目標の一つとする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況、興味関心とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。</p> <p>前半：基礎的な内容 第1回、第2回、第3回：ガイダンス 中国語音韻学の述語の確認、中古音 第4回、第5回、第6回：上古音の時代区分、上古音研究の方法と蓋然性、問題点 第7回、第8回、第9回：伝統的手法「韻部」「声母」</p> <p>後半：近年の研究成果 第10回、第11回、第12回、第13回、第14回： 出土資料とびん語を用いた上古音研究：舌音2タイプ、*s- preinitial、円唇母音仮説、前舌母音仮説、*r-の再構 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点：授業への取り組み（50点）と授業内小レポート（50点）											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
配布資料を準備する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
適宜紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。資料はその都度配布する予定。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系32

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 赤松 紀彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『牡丹亭』研究									
【授業の概要・目的】											
中国伝統演劇作品の最高峰とされる『牡丹亭還魂記』をとりあげ、講義の前半ではその構成、表現の特徴および演劇作品としてどのように受容されてきたのかといった問題を考察する。さらに後半では、作品をたんねんに読み進めながら、これらについて具体的に考察する。											
【到達目標】											
文学作品としてだけでなく、舞台上の演劇作品としても愛されてきた『牡丹亭還魂記』をとりあげて、中国伝統演劇についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいによって、各テーマの回数を変更することがある。											
第1～3回 明代演劇史の中での『牡丹亭』											
第4～6回 『牡丹亭』の構成											
第7～8回 舞台の上での『牡丹亭』～清代における演变											
第9～10回 『牡丹亭』を読み解く 第七齣 閨塾											
第11～12回 『牡丹亭』を読み解く 第十齣 驚夢											
第13～14回 『牡丹亭』を読み解く 第十二齣 尋夢											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
中国語及び中国古典文学についての基本的知識があること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(20%)とレポート(80%)により評価する。レポートは、『牡丹亭』の演劇としての特徴について論じてもらう。概説的なものではなく、独自の観点から論じようとする姿勢が見られるものを、積極的に評価する。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

中国の伝統演劇史について、参考書等によってその基本的な展開について理解しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワー：水曜午後1時～5時(A124研究室)
メールアドレス：akamatsu.norihiko.3x@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系33

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 赤松 紀彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『牡丹亭』研究									
【授業の概要・目的】											
中国伝統演劇作品の最高峰とされる『牡丹亭還魂記』をとりあげ、作品をたねんに読み進めながら、これらについて具体的に考察する。これと並行して、映像資料なども用いながら、演劇としての特徴について論じてゆく。											
【到達目標】											
文学作品としてだけでなく、舞台上の演劇作品としても愛されてきた『牡丹亭還魂記』をとりあげて、中国伝統演劇についての理解を深める。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいによって、各テーマの回数を変更することがある。											
第1～2回 『牡丹亭』の構成と演劇としての特徴											
第3～4回 『牡丹亭』を読み解く 第十四齣 写真											
第5～6回 『牡丹亭』を読み解く 第二十齣 鬧殤											
第7～8回 『牡丹亭』を読み解く 第二十四齣 拾画											
第9～10回 『牡丹亭』を読み解く 第三十二齣 冥誓											
第11～12回 『牡丹亭』を読み解く 第三十五齣 回生											
第13～14回 『牡丹亭』を読み解く 第五十三齣 硬拷											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
中国語及び中国古典文学についての基本的知識があること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(20%)とレポート(80%)により評価する。レポートは、『牡丹亭』の一齣を選んで訳注を作ってもらおう。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

中国の伝統演劇史について、参考書等によってその基本的な展開について理解しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワー：水曜午後1時～5時(A124研究室)
メールアドレス：akamatsu.norihiko.3x@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系34

科目ナンバリング		G-LET11 61431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 大木 康			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		明清時代文学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>明清両代の文学は、雅俗にわたるさまざまな文学ジャンルが確立し、行なわれていたことが一つの特徴といえるであろう。本講義では、雅文学（詩・散文）、俗文学（戯曲・小説・歌謡など）各ジャンルの作品講読を通して、作品を読み味わうとともに、当時の文学状況を探ることを目指したい。雅文学と俗文学とを別のもの、対立的なものとするのではなく、とりわけ両者の交錯する場面に注意して考えてみたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国文学の各ジャンルについての基礎知識を習得する。例えば、詩詞曲などの韻文については、その格律などについて。白話小説であれば「白話」について、など。 ・ 文学作品が生まれる背景としての中国人の思考方法、中国社会の動き方や制度などについての理解を深める。 ・ 明清の時代状況について理解する。 ・ 過去の文学作品が現在に伝わるまでの経路や媒体について理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>この講義では、以下のいくつかのテーマを中心に考えてみたい。授業の進捗状況や履修者の関心の状況によって、多少の内容変更がありうる。作品の講読が中心になるので、履修者が予習の時間をとれるよう配慮したい。</p>											
<ul style="list-style-type: none"> (1) 明清時代と明清文学についての概説 【第1回】 (2) 科挙と文学 【第2回～第3回】 八股文、白話小説（『警世通言』巻18「老門生三世報恩」） (3) 経学と評点 【第4回～第5回】 『四書大全』、張居正『四書直解』、金聖歎『第五才子書水滸伝』 (4) 『詩経』と民間歌謡 【第6回～第7回】 馮夢龍「叙山歌」を中心に (5) 遺民の文学 【第8回～第9回】 呉偉業『秣陵春』、冒襄『同人集』 (6) 文藝の場としての妓楼 【第10回～第11回】 『金陵百媚』、『吳姬百媚』、馮夢龍「馮生伝」 (7) 地方志と文藝 【第12回～第13回】 『桐橋倚棹録』、『虎邱志』、『味水軒日記』 (8) 鈔本と刻本 【第14回】 『聊齋志異』、『紅樓夢』の場合 (最終回) 総括と試験 【第15回】 											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講読の担当と討論への積極的な参加、最終回における試験の成績による。

[教科書]

授業中に指示する

講読する資料については、事前にコピーを配布するので、予習をしておいてほしい。

[参考書等]

(参考書)

丸橋充拓 『江南の発展: 南宋まで』 (岩波書店, 2020) ISBN:9784004318057

壇上寛 『陸海の交錯 明朝の興亡』 (岩波書店, 2020) ISBN:9784004318071

岡本隆司 『「中国」の形成 現代への展望』 (岩波書店, 2020) ISBN:9784004318088

島田虔次 『朱子学と陽明学』 (岩波書店, 1967)

井上進 『中国出版文化史 書物世界と知の風景』 (名古屋大学出版社, 2002) ISBN:978-4-8158-0420-6

入矢義高 『明代詩文』 (筑摩書房, 1978)

宮崎市定 『科挙 中国の試験地獄』 (中公文庫, 1984)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で読む材料については、なるべく早めに受講者の手に渡るようにするので、事前に準備しておいてほしい。

上記の参考書は、明清時代の文学を考える上で重要な知識を与えてくれる書物なので、目を通しておいてもらうことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET11 71464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 王 ぎえん			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	実習	使用 言語	中国語
題目		中文學術文章寫作 1									
【授業の概要・目的】											
<p>本課程為高級漢語寫作練習課。授課時將就某一寫作方法先挑選或者節選一篇範文，一邊進行提問，一邊講解難點，分析其寫作特色；然後布置作文作業。作文作業收回批閱后發還，並在課堂上進行講評，分析篇章結構和遣詞造句中存在的問題。希望學生們通過一年的學習，能做到書寫文章大致通順傳情達意基本無礙。【請注意：由於KULASIS系統不接受中文簡體字，課程說明暫用日文漢字。授課時使用中文簡體字。】</p>											
【到達目標】											
培養學生高級漢語寫作能力。											
【授業計画と内容】											
<p>基本上平均兩週為一單元，讀一篇範文，寫一篇作文。 根據授課的實際情況，內容和進度有可能進行適當調整。此外、課堂上也有隨時的短文写作。</p>											
<ol style="list-style-type: none"> 1 導論 2 記叙文(一) 簡單的記人 3 記叙文(二) 簡單的敘事 4 作文講評 5 說明文(一) 說明事物 6 說明文(二) 解說事理 7 作文講評 8 補充說明 9 應用文(一) 讀後感 10 應用文(二) 觀後感 11 作文講評 12 議論文(一) 立論 13 議論文(二) 駁論 14 作文講評 15 總結 											
【履修要件】											
<p>原則として、中文口語1・中文口語2を履修済みであり、あわせて作文能力の基礎が確実であること(新HSK5級程度)。 中国語を母語とする学生は受講できない(以漢語為母語的學生不可選修)。</p>											
----- 中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(外国語実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（40％）および作文（60％）

[教科書]

適当挑選或者節選一些文体各異的中文文章來作為範文。

[参考書等]

（参考書）

呂叔湘『現代漢語八百詞（増訂本）』（商務印書館）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示

（その他（オフィスアワー等））

履修者数上限は8名とし、中国語学中国文学研究室の大学院生を優先する。余裕のある場合のみ、中国語学中国文学研究室の学部学生を受け入れる。初回の授業でレベル確認の試験をおこなう。オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系36

科目ナンバリング		G-LET11 71464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 王 ぎえん			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	実習	使用 言語	中国語
題目		中文學術文章寫作 2									
【授業の概要・目的】											
<p>本課程為高級漢語寫作練習課。授課時將就某一寫作方法先挑選或者節選一篇範文，一邊進行提問，一邊講解難點，分析其寫作特色；然後布置作文作業。作文作業收回批閱后發還，並在課堂上進行講評，分析篇章結構和遣詞造句中存在的問題。希望學生們通過一年的學習，能做到書寫文章大致通順傳情達意基本無礙。【請注意：由於KULASIS系統不接受中文簡體字，課程說明暫用日文漢字。授課時使用中文簡體字。】</p>											
【到達目標】											
培養學生高級漢語寫作能力。											
【授業計画と内容】											
<p>基本上平均兩週為一單元，讀一篇範文，寫一篇作文。 根據授課的實際情況，內容和進度有可能進行適當調整。此外、課堂上也有隨時的短文写作。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導論 2 記叙文（三） 複雜的記人 3 記叙文（四） 複雜的叙事 4 作文講評 5 説明文（三） 説明事物 6 説明文（四） 解説事理 7 作文講評 8 補充説明 9 議論文（三） 立論 10 議論文（四） 駁論 11 作文講評 12 專業論文（一） 討論語言学問題 13 專業論文（二） 討論文学問題 14 作文講評 15 總結 											
【履修要件】											
<p>原則として、中文口語 1・中文口語 2 を履修済みであり、あわせて作文能力の基礎が確實であること（新HSK5級程度）。 中国語を母語とする学生は受講できない（以漢語為母語的學生不可選修）。</p>											
----- 中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(外国語実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（40％）および作文（60％）

[教科書]

適当挑選或者節選一些文体各異的中文文章來作為範文。

[参考書等]

（参考書）

呂叔湘『現代漢語八百詞（増訂本）』（商務印書館）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示。

（その他（オフィスアワー等））

履修者数上限は8名とし、中国語学中国文学研究室の大学院生を優先する。余裕のある場合のみ、中国語学中国文学研究室の学部学生を受け入れる。初回の授業でレベル確認の試験をおこなう。オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系37

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『管錐編』選読									
[授業の概要・目的]											
『管錐編』は、中国近代を代表する文学者の一人である錢鍾書（1910-1998）による中国古典文学に関する札記である。本演習ではそのなかでも、前年度に引き続いて、全上古三代秦漢三国六朝文一三八・全晉文卷九七の陸機「文賦」の札記の部分を読み、その説くところを正確に理解し、得られた知見を訳注の形にまとめる。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典中国語で書かれたテキストを正確に読解し、明晰な日本語による訳注の形式において再構成する能力を獲得する。 ・ 札記テキストが対象とし、またそのなかで言及される多数の文学テキストを比較対照し、その総体を立体的に理解する。 ・ 札記テキストの所論を文学研究の方法として批判的に理解する。 											
[授業計画と内容]											
第1回：使用テキストの確認、分担の決定 第2回～第15回：訳注の作成、検討作業											
[履修要件]											
古典中国語の読解力、中国古典文学についての知識と関心を有すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（訳注原稿の内容、授業における訳注改善に寄与する発言等）による。											
[教科書]											
授業中にプリント資料を配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 錢鍾書 『管錐編』（生活・読書・新知三聯書店）ISBN:9787108027467 嚴可均 『全上古三代秦漢三国六朝文』（中華書局） 張少康 『文賦集釈』（人民文学出版社）ISBN:7020031668											
[授業外学修（予習・復習）等]											
出席者は、訳注作成担当者以外も、各自テキストを誠実に読みこんだうえで授業にのぞむ必要がある。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系38

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『管錐編』選読									
[授業の概要・目的]											
『管錐編』は、中国近代を代表する文学者の一人である錢鍾書（1910-1998）による中国古典文学に関する札記である。本演習ではそのなかでも、前期に引き続いて、全上古三代秦漢三国六朝文一三八・全晉文卷九七の陸機「文賦」の札記の部分を読み、その説くところを正確に理解し、得られた知見を訳注の形にまとめる。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典中国語で書かれたテキストを正確に読解し、明晰な日本語による訳注の形式において再構成する能力を獲得する。 ・ 札記テキストが対象とし、またそのなかで言及される多数の文学テキストを比較対照し、その総体を立体的に理解する。 ・ 札記テキストの所論を文学研究の方法として批判的に理解する。 											
[授業計画と内容]											
第1回：使用テキストの確認、分担の決定 第2回～第15回：訳注の作成、検討作業											
[履修要件]											
古典中国語の読解力、中国古典文学についての知識と関心を有すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（訳注原稿の内容、授業における訳注改善に寄与する発言等）による。											
[教科書]											
授業中にプリント資料を配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 錢鍾書 『管錐編』（生活・読書・新知三聯書店）ISBN:9787108027467 嚴可均 『全上古三代秦漢三国六朝文』（中華書局） 張少康 『文賦集釈』（人民文学出版社）ISBN:7020031668											
[授業外学修（予習・復習）等]											
出席者は、訳注作成担当者以外も、各自テキストを誠実に読みこんだうえで授業にのぞむ必要がある。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系39

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		水滸戯曲選読									
[授業の概要・目的]											
戯曲は、元の時代に盛んになった民衆芸能の一つである。音楽を伴った「曲」、台詞部分の「白」、動作しぐさの「科」から成る戯曲は、後世の白話小説などにも大きな影響を与えた。また、宋元以降の話本小説にこれら戯曲が取材する例も多くあったと考えられ、実際に、題材を同じくする小説と戯曲双方が存在することも珍しくない。本授業では、昨年引き続き、小説『水滸伝』と深い関係を有する「水滸戯」を取り上げ、文体上の特徴や言語的工夫の所在に留意しつつ、作品理解と同時に中国語口語の発展史についても学習する。											
[到達目標]											
戯曲の文体を通して、近世口語の特徴を学ぶ。また、「水滸戯」版本間のテキストの相違に注意を払い、言語的、また言語芸術の表現上の相違がどこにあるか、考察する。											
[授業計画と内容]											
<p>担当者により訳注を準備して、受講者全員で内容を討議しながら読解を進める。 受講者は、自己の担当部分以外にも十分予習をし、積極的に討論に参加すること。</p> <p>1．ガイダンス、資料説明 2．時代背景説明、分担確認 3－13．「水滸戯」『燕青博魚』（2020年度の続き）の読解 14．小説『水滸伝』との関連について調査 15．調査内容についてディスカッション</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により評価。平常点には、担当時以外の議論内容や平素の準備も含む。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に指示											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系40

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		水滸戯曲選読									
[授業の概要・目的]											
<p>戯曲は、元の時代に盛んになった民衆芸能の一つである。音楽を伴った「曲」、台詞部分の「白」、動作しぐさの「科」から成る戯曲は、後世の白話小説などにも大きな影響を与えた。また、宋元以降の話本小説にこれら戯曲が取材する例も多くあったと考えられ、実際に、題材を同じくする小説と戯曲双方が存在することも珍しくない。本授業では、昨年引き続き、小説『水滸伝』と深い関係を有する「水滸戯」を取り上げ、文体上の特徴や言語的工夫の所在に留意しつつ、作品理解と同時に中国語口語の発展史についても学習する。</p>											
[到達目標]											
<p>戯曲の文体を通して、近世口語の特徴を学ぶ、また「水滸戯」版本間のテキストの相違に注意を払い、言語的、また言語芸術の表現上の相違がどこにあるか、考察する。 本年度は昨年から読み続けている作品を読了し、訳注原稿作成に向けての準備を行う。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>担当者により訳注を準備して、受講者全員で内容を討議しながら読解を進める。 受講者は、自己の担当部分以外にも積極的に討論に参加すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．前期の内容について討論 2－13．『燕青博魚』を引き続き読み、読了を目指す 14．『水滸伝』との関連について調査 15．訳注作成に向けてのディスカッション 											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により評価。平常点には、担当時以外の議論内容や平素の準備も含む。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に指示。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系41

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		山谷詩選読									
[授業の概要・目的]											
江西詩派の主要な詩人として知られる黄庭堅（黄山谷、1045-1105）の詩を読む。精密な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力を身につけるとともに、宋代文学に対する理解を深めることをめざす。											
[到達目標]											
中国における伝統的な古典注釈学の成果を踏まえつつ、精密かつ斬新な解釈をみずから提出する能力を養う。あわせて日本中世の抄物を参照することにより、五山漢文学に関して一定の知見を得る。											
[授業計画と内容]											
『山谷詩集注』（内集）巻九「次韻子瞻以紅帶寄王宣義」から読み進める。任淵の注や漢文抄『帳中香』などを参考にしながら、担当者に詳細な校勘記・訳注を準備してもらい、それをもとに受講者全員で討論してゆく。 第1回 イン트로ダクション 黄庭堅および黄庭堅集についての概説。参考文献などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。 第2回～第14回 黄庭堅詩の精読 『山谷詩集注』巻九から毎回1首程度のペースで読み進め、作品の解釈・背景について討論する。 第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、黄庭堅研究の現状と課題についてまとめる。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（授業内での担当、発言）による。											
[教科書]											
『山谷詩集注』（藝文印書館ほか）											
[参考書等]											
（参考書） 鄭永暁 『黄庭堅年譜新編』（社会科学文献出版社）ISBN:7-80050-920-6											
[授業外学修（予習・復習）等]											
発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および任淵注は読んでおくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
特になし。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系42

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		山谷詩選読									
[授業の概要・目的]											
江西詩派の主要な詩人として知られる黄庭堅（黄山谷、1045-1105）の詩を読む。精密な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力を身につけるとともに、宋代文学に対する理解を深めることをめざす。											
[到達目標]											
中国における伝統的な古典注釈学の成果を踏まえつつ、精密かつ斬新な解釈をみずから提出する能力を養う。あわせて日本中世の抄物を参照することにより、五山漢文学に関して一定の知見を得る。											
[授業計画と内容]											
前期に引きつづき、『山谷詩集注』（内集）巻十七「拜劉凝之畫像」から読み進める。任淵の注や漢文抄『帳中香』などを参考にしながら、担当者に詳細な校勘記・訳注を準備してもらい、それをもとに受講者全員で討論してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 黄庭堅および黄庭堅集についての概説。参考文献などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回～第14回 黄庭堅詩の精読 『山谷詩集注』巻十七を毎回1首のペースで読み進め、作品の解釈・背景について討論する。											
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、黄庭堅研究の現状と課題についてまとめる。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（授業内での担当、発言）による。											
[教科書]											
『山谷詩集注』（藝文印書館）											
[参考書等]											
（参考書） 鄭永暁 『黄庭堅年譜新編』（社会科学文献出版社）ISBN:7-80050-920-6											
[授業外学修（予習・復習）等]											
発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および任淵注は読んでおくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系43

科目ナンバリング		G-LET11 7M123 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子 文学研究科 准教授 緑川 英樹 文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国語学中国文学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
修士論文提出予定者を対象とし、(1)研究題目選択および先行研究の調査方法、(2)独創的な論文の組み立てと執筆に関する指導をおこなう。											
【到達目標】											
修士論文を執筆するにあたって守るべき規範意識を理解したうえで、自主的に課題を設定し、調査研究を経て言語化し、独自の研究成果に昇華する方法を学ぶ。先行研究に対する批評眼を養い、自らの研究成果を当該領域の研究史に位置づけつつ、次の研究目標を定める力を身につける。											
【授業計画と内容】											
隔週で開講する。前期には、研究したい題目を各自で決めて、おおまかな着想を述べ、指導・助言を受ける。後期には、自らの修士論文の内容について発表資料を準備して口頭発表をおこなったのち、指導・助言を受ける。 後期の担当時には、(1)研究の主要論点・結論および引用原典を挙げた説明資料を配布し、出席者に分かりやすく説明する。											
【履修要件】											
中国語学中国文学専修学部学生に限る。(修士一回生の学生も出席するのが望ましい。)											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(修了年度の口頭発表による)											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
修士論文の題目選択は学生の自主性を重んじるので、取り組むべき課題を発見するにあたっての準備的調査をまず各自でおこなうこと。 (その他(オフィスアワー等)) 後期に口頭発表を担当する際には、必ず(1)発表用資料を必要部数準備するとともに、(2)中国語論文要旨の下書きも作っておくこと。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系44

科目ナンバリング		G-LET12 61530 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		北朝正史の儒林伝を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>南北朝時代、中国は南北に分かれ、その学問の在り方も様相を異にした部分が多い。中国の思想と言えは儒学をすぐに想起しようが、その根幹たる経書には歴代様々な注釈が施され、南朝と北朝とで、どの注釈書に依拠して各経書を読んだかが異なっことは、よく知られる。</p> <p>そこで本講義では、北朝における儒学、経学の実態を探る第一歩として、北朝正史の儒林伝を読んでいく。北朝における学問の共有や伝承の様子を、時には南朝の動向をも視野に入れつつたどることで、北朝ではどのような学問を備えることが目指されたのかを、探っていく。また儒者に対して、社会がどのような役割を期待していたのかについても、考えていきたい。こうした営みは、南北朝時代に限らず、中国社会を考える上でのヒントになる。</p> <p>なおすでに令和2年度に『魏書』儒林伝を読み始めており、今年度はその途中からになるが、過去の内容は当然フォローするので、今年度からの受講も積極的に期待したい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・北朝正史の儒林伝を精読することで、北朝における学問の特質を理解できる。 ・北朝における学問継承の在り方を明らかにし、それを系統立てて説明できる。 ・儒林伝に描出される儒者の活動を読み解くことで、学問と社会の関係性について、自らの問題意識に関連付けて考察する。 											
【授業計画と内容】											
<p>原則として講義形式（北朝正史の儒林伝に対する訳注を基に、それに関連する事項などを解説、補足する）を進めるが、出席者にも適宜テキストを読解してもらったり、講義の内容にコメントしてもらったりする場面を設ける。</p> <p>1 ガイダンス 2・3 北朝儒学に関する先行研究紹介 4～15 『魏書』儒林伝精読 （立伝者は計17名、そのうち「常爽」以降の11名を読む） 16～28 『北齊書』儒林伝精読（立伝者は計15名） 29・30 まとめ</p> <p>フィードバックの方法は授業時に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（教員による発問に対する積極的な回答、講義に際しての討議への参加など）を40%、最終レポートを60%で評価。

[教科書]

授業中に指示する
教員作成のプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習としては、講義で取り上げる漢文を、自分でも現代語訳してみる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系45

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 工藤 卓司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		秦漢政治思想									
【授業の概要・目的】											
秦漢時代の政治思想とはどのようなものであったのか。この授業では、日本の漢学研究にも触れながら、政治的社会的状況との関連から、政治思想上でどのような言説が行われたのかに特に着目して、前漢時代の思想状況を見ていく。											
【到達目標】											
前漢思想についての歴史的理解を深めると共に、様々な状況に置かれた当時の人々の思考を追跡することで、多面的・多角的に「人間」を見る視野を育む。											
【授業計画と内容】											
状況によっては内容には変更の可能性あり。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 導論 2 漢初の社会状況(1) 3 漢初の社会状況(2) 4 漢初の社会状況(3) 5 秦王朝と漢代思想(1) 6 秦王朝と漢代思想(2) 7 秦王朝と漢代思想(3) 8 漢初の思想と諸侯王国問題 9 漢初の思想と匈奴問題 10 漢初の思想と経済問題 11 礼思想の展開(1) 12 礼思想の展開(2) 13 道思想の展開(1) 14 道思想の展開(2) 15 まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(50%)およびレポート(50%)											
【教科書】											
プリントを配布する											
-----中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く-----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する

(その他(オフィスアワー等))

開講日時は5月初旬にKULASISを通して連絡の予定

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		漢籍目録法									
【授業の概要・目的】											
漢籍目録の作成要領を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。											
【到達目標】											
各種の漢籍目録（データベースを含む）の構造や内容を読み取る力をつけることにより、目的や用途に応じて必要な漢籍をすぐに検索できるようになる。											
【授業計画と内容】											
漢籍の目録法、書誌情報の採取について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることがあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 漢籍の定義（漢籍と目録の関係） 第3回 カード作成の目的（書誌の基本） 第4回 書名（表題の確定） 第5回 書名（合刻と合綴） 第6回 書名（漢籍の同定） 第7回 巻数（書誌の特徴） 第8回 撰者（書籍への関与の形態） 第9回 撰者（書籍に関与した人物の情報） 第10回 鈔刻（複製の手法） 第11回 鈔刻（刊行年と出版者） 第12回 鈔刻（底本の表示） 第13回 鈔刻（特殊な情報） 第14回 叢書・増出・地志カードの作成 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。 評価の6割はレポート、4割は平常点による。 レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

清水茂 『中国目録学』 (筑摩書房) ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』 (白帝社) ISBN:9784891746346

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編集 『漢籍目録 カードのとりかた』 (朋友書店) ISBN:9784892811067

(関連URL)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/toho/html/top.html>(東方学デジタル図書館)

[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80\(%E8%B3%87%E6%96%99\).pdf](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80(%E8%B3%87%E6%96%99).pdf)(漢籍目録入門(資料)(中里見敬氏))

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/130672/1/kogusho.pdf>(工具書について 漢籍の整理 (永田知之))

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/106/0/106_1493/_pdf/-char/ja(漢籍整理備忘録 中国の古典籍・古文書の理解のために (小島浩之氏))

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。

担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。

メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系47

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		漢籍分類法									
【授業の概要・目的】											
四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。											
【到達目標】											
書物の分類を通じて漢字文化の特徴を理解することにより、西洋近代に由来する学術の枠組みを超えた幅広い視野を養う。											
【授業計画と内容】											
『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説すると共に、漢籍に関わる諸事象を紹介する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。											
第1回 ガイダンス											
第2回 経部・概説											
第3回 経部・五経等（経注疏合刻類～春秋類）											
第4回 経部・四書等（四書類～小学類）											
第5回 史部・概説											
第6回 史部・叙述形式（正史類～載記類）											
第7回 史部・制度、伝記、地理（詔令奏議類～政書類）											
第8回 史部・資料、史論（書目類～史評類）											
第9回 子部・概説											
第10回 子部・思想、技術（儒家類～術数類）											
第11回 子部・趣味、宗教（芸術類～道家類）											
第12回 集部・概説											
第13回 集部・各論											
第14回 叢書部											
第15回 まとめ											
フィードバックの方法については、授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
-----中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く-----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社）ISBN:9784891746346

吉川幸次郎 『吉川幸次郎遺稿集 第1巻』（筑摩書房）ISBN:4480746412

程千帆・徐有富著、向嶋成美・大橋賢一・樋口泰裕・渡邊大訳 『中国古典学への招待 目録学入門』（研文出版）ISBN:9784876364091

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/65024>(京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧：部-類-属-目-例)

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/refguide/13216>(漢籍の探し方（大西賢人氏）)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の僧伝を読む：『続高僧伝』講読（一）									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の实地踏査をもとに幾度も増補改訂がなされ、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。なお時間の関係上適宜省略しつつ読み進める。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>基本は講義形式と講読形式を交互に併用して進める。僧伝の読解にあたっては受講者の状況に応じて、一部分の現代語訳、それが難しい場合は各版本の文字の異同の確認を担当してもらう。</p> <p>前期は主に訳経篇に収録された北朝後期から隋代の僧をとりあげ、北周の廢仏と隋文帝の仏教復興政策について考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>内容面</p> <p>一、北朝・隋代の主要な僧の経歴を把握し、仏教史の理解に資する。</p> <p>二、国家からの断圧・道教側からの批判などの難題に対し、僧がいかに対処したかを学ぶ。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A T などの電子仏典資料について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：『続高僧伝』を読むために必要な基本的資料と工具書</p> <p>第2回：『続高僧伝』道宣の略伝・諸版本・訳注レジュメ作成方法の説明</p> <p>第5回：『続高僧伝』菩提流支・勒那摩提・般若流支</p> <p>第6回：『続高僧伝』講読（1）</p> <p>第7回：『続高僧伝』那連提黎耶舍</p> <p>第8回：『続高僧伝』講読（2）</p> <p>第9回：『続高僧伝』闍那崛多</p> <p>第10回：『続高僧伝』講読（3）</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

- 第11回：『続高僧伝』達摩笈多
第12回：『続高僧伝』講読（4）
第13回：『続高僧伝』彦琮
第14回：『続高僧伝』講読（5）
第15回：『続高僧伝』真諦の弟子たち

【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況）100%。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）
『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）（『続高僧伝』の何人かの伝記について現代語訳と注を掲載）
『新国訳大蔵経・『続高僧伝』1』（大蔵出版）
その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：配付資料をもとにあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）などを調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系49

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の僧伝を読む：『続高僧伝』講読（二）									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の实地踏査をもとに幾度も増補改訂がなされ、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。なお時間の関係上適宜省略しつつ読み進める。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>基本は講義形式と講読形式を交互に併用して進める。僧伝の読解にあたっては受講者の状況に応じて、一部分の現代語訳、それが難しい場合は各版本の文字の異同の確認を担当してもらう。</p> <p>後期は北朝後期から隋代の義解に優れた高僧をとりあげ、北周の廃仏と隋文帝の仏教復興政策について考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>内容面</p> <p>一、北朝・隋代の主要な僧の経歴を把握し、仏教史の理解に資する。</p> <p>二、国家からの断圧・道教側からの批判などの難題に対し、僧がいかに対処したかを学ぶ。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A T などの電子仏典資料について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：前期の内容を簡単に復習し、後期の内容について説明する。</p> <p>第2回：『続高僧伝』慧光伝</p> <p>第3回：『続高僧伝』講読（1）</p> <p>第4回：『続高僧伝』法上傳</p> <p>第5回：『続高僧伝』講読（2）</p> <p>第6回：『続高僧伝』靈裕伝</p> <p>第7回：『続高僧伝』講読（3）</p> <p>第8回：『続高僧伝』浄影寺慧遠伝</p> <p>第9回：『続高僧伝』講読（4）</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

- 第10回：『続高僧伝』曇延伝
第11回：『続高僧伝』講読（5）
第12回：『続高僧伝』曇遷伝
第13回：『続高僧伝』講読（6）
第14回：『続高僧伝』天台智顛伝
第15回：『続高僧伝』講読（7）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況）100%。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）
『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）
その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：配付資料をもとにあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）などを調べておく。
復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けませんが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏教漢語の語義解釈：梵語的側面と漢語的側面第3年度(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>漢字仏教語（仏教漢語）は中国と日本の仏教思想史の発展を知るための基本である。 中国の仏教徒は、サンスクリット語原典を逐一比較することなく、専ら漢語で仏教を理解した。 その結果、仏教漢語を理解する際に、インド本来の語義に加え、漢語特有の中国的解釈法を重ね合わせ、一語を二重三重に解釈して、意味や思想に幅を持たせる重層的効果を実現した。 この授業では、漢語に基づく仏教理解が、インド文化から何を継承し、中国でいかなる独自の展開を遂げたかを、基本的仏教語の語義を原文をもとに解明する。このことは仏教という外来文化を理解するための文化的・言語的・学術的背景を知ることにも役立つ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。 二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。 三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて以下3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点 2. 仏教漢文の訓読法 3. 電子化された一次資料の使い方 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的一次資料と工具書 第2回：大蔵経の基礎知識と特徴と歴史，および特に注意すべき事柄 第3回：大正大蔵経を使用する時の注意と電子テキストの利用法 第4回：仏教漢語「懺悔」と「悔過」のインド語と中国的解釈 第5回： 同上 第6回： 同上 第7回：仏教漢語「鉢」と「應器」のインド語と中国的解釈 第8回： 同上 第9回：仏教漢語「方便」の中国的解釈 第10回：仏教漢語「世俗諦」と「勝義諦」のインド仏教的意味と中国的解釈 第11回： 同上 第12回： 同上 第13回：仏教漢語「南無」と「{口奄}」の意味と中国的解釈 第14回：前期に扱った諸語を整理する 第15回：総括</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文講読を担当する。積極的に意見と質問を出す）
自らの疑問や調べた内容を授業中に示し、出席者たち全員で意見交換してほしい。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

授業は毎回，配布資料を作成し，それに基づいて原文を読み，現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば，授業中にその都度知らせます。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして，授業で精読する箇所を下読みし，自分自身の訳を準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 61531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏教漢語の語義解釈：梵語的側面と漢語的側面第3年度(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>漢字仏教語（仏教漢語）は中国と日本の仏教思想史の発展を知るための基本である。 中国の仏教徒は、サンスクリット語原典を逐一比較することなく、専ら漢語で仏教を理解した。 その結果、仏教漢語を理解する際に、インド本来の語義に加え、漢語特有の中国的解釈法を重ね合わせ、一語を二重三重に解釈して、意味や思想に幅を持たせる重層的効果を実現した。 この授業では、漢語に基づく仏教理解が、インド文化から何を継承し、中国でいかなる独自の展開を遂げたかを、基本的仏教語の語義を原文をもとに解明する。このことは仏教という外来文化を理解するための文化的・言語的・学術的背景を知ることにも役立つ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。 二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。 三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて以下3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点 2. 仏教漢文の訓読法 3. 電子化された一次資料の使い方 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的一次資料と工具書 第2回：大蔵経の基礎知識と特徴と歴史、および特に注意すべき事柄 第3回：大正大蔵経を使用する時の注意と電子テキストの利用法 第4回：仏教漢語「戒」「律」「戒律」のインド語と中国的解釈 第5回： 同上 第6回： 同上 第7回：仏教漢語「現量という複合語の解釈」の解釈法とサンスクリットの複合語を解釈するための中国的表現 第8回： 同上 第9回： 同上 第10回：仏教で用いる音写語記号「引」と「二合」の意味 第11回： 同上 第12回：仏教語「悉達」と「悉達多」の解説法：音写語か意味の訳か 第13回： 同上 第14回：後期に扱った内容を整理する 第15回：前期と後期を通じて総括する</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文講読を担当する。積極的に意見と質問を出す）
自らの疑問や調べた内容を授業中に示し、出席者たち全員で意見交換してほしい。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系52

科目ナンバリング		G-LET12 71540 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		国朝文録精読									
【授業の概要・目的】											
<p>古典文献の講読を通して、漢文読解力を養うと共に、中国文化への理解を深める。そのために『国朝文録』を精読する。授業は、各文章毎に、学生諸氏に訳注を準備してもらい、授業時に参加者全員で内容等について議論検討する、という形式を取る。出典に確実に当たることを重視し、本文の文章や語句などすべての典拠、用例について、もとの書物（紙で出来た書物）を調べる作業を重視する。今年は巻八の論の部分を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>漢文を精読することにより、漢文読解力を養成する。さらに、出典を調べながら漢籍を読むことができるようになる。また、さまざまなジャンルの議論を読むことにより、中国の書物についての幅広い知識を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要、授業の進め方、訳注の作り方などのガイダンス 2. 李広論 3. 趙充国論 4. 鄧禹論 5. 費イ（衣韋）論 6. 諸葛誕論 7. 伯顔論 8. 恵帝論一 9. 恵帝論二 10. 恵帝論三 11. 成祖論一 12. 成祖論二 13. 成祖論三 14. 成祖論四 15. 南宮書法論 16. 原勢一 17. 原勢二 18. 原勢三 19. 荊州論 20. 大人容物愛物論 21. 尚簡 22. 司馬司士 23. 董江都相論 24. 蕭望之論 25. 宋宏論 26. 陸宣公論 											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

27. 杜佑論
28. 劉彝論
29. 張浚論
30. フィードバック（詳細は授業時に説明する）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による。（漢文読解、典拠の調査等を総合的に判断する。訳注作成ならびに毎時間の発表が100%。）

【教科書】

テキストはコピーして配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
授業時に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

綿密な下調べが必要です。

（その他（オフィスアワー等））

典拠、用例については紙のテキストに必ず当たるという作業を重視するので、参加者には毎時間、相当程度の時間にわたる予習が要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 71540 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		孫志祖『読書 月坐 録』									
【授業の概要・目的】											
<p>清・孫志祖『読書 月坐 録』を読む。孫志祖が関心を持ったテーマに対し、様々な角度から考察した過程を、『読書 月坐 録』を精読することで追体験してもらう。多彩なテーマの考証を読むことは、古典読解能力を高めるとともに、その考証の手法を学ぶことをも可能にするであろう。また同時代の学者が、同じテーマに対して考察を展開していた場合、時に孫志祖を離れてでも、それについて積極的に検証していくので、清朝という時代の学的風潮も体感できる。</p> <p>話題は経学を中心としつつ、中国の多様な時代、分野に及ぶので、様々な専攻の学生の出席を望む。</p>											
【到達目標】											
中国古典文献を、典拠や用例を調べながら正確に読解し、またそれを自然な日本語訳にする能力を身につける。またそこに披瀝されている考証の手法を体得することを目指す。											
【授業計画と内容】											
<p>毎回の担当者を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。なお前年度の続きから読解することになるが、各回が内容として連続するわけではないので、今年度からの出席はもちろん問題ない(むしろ積極的な新規参加を期待する)。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 小戴刪大戴 3 八十九十日耄 4 冠毋免 5 冠毋免 6 稷曰明粢 7 檀弓句読 8 王制 9 社稷之牛角尺 10 逸周書月令 11 是察阿党 12 曾子問脱文 13 櫓巢 14 蕃<彫+鼠> 15 学記句読 16 始駕者 17 孫心 18 狸首 19 大夫士無主 20 大戴礼錯簡 21 四戸八 片+戸+甫 22 四書重文 											
----- 中国哲学史(演習) (2)へ続く -----											

中国哲学史(演習) (2)

23 孔安国論語注

24 反論語

25 康成解論語

26 論語義疏

27 論語点句 (1)

28 論語点句 (2)

29 三帰

30 管仲非仁

フィードバックの方法は授業時に説明する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点による（訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加などを総合的に判断する）。

[教科書]

授業中に指示する

テキストはコピーして配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

演習は学生が主役であるため、自身の意見を言うためには、相当な予習が必要である。また作成した訳注稿は、後日修正稿を提出してもらう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系54

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学(中国古典注釈学)の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系55

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古勝 隆一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『論語義疏』講読									
[授業の概要・目的]											
<p>この授業では、儒教文献『論語義疏』を講読する。その経文・何晏等集解・皇侃義疏、そして『經典釈文』（論語音義）を講読の対象とする。</p> <p>テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>前期は先進篇を読むこととする。</p>											
[到達目標]											
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『論語義疏』の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。 ・訓詁に着目し、『論語義疏』を正確に理解する。 ・上記二点に基づき、訳注稿を完成させる。 											
[授業計画と内容]											
<p>『論語義疏』先進篇の訳注稿を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2回 「子曰先進於禮樂」章 ・第3回 「子曰從我於陳蔡者」章 ・第4回 「德行顔淵」章 ・第5回 「子曰回也非助我者也」「子曰孝哉閔子騫」章 ・第6回 「南容三復白圭」章 ・第7回 「季康子問弟子孰為好學」章 ・第8回 「顔淵死顔路請子之車」章 ・第9回 「顔淵死子曰」章 ・第10回～11回 「顔淵死子哭之慟」章 ・第12回 「季路問事鬼神」章 ・第13回 「閔子侍側」章 ・第14回 「魯人為長府」章 ・第15回 フィードバック（詳細は授業時に指示する） 											
[履修要件]											
中級程度の中国語を修得していること。											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。

[教科書]

授業中に指示する
必要なテキストは教室にて配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。
『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』(中華書局)。

[授業外学修(予習・復習)等]

必ず予習した上で、授業に出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古勝 隆一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『論語義疏』講読									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、儒教文献『論語義疏』篇を講読する。その経文・何晏等集解・皇侃義疏、そして『 經典釈文』（論語音義）を講読の対象とする。 テクストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書 誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。 後期は子路篇を読むこととする。</p>											
【到達目標】											
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『論語義疏』の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。 ・訓詁に着目し、『論語義疏』を正確に理解する。 ・上記二点に基づき、訳注稿を完成させる。 											
【授業計画と内容】											
<p>『論語義疏』子路篇の訳注稿を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2回 「子路問政」章 ・第3回 「仲弓為季氏宰」章 ・第4回～6回 「子路曰衛君待子」章 ・第7回～9回 「樊遲請學稼」章 ・第10回 「子曰誦詩三百」「子曰其身正」章 ・第11回～12回 「子曰魯衛之政」「子謂衛公子荊」章 ・第13回 「子適衛，冉有僕」章 ・第14回 「子曰苟有用我者」「子曰善人為邦百年」章 ・第15回 フィードバック（詳細は授業時に指示する） 											
【履修要件】											
中級程度の中国語を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
必要なテキストはPDFにて配布する。

[参考書等]

(参考書)

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。
『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』(中華書局)。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に工具書類を用いて文意を読み取っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系58

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 中 純夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『朱子言論同異攷』講読（前年度から継続）									
[授業の概要・目的]											
<p>朝鮮の朱子学者韓元震（1682～1751）の主著『朱子言論同異攷』を読む。同書は「理気」「理」「陰陽」「五行」「天地」等の項目ごとに朱熹の言論の異同を指摘し、その早晩の鑑別や「定論」の判定を企図したものである。授業は輪読形式で行い、担当者が作成した訳注原稿を受講者全員で検討する。受講者には各自、同書所引の朱熹語の原典に当たり、異同の持つ意味を整理した上で、韓元震の所論の是非を批判的に検証することを要求する。</p> <p>テキストはソウル大学校奎章閣蔵『朱子言論同異攷』を使用する（プリント配布）。</p>											
[到達目標]											
<p>テキストの精読を通して高度の漢文読解・出典調査能力を錬成し、朱子学に対する理解を深め、朝鮮朱子学に関しても一定の知見を得ることに加え、朝鮮学の諸資料や工具書（電子媒体を含む）の利用方法を身につけることを目標とする。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 資料解説、関連資料紹介、担当者の割り振り。 第2回～第15回 資料講読</p> <p>テキストを順次講読する。進度は1回につき影印本1葉程度を目安とする。必要に応じて講読を休止し、担当教員が内容整理、総括や補足説明を行う場合も有る。 フィードバックの方法については、授業時に指示する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
漢文読解力、出典調査能力、論理的思考力などを総合的に評価する											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
<p>『朱子語類』『朱文公文集』『四書集注』『四書或問』等、朱熹の著作によって『朱子言論同異攷』所引の朱熹語の原典にあたること。また『南塘集』の調査等により、『朱子言論同異攷』における韓元震の主張の背景を検討すること。</p> <p>（その他（オフィスアワー等）） この授業は全回オンラインにより実施する。資料の配付方法等については初回授業時に指示する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

文献文化学系59

科目ナンバリング		G-LET12 71541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 中 純夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『朱子言論同異攷』講読（前年度から継続）									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮の朱子学者韓元震（1682～1751）の主著『朱子言論同異攷』を読む。同書は「理気」「理」「陰陽」「五行」「天地」等の項目ごとに朱熹の言論の異同を指摘し、その早晩の鑑別や「定論」の判定を企図したものである。授業は輪読形式で行い、担当者が作成した訳注原稿を受講者全員で検討する。受講者には各自、同書所引の朱熹語の原典に当たり、異同の持つ意味を整理した上で、韓元震の所論の是非を批判的に検証することを要求する。</p> <p>テキストはソウル大学校奎章閣蔵『朱子言論同異攷』を使用する（プリント配布）。</p>											
【到達目標】											
<p>テキストの精読を通して高度の漢文読解・出典調査能力を錬成し、朱子学に対する理解を深め、朝鮮朱子学に関しても一定の知見を得ることに加え、朝鮮学の諸資料や工具書（電子媒体を含む）の利用方法を身につけることを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 資料解説、関連資料紹介、担当者の割り振り。 第2回～第15回 資料講読</p> <p>テキストを順次講読する。進度は1回につき影印本1葉程度を目安とする。必要に応じて講読を休止し、担当教員が内容整理、総括や補足説明を行う場合も有る。 フィードバックの方法については、授業時に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
漢文読解力、出典調査能力、論理的思考力などを総合的に評価する											
【教科書】											
使用しない											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

『朱子語類』『朱文公文集』『四書集注』『四書或問』等、朱熹の著作によって『朱子言論同異攷』所引の朱熹語の原典にあたること。また『南塘集』の調査等により、『朱子言論同異攷』における韓元震の主張の背景を検討すること。

(その他(オフィスアワー等))

この授業は全回オンラインにより実施する。資料の配付方法等については初回授業時に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系60

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		ジャイナ説話におけるヒンドゥー神話批判									
【授業の概要・目的】											
<p>インド中世にジャイナ教徒は非常に多くの説話文献を残しており、その多くはサンスクリットではなく、中期インド・アーリア語であるマハーラーシュトリーやアプブランシャで著わされている。マハーラーシュトリーで書かれ、ヒンドゥー神話を風刺したDhurtakhyana (『悪党物語』)もその一つである。この作品は5人の悪党の首領たち(一人は女性)が旅の宿りでたまたま一堂に会し、ほらの吹き合いをして夜をすごすという楽しい作品であるが、その中で、さまざまなヒンドゥー神話をほら話として笑い飛ばしている。授業では、まずこの作品に語られるヒンドゥー神話を叙事詩・プラーナ等のヒンドゥー側の文献に伝承されている語りと比較検討したうえで、ジャイナ教徒がヒンドゥー神話をどのように受け止めたのかを考察する。さらに、プラークリット(文学作品に用いられる中期インド・アーリア語)を代表するマハーラーシュトリーの読解力を身につけることをめざす。</p>											
【到達目標】											
<p>マハーラーシュトリーの読解力が身につく、マハーラーシュトリー文学の研究方法を学ぶことができる。また中世のインドにおけるジャイナ教とヒンドゥー教の相互関係を学ぶことができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>全5章から成る作品のうち、昨年度に第3章前半を精読したので、今回は、第3章全体を復習を兼ねて講読・検討したのち、第4章を精読する。以下の神話の番号はKrümpelmannの翻訳に従う。原文はマハーラーシュトリーで著されているが、Ahmedabad版にはサンスクリットの翻案も含まれているので、そちらを参照することができる。</p> <p>第1回 Dhurtakhyanaの内容概説、Maharastriを読むためのツールの説明 第2回 Elasadhaのほら話(第3章) 第3回 焔焔の反駁(1): 神話17~19 第4回 焔焔の反駁(2): 神話20と21 第5回 焔焔の反駁(3): 神話22 第6回 焔焔の反駁(4): 神話23~26 第7回 焔焔のほら話(第4章) 第8回 Khandapanaの反駁(1): 神話27~29 第9回 Khandapanaの反駁(2): 神話30~32 第10回 Khandapanaの反駁(3): 神話33からKadruとVinataの対立 第11回 Khandapanaの反駁(4): 神話33からGarudaの誕生 第12回 Khandapanaの反駁(5): 神話33からGarudaによるソーマの窃盗 第13回 Khandapanaの反駁(6): 神話33からGarudaと神々の戦い 第14回 Khandapanaの反駁(7): 神話34~36 第15回 全体の総括</p>											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

【履修要件】

基礎的なサンスクリット読解能力

【成績評価の方法・観点】

平常点により評価する。

【教科書】

授業で扱う資料はアップロードし、学期の初めにその情報を告知する。主たる校訂版および翻訳は以下のとおりである。

Haribhadrasuri, Dhurtakhyana. Edited by Jina Vijaya Muni. Singh Jain Series, No.19. Bharatiya Vidya Bhavan, Bombay, 1944. (Reprint: Sarasvati Oriental Research Sanskrit Series No.15, Sarasvati Pustak Bhandar, Ahmedabad, 2002).

Krümpelmann, Kornelius, Das Dhuttakkhana: eine jainistische Satire.

European university studies, Reihe 27, Asiatische und Afrikanische Studien, Bd.74. Peter Lang, 2000.

Haribhadra, Ballade des coquins. Titre original: Dhuttakhana (Dhurtakhyana). Traduction inédite du prakrit, présentation, notes, chronologie et bibliographie par Jean-Pierre Osler et Nalini Balbir. Paris: GF Flammarion, 2004.

【参考書等】

(参考書)

Frank van den Bossche, A reference manual of Middle Prakrit Grammar. The Prakritis of the Dramas and the Jain Texts. Gent, 1999.

その他の文法書や辞書は初回の授業にて説明する。

【授業外学修(予習・復習)等】

第3章については、講師がサンスクリットに移したテキストを提示し、講読する。受講者は、その間にマハーラーシュトリーの文法とツールに慣れるように。第4章については、毎回の予習(訳の準備)が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系61

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36										
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA, Somdev
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語	
題目		Manameyodaya and Tarkasamgraha										
【授業の概要・目的】												
<p>How did the systematizers of the realist Mimamsa, Nyaya and Vaisesika schools of philosophy in the seventeenth century approach the inherited ancient philosophical texts of their own school? As newly developed navina- (Neo-) systems, what attitude did they show to the ancient authorities of their own system? To answer these questions we will look at the work of Annambhatta, whose work became so popular as to become a standard introductory manual. We will learn how to read the text with the aim of determining what issues motivated the author to adopt given strategies, and ultimately uncover what problems his systematization was trying to address.</p>												
【到達目標】												
<p>Students will learn how to read and study the epistemological sections of Manameyodaya of Narayana and the Tarkasamgraha of Annambhatta. The aim is to enable students to understand the fundamental principles of sastric debate. This will serve as a basic introduction to the methodology of the new style of philosophy that came to dominate all fields of enquiry. Students will read passages explaining, in simple and clear style, some of the major tenets of the newly Mimamsa and Nyaya-Vaisesika systems and see how they relate to earlier ideas and later developments.</p>												
【授業計画と内容】												
<p>Week 1: Introduction. Week 2: Prama, Pramana, Prameya and Pramatr. What are the major categories of discourse? Week 3: Perception (pratyaksa), intrinsic and extrinsic validity. Week 4: Testimony (sabda) Week 5: Analogy (upamana) and its object Week 6: Presumption (arthapatti) Week 7: Negation Week 8: Objects of veridical knowledge Week 9: Substance Week 10: Genus Week 11: Quality Week 12: Action Week 13: Non-existence Week 14: Yogic perception Week 15: Concluding discussion.</p>												
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----												

インド古典学(特殊講義)(2)

【履修要件】

Ability to read basic Sanskrit.

【成績評価の方法・観点】

Evaluation is based on regular attendance, participation by asking questions relevant to the readings, and a final essay to be handed in by week 15. The subject of the essay should touch on any aspect of texts we have read and discussed.

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

Y. V. Athalye 『The Tarkasamgraha of Annambhatta』 (Bombay. 1897)

『The Tarkasamgraha of Annambhatta』 (Bombay. 1897)

S. Kuppuswami Sastri 『A Primer of Indian Logic』 (Kuppuswami Shastri Research Institute. Madras. 1951.)

【授業外学修(予習・復習)等】

Preparatory reading of passages to be read and discussed in class.

(その他(オフィスアワー等))

To be determined.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系62

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Introduction to kaavya-"saastra-: Vakroktijiivitam by Kuntaka									
【授業の概要・目的】											
<p>In this course, we will read and analyse the Vakroktijiivita by Kuntaka (fl. 10th century AD in Kashmir), an influential and yet largely unstudied representative of the Kashmiri alamkaara"saastra-tradition.</p> <p>During the first term, we will concentrate on Kuntaka's examination of the basic concepts of the concerned field, which is found in the first chapter (unme.sa) of his work. Among several discussions of great historical relevance, we will encounter Kuntaka ' s deliberations about the nature and the classification of “ vakrokti ” and “ vakrataa ” , two core concept of the proposed literary theory, and explore his lengthy accounts of such terms as “ maarga- ” and “ gu.na- ” .</p> <p>From the linguistic point of view, the Vakroktijiivita can be read in order to develop one ' s skills in reading both technical (“ saastric) as well as fine (kaavya) literature. The majority of discussed examples are provided with a short commentary, so that the text also provides an opportunity to sharpen one ' s skills in reading Sanskrit commentaries.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> to develop understanding of the literary theory proposed by Kuntaka to develop understanding of the core concepts of the ala.mkaara"saastra- to develop skills in reading, understanding and translating "saastric literature in Sanskrit to develop skills in reading and understanding Classical Sanskrit kaavya to develop skills in reading and understanding of Sanskrit commentaries on kaavya to develop skills in reading and interpreting Sanskrit kaavya literature on the basis of its commentaries 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1), during the remaining weeks 2 to 15, we will read, translate and analyse the Vakroktijiivitam by Kuntaka.</p>											
【履修要件】											
<p>This course is primarily directed at students starting from the third year of Sanskrit and above. No prior exposure to Indian literary theories is necessary. Classes will be held in English.</p>											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

Preparation of translations of Sanskrit text at home, active participation in the classroom.

[教科書]

The reading materials will be distributed during the class.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

The students will need to prepare English (or any language) translations of Sanskrit texts.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系63

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 天野 恭子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ヴェーダ祭式文献研究									
【授業の概要・目的】											
<p>古代インド最古層の散文テキストを含む、マイトラーヤニー・サンヒター（BC900年頃成立）から重要な箇所を選んで内容を検討し、当時の思想および社会について考察する。難解な内容を理解するために、言語的に精密な読解が必要であり、そのためのヴェーダ言語学、印欧語比較言語学の知識を学ぶ。同文献は、インド思想の発展、社会の変遷についても貴重な資料を多く含むため、後の時代のインドの宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）や社会に関心のある者にとっても、重要である。</p>											
【到達目標】											
<p>最古のヴェーダ祭式文献の精読によって、インド文献（サンスクリット文献）を言語学的に正しく読解する能力を得る。後にインドで発展した様々な宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）に連なる、原初的な信仰について学ぶため、インド思想史、インド社会史全体についての理解が深まる。文献の内容のみならず、文献の成立状況についても多くの問題が残っているため、このような未解決の問題に対する学問的な態度を学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ヴェーダ祭式文献についての概観、ヴェーダ文献研究の方法論。 第2回 ヤジュルヴェーダ文献についての最新の研究について。 第3回から第15回 マイトラーヤニー・サンヒター（ソーマ祭についての記述）を読み、言語学および祭式・文化的側面から考察を行う。</p>											
【履修要件】											
サンスクリット基礎文法の既習者。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（予習および授業内容の復習の状況）による。											
【教科書】											
教材を授業時に配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習を必要とする。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 福山 泰子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		アジャンター石窟研究概論									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、インド石窟寺院の中でも多くの荘厳な彫刻や絵画、豊富な碑銘資料を残す仏教石窟アジャンターに注目する。講義では、石窟の空間構造、また、碑銘資料から見る寄進の諸相、種々の仏教説話図の図像的特徴、仏陀観の変容等を他地域の作例や経典記述との比較検討を通して考察するほか、アジャンターの歴史的背景を壁画中の諸民族の表現からも探る。加えて、アジャンターの日本近代美術および近代仏教における再評価についても言及する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代インド仏教のあり方を文献資料のみに依拠するのではなく、造形資料を加えて多角的に読み解くことによって、当時の信仰の実態や歴史的背景を理解することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション インド石窟寺院概説 2. アジャンター石窟寺院概観(1) 3. アジャンター石窟寺院概観(2) 4. 碑銘が語る歴史と寄進者の諸相 5. 仏教説話図と経律の比較研究(1) 6. 仏教説話図と経律の比較研究(2) 7. 仏教説話図と経律の比較研究(3) 8. 仏伝「舎衛城の神変」から見る仏陀観の変容 9. 石窟空間と仏伝主題の配置 10. 生死輪廻図の諸相 11. 石窟寺院におけるヤクシャと菩薩の機能 12. 壁画に見る異民族とその役割 13. 壁画に見る古代インドの風俗 建築物・服飾・食 14. 近代におけるアジャンターと日本人の邂逅 15. 総括 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>議論に対する積極的な参加などによる平常点（50点）、レポート（50点）により評価する。</p>											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業内容に応じて、データを提示する。

[参考書等]

(参考書)

Schlingloff, D. 『Studies in the Ajanta Paintings-Identifications and Interpretations-』 (Ajanta Publications, 1985)

Schlingloff, D and M. Zin 『Ajanta-Handbuch der Malereien』 (Wiesbaden: Harrasowitz Verlag, 2003)

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に提示した参考文献で予習し、授業後は講義内容の復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

以下のメールアドレス (yfukuyama@world.ryukoku.ac.jp) までご連絡下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系65

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系66

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴェーダ語を読む力を身につける。 ・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。 ・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。 ・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hymn 1（7週間） 2. Hymn 2（7週間） 3. フィードバックなど（1週間） 											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET13 61633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学（特殊講義） Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山畑 倫志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		アパブランシャ語とジャイナ教文学：ジャイナ教のラーマ説話とクリシュナ説話									
【授業の概要・目的】											
<p>アパブランシャ語は中期インド語のうち最新層にあたる言語であり、特に9世紀から12世紀にかけて、ジャイナ教文学作品に多く用いられた。ジャイナ教文学には主要なジャンルとして聖者伝文学があるが、その中にはラーマ説話やクリシュナ説話といったヒンドゥー教と共通する説話も多く取り入れられている。しかし、その内容にはジャイナ教独自の要素がしばしば見られる。</p> <p>この授業ではアパブランシャ語の文法とジャイナ教文学を概観した後、実際の作品の講読を行う。講読で扱う文献は初期アパブランシャ語文学の代表的な作品であるスヴァヤンブー（Svayambhu, 9-10世紀）の『パドマの行伝』（Paumacariu）とプシュパダanta（Puspadanta, 10世紀）の『マハープラナーナ』（Mahapurana）である。前者はジャイナ教のラーマ説話、後者はジャイナ教で重視される63偉人全てを扱う作品である。『パドマの行伝』からはジャイナ教ラーマ説話として特徴的な箇所を、『マハープラナーナ』からはクリシュナ説話の箇所をとりあげる。</p> <p>授業の中ではヒンドゥー教のラーマとクリシュナ、そしてジャイナ教徒による他の作品との比較を行いつつ、ジャイナ教がこれらの説話を自身の文学の主要素として取りこんだ経緯や理由についても考察する。</p>											
【到達目標】											
アパブランシャ語の読解力を身につけ、アパブランシャ語によるジャイナ教文学の研究方法を習得する。ジャイナ教文学の主要な類型である聖者伝文学の特徴と、そこにヒンドゥー教と共通する説話を取り入れられた経緯について理解する。											
【授業計画と内容】											
授業計画と内容											
第1回 アパブランシャ語文法の概要と読解のための参考書											
第2回 ジャイナ教とラーマ説話											
第3回 Paumacariu, Sandhi 12.1-6											
第4回 Paumacariu, Sandhi 12.7-12											
第5回 Paumacariu, Sandhi 36.1-6											
第6回 Paumacariu, Sandhi 36.7-13											
第7回 Paumacariu, Sandhi 41.5-11											
第8回 Paumacariu, Sandhi 54.1-7											
第9回 Paumacariu, Sandhi 54.8-14											
第10回 ジャイナ教とクリシュナ説話											
第11回 Mahapurana, Sandhi 88.1-4											
第12回 Mahapurana, Sandhi 88.5-9											
第13回 Mahapurana, Sandhi 88.10-14											
第14回 Mahapurana, Sandhi 88.15-19											
----- インド古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

インド古典学（特殊講義）(2)

第15回 Mahapurana, Sandhi 88.20-24

講義日程については、5月初旬にKULASISを通して連絡する。

【履修要件】

基礎的なサンスクリット語の読解能力を要する。アパブランシャ語については授業内で解説するが、マハーラーシュトラ語など他のプラークリット諸語についての知識もあると望ましい。

【成績評価の方法・観点】

授業への参加度を含めた平常点で評価する。

【教科書】

講読箇所はコピー等で配布する。講読するテキストの主な校訂と翻訳を下記に挙げる。

Paumacariu:

Bhayani, H. C., Paumacariu, Bharatiya Jnanapith Publication, Varanasi, 1958-1970.

Nagal, Shantilal, Jain Ramayana-Paumacaryu, B.R. Publishing Corporation, Delhi, 2002.

De Clercq, Eva, Een kritische studie van Svayambhudeva's Paumacariu, Gent, Universiteit Gent, 2003.

De Clercq, Eva, The Life of Padma, Cambridge, Harvard University Press, 2018.

Mahapurana:

Puspadanta, Mahapurana, vol.1-5, Edited by P. L. Vaidya, Translation by Devendra Kumar Jain, New Delhi, Bharatiya Jnanpith Publication, 1979-1999.

【参考書等】

（参考書）

Ganesh Vasudev Tagare 『Historical Grammar of Apabhramsa』 (Motilal Banarsidass, 1987) ISBN: 9788120802902

Kamal Chand Sogani 『Apabhramsa Grammar and Composition』 (Apabhramsa Sahitya Academy, 2005)

Eva De Clercq 『The Apabhramsa of Svayambhudeva's Paumacariu』 (Hindi Granth Karyalay, 2010) ISBN:9788188769469

他に参照する辞書や文法書は授業内で提示する。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習として各回に講読する箇所の訳を準備する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系68

科目ナンバリング		G-LET13 71643 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Introduction to the Paninian System of Grammar									
【授業の概要・目的】											
<p>The purpose of this class is to provide an introduction to the Paninian system of Sanskrit grammar, at least a basic understanding of which is an indispensable tool for the study of almost any genre of Sanskrit literature. On the one hand, the course participants will be introduced to the basic principles and workings of the Astadhyayi and, on the other hand, they will encounter several advanced topics pertaining to the exegesis and the application of individual rules of grammar.</p> <p>After a series of introductory lectures, the course participants will be guided along the text of a selected section of the Astadhyayi. Occasionally, we will make use of different commentaries on the text so as to gain a deeper understanding of the actual rules and of the hermeneutic strategies developed by the Paninian tradition.</p> <p>(Note that the course is designed in such a way as to allow repeated participation for those who have already attended the same class in the previous year(s).)</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - to study the basic technical vocabulary, derivational and semantic principles, as well as the organisation of Panini ' s Grammar - to study various parts of Panini's Grammar - to provide basic tools for an easy access to Panini's rules of grammar - to develop a deeper understanding of Sanskrit grammar and syntax 											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1-2: General Introduction to the Ashtadhyayi (Aa.s.taadhyayii)</p> <p>Week 3-15: Study of selected sections from the Astadhyayi and related literature</p>											
【履修要件】											
<p>Basic knowledge of Sanskrit. Classes will be held in English. Note that the course is designed in such a way as to allow repeated participation for those who have already attended the same class in the previous year(s).</p>											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom based on the review of the studied material.

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

To be announced.

(その他(オフィスアワー等))

To be announced.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系69

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		プラーナ文献とダルマニバンダ文献									
【授業の概要・目的】											
<p>プラーナ文献は、布施や聖地巡礼などの広義の「ダルマ」を主題として扱う部分を含んでおり、こうした箇所はしばしば12世紀以降に成立したダルマニバンダというジャンルの文献の中に、法典やマハーバーラタと並んで引用される。このことは、プラーナ文献が、ダルマ、特に宗教的な実践に関して権威ある文献とみなされていたことを示している。ダルマニバンダ文献は、作者と成立年代・地域がほぼ確定できるため、こうした引用は、プラーナ文献の成立と伝承を研究するためには最も信用できる資料である。この授業では、初期のプラーナの一つである『スカンダプラーナ』の中で、まとめてダルマニバンダ文献に引用されている箇所を取り上げ、スカンダプラーナの諸写本の読みと複数のダルマニバンダ文献における引用とを比較検討することで、ダルマニバンダ文献における引用の性格、ダルマニバンダ文献相互間の関係、さらに『スカンダプラーナ』の伝承過程について考察する。</p>											
【到達目標】											
プラーナ文献とダルマニバンダ文献の特徴、社会文化的役割と研究方法を学ぶことができる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ダルマニバンダ文献、特に初期の文献におけるプラーナ文献の引用 第2回 『スカンダプラーナ』の成立と伝承、3つのRecensionの関係 第3～7回 布施とヴラタ：Skandapurana 111 & 112 第8～9回 木を養子にする儀礼：Skandapurana 158 & 162 第10～11回 秋の満月祭 (Kaumudimahotsava)：Skandapurana 75 & 76 第12～15回 Varanasiの聖地の記述：Skandapurana 29</p>											
【履修要件】											
基礎的なサンスクリットの読解能力											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（50点）と期末レポート（50点）											
【教科書】											
授業で扱うスカンダプラーナの章については、ダルマニバンダ文献における引用を含む校訂テキストを初回の授業で提供する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各回で扱うテキストには、引用と比較しながら、必ず事前に目を通しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系70

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Nyayasiddhantamuktavali on inference									
【授業の概要・目的】											
We will read the sections of the 17th century Nyayasiddhantamuktavali of Visvanatha with excerpts from the Dinakari and Ramarudri commentaries. The purpose of this class is to become familiar with the language and style of the modern Nyaya school by reading one of the most popular primers. The focus will be on learning the technical terminology and the basic method of analysis by looking at the definitions of the valid means to cognition and related topics.											
【到達目標】											
Students will learn how to read the later forms Sastric Sanskrit and discuss the prerequisites expected from the intended reader. At first students will focus on learning the fundamentals of the new style of navyanyaya analysis. Then students will learn to analyze definitions more precisely by employing the newly introduced typology of qualifiers such as avacchedaka, visesana, visesya, prakara etc. The final goal is for students to become able to successfully parse the basic definitions of the valid means of cognition.											
【授業計画と内容】											
Week 1-2: The history of Inferential Pervasion (vyapti). Weeks 3-8: The definitions of vyapti in the Nyayasiddhantamuktavali. Weeks 9-14: Analysis of definitions. Week 15: Summary and conclusion.											
【履修要件】											
Ability to read basic Sanskrit.											
【成績評価の方法・観点】											
Evaluation is based on regular attendance, participation in class discussions and by asking relevant questions. A short essay touching on any issue in the texts we have read and discussed is to be submitted by week 15.											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書)											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

Begin by reading:

Wada, Toshihiro, 1989: "Indo-shin-ronrigaku ni okeru seigensha (avacchedaka) (1)" (Delimiter (avacchhedaka) in Navya-Nyaya (1)), Tokai-Bukkyo 34: 79-88.

The Karikavali of Vishwanath Panchanana Bhatta with the Commentary Siddhanta-Muktavali. Edited with notes by Mahadev Gangadhar Bakre. Bombay: Nirnayasagara Press, 1906.

Karikavali-Muktavali. Edited with the Dinakri of Dinakara and the Ramarudri of Ramarudra by Harirama Sukla. Kashi Sanskrit Series 6. Varanasi: Chowkhamba Sanskrit Series Office, 1951.

（その他（オフィスアワー等））

To be announced.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系71

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		パーリ語講読									
【授業の概要・目的】											
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す（Jaatakathavannanaa（ジャータカ（本生譚）注釈））に収録されている比較的短い動物寓話を読む予定）。</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>											
【到達目標】											
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーリ語について（言語的特徴などについて概説） ・精読に必要な辞書や文法書などの紹介 ・講読テキストのプリント配布 ・講読テキストに関する概説（物語の内容、関連テキストなど） <p>第2回～5回：テキスト講読（Sumsumaraajaataka ワニ本生）</p> <p>第6回～9回：テキスト講読（Kacchapajaataka カメ本生）</p> <p>第10回～14回：テキスト講読（Bakajaataka 青サギ本生）</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。 ・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。 											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

【履修要件】

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

【成績評価の方法・観点】

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。
（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

【教科書】

プリント配布

【参考書等】

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系72

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 芳原 綾子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アルダマーガディー入門									
【授業の概要・目的】											
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点も多い。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、プラークリット(中期インド語)の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読みながら、プラークリットになれる。</p>											
【到達目標】											
<p>アルダマーガディーで書かれたテキストを読むことで、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつプラークリットの特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使うようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介 2回目:母音と子音の音韻変化 3回目:名詞変化 4回目:代名詞の変化 5回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形) 6回目:過去自制、分詞etc. 7回目~10回目:日常的に唱えられる定型句をまとめた『アーバッサヤ』第1章と、五大誓戒を述べる『ダサヴェーヤーリヤ』4章の散文部分 11回目~14回目:出家者にとっての禁止行為を述べる『ダサヴェーヤーリヤ』3章 15回目:14回までで残っている課題を含めた全体のまとめ</p>											
【履修要件】											
初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点:授業内での発言(和訳等含む)											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[教科書]

コピーを配布する。

渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」 『ジャイナ教研究』 第14-16号, 2008--2010.
F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認しておく。

復習：各回、文法事項の確認

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系73

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 天野 恭子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ヴェーダ祭式文献研究									
【授業の概要・目的】											
<p>古代インド最古層の散文テキストを含む、マイトラーヤニー・サンヒター（BC900年頃成立）から重要な箇所を選んで内容を検討し、当時の思想および社会について考察する。難解な内容を理解するために、言語的に精密な読解が必要であり、そのためのヴェーダ言語学、印欧語比較言語学の知識を学ぶ。同文献は、インド思想の発展、社会の変遷についても貴重な資料を多く含むため、後の時代のインドの宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）や社会に関心のある者にとっても、重要である。</p>											
【到達目標】											
<p>最古のヴェーダ祭式文献の精読によって、インド文献（サンスクリット文献）を言語学的に正しく読解する能力を得る。後にインドで発展した様々な宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）に連なる、原初的な信仰について学ぶため、インド思想史、インド社会史全体についての理解が深まる。文献の内容のみならず、文献の成立状況についても多くの問題が残っているため、このような未解決の問題に対する学問的な態度を学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回授業時に「ヴェーダ祭式文献についての概観、ヴェーダ文献研究の方法論」を講義する。第2回から第15回は、マイトラーヤニー・サンヒター（ソーマ祭に関する記述）の原典講読を行う。参加者が事前に準備した訳を発表し、言語学および祭式・文化的側面から考察を行う。</p>											
【履修要件】											
サンスクリット基礎文法の既習者。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（予習および授業内容の復習の状況）による。											
【教科書】											
教材を授業時に配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習を必要とする。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系74

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授 文学研究科 特定外国語担当講師		横地 優子 VASUDEVA, Somdev KLEBANOV, Andrey	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		インド学・サンスクリット学の諸問題（論文指導）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、受講者はインド学・サンスクリット学の分野において、みずから選んだテーマに関する研究成果を発表し、討論の場で議論して批判を受ける。こうした訓練を重ねることで、批判的な研究方法、本格的な論文を作成するための技術を身につけることを目的とする。											
【到達目標】											
インド学・サンスクリット学の分野における研究方法を学び、論文作成技術を身につけることができる。											
【授業計画と内容】											
学生各自が選んだテーマについて、毎回研究発表をおこなってもらい、議論・批判を通して論文の作成方法について指導する（15週）。当該年度の卒論・修論・博論提出予定者にはそれぞれの論文に関わるテーマやテキストに関する発表を行ってもらおう。それ以外の学部生、院生はそれぞれの研究課題について特定のテーマを選んで発表を行ってもいいし、また近年の重要論文についての研究発表を行ってもよい。各学生には1～2回程度の発表の機会が与えられる。また、当該分野の短期滞在中の研究者や教員が模範として発表を行うこともある。討論を通じて研究方法、論文作成方法を学ぶことが主眼なので、討論の時間を十分にとるために各自の1回の発表は半時間程度におさめることが望ましい。											
【履修要件】											
原則的にインド古典学専修の学生であるが、インド学に関連する分野の研究を行っている他専修の学生も履修可。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（発表と討論への参加度により総合的に判断する）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 特になし。											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

発表内容について早めに計画をたてて、十分な準備をすること。

（その他（オフィスアワー等））

インド古典学の学部4年生以上の学生には必修。自分の発表をするだけでなく、他の発表を聞いて積極的に討論に参加することを期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系75

科目ナンバリング		G-LET13 71644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科 教授		横地 優子 VASUDEVA, Somdev	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		インド学・サンスクリット学の諸問題（論文指導）									
[授業の概要・目的]											
この授業では、受講者はインド学・サンスクリット学の分野において、みずから選んだテーマに関する研究成果を発表し、討論の場で議論して批判を受ける。こうした訓練を重ねることで、批判的な研究方法、本格的な論文を作成するための技術を身につけることを目的とする。											
[到達目標]											
インド学・サンスクリット学の分野における研究方法を学び、論文作成技術を身につけることができる。											
[授業計画と内容]											
学生各自が選んだテーマについて、毎回研究発表をおこなってもらい、議論・批判を通して論文の作成方法について指導する（15週）。当該年度の卒論・修論・博論提出予定者にはそれぞれの論文に関わるテーマやテキストに関する発表を行ってもらおう。それ以外の学部生、院生はそれぞれの研究課題について特定のテーマを選んで発表を行ってもいいし、また近年の重要論文についての研究発表を行ってもよい。各学生には1～2回程度の発表の機会が与えられる。また、当該分野の短期滞在中の研究者や教員が模範として発表を行うこともある。討論を通じて研究方法、論文作成方法を学ぶことが主眼なので、討論の時間を十分にとるために各自の1回の発表は半時間程度におさめることが望ましい。											
[履修要件]											
原則的にインド古典学専修の学生であるが、インド学に関連する分野の研究を行っている他専修の学生も履修可。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（発表と討論への参加度により総合的に判断する）											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 特になし。											
[授業外学修（予習・復習）等]											
発表内容について早めに計画をたてて、十分な準備をすること。											
（その他（オフィスアワー等））											
インド古典学の学部4年生以上の学生には必修。自分の発表をするだけでなく、他の発表を聞いて積極的に討論に参加することを期待する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系76

科目ナンバリング		G-LET13 7M143 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学 (演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Introduction to Indian Aesthetics									
【授業の概要・目的】											
This course is designed as a general introduction to the theory and practice of Indian aesthetics. It provides two things: 1) a historiographic survey of the most influential authors, works, and theories; and 2) a narrative account of the major debates and disputes that led to specific evolutions of doctrine and practice.											
【到達目標】											
Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 What is our goal? Introduction to the sources and languages.</p> <p>Week 2 The challenge of South Asian polyglossia, heteroglossia and hyperglossia. What is the point of historiography? How can we periodize and localize South Asia?</p> <p>Week 3 Bharata 's Natyasastra, The Foundational Text, Theatre, Dance, Music, Poetry and Other Arts</p> <p>Week 4 Early Development of the Rasa Theory</p> <p>Week 5 The Early Rhetoricians: Bhamaha and Dandin</p> <p>Week 6 Competing Categories I: Vamana and his Virtues; Defects; Textures; Styles</p> <p>Week 7 Competing Categories II: Rudrata and the Systematisation of Ornaments of Sound, Sense, and Both</p> <p>Week 8 Competing Categories III: Anandavardhana and the New Paradigm: Denotation, Implication, Suggestion, Sentiment</p> <p>Week 9 The Synthesizers: Bhoja and Mammata</p> <p>Week 10 Ruyyaka and the Epistemology of Aesthetics</p> <p>Week 11 Sobhakara's Modal Aesthetics</p> <p>Week 12 Aesthetics as Theology: Visvanatha, Simhabhupala and the Bhakti Movements</p> <p>Week 13 Aesthetics and the New Style of Philosophy: Appayadiksita and Jagannatha</p> <p>Week 14 The Unexpected Return of Figurative Poetry</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>											
【履修要件】											
Regular reading of assigned work and participation in the group discussions.											
----- インド古典学 (演習) (2)へ続く -----											

インド古典学（演習）（2）

【成績評価の方法・観点】

In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%). One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

【授業外学修（予習・復習）等】

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET13 7M143 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学 (演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		A History of Tantric Yoga									
【授業の概要・目的】											
<p>This class has a twofold aim. [1.] It introduces the main authors, scriptures, commentaries, and exegetical works describing the practices and theories of systems of Tantric yoga.</p> <p>[2.] We will study, in English translation, selected passages defining key practices and theoretical paradigms that went on to influence other systems of meditation and yoga.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current primarily in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 What is Tantrism? The Sources of Liberation; Ritual, Knowledge, Yoga and Observance</p> <p>Week 2 The Major Initiation Lineages and their attitude to Yoga</p> <p>Week 3 The Saivasiddhanta; Dualism and the Supremacy of Ritual</p> <p>Week 4 The Nondualists and the Supremacy of Knowledge</p> <p>Week 5 The Antiritualist Tradition</p> <p>Week 6 Tarka: The Yoga of Six Ancillaries</p> <p>Week 7 The Varieties of the Subtle Body</p> <p>Week 8 Kaula Yoga: Pinda, Pada, Rupa and Rupertita, The Early Development of Kundalini</p> <p>Week 9 The Western Transmission of Kubjika and the Later Evolution of Kundalini Yoga</p> <p>Week 10 The Dharanas of the Vijnanabhairava I</p> <p>Week 11 The Dharanas of the Vijnanabhairava II</p> <p>Week 12 The Rejection of Patanjali's Yoga</p> <p>Week 13 The Accommodation of Patanjali's Yoga</p> <p>Week 14 The Matsyendrasamhita, The Amrtasiddhi and Early Hatha Yoga</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>											
【履修要件】											
<p>Regular preparation of assigned readings and participation in the group discussions.</p>											
----- インド古典学 (演習) (2)へ続く -----											

インド古典学（演習）（2）

【成績評価の方法・観点】

In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%). One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）

【授業外学修（予習・復習）等】

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系78

科目ナンバリング		G-LET13 71653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級演習(古典サンスクリット)									
【授業の概要・目的】											
サンスクリット文法を既習した学生を対象とする初級演習。語彙集を備えたリーダーを使って、易しい韻文・散文を読むことで文法知識を確実に身につけること、最終的には辞書を使って自力で原典が読めるようになることを目的とする。											
【到達目標】											
サンスクリット文法をきちんと身につけた上で、テキストを正確に読むことができるようになる。また、サンスクリットの辞書を有効に使えるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 これからテキストを読んでいくための基礎的知識と工具書(文法書・辞書など)の説明を行う。文の基本構造の分析や複合語などのいくつかの文法項目の復習を行う。 第2～6回 「ナラ王物語」から数章を読む。 第7～11回 「ヒトパデーシャ」からいくつかの物語を選んで読む。 第12～14回 「カターサリットサーガラ」からいくつかの物語を選んで読む。 第15回 定期試験 第16回 フィードバック 毎回の進度は受講者の習熟度によるが、最初の数回は文法を確認しながらゆっくり読み、その後は、毎回2頁程度の進度で読み進める。											
【履修要件】											
サンスクリット文法既習者											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験によって評価する。											
【教科書】											
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』(Motilal Banarsidass) ISBN:978-81-208-1362-2(インド学研究室にて購入できる。)											
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----											

インド古典学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習・復習が必須である。特に復習が大事であり、予習が十分にできなかった場合も授業には出席して復習をきちんと行うことが肝心である。またデーヴァナーガリー文字を学んでいない者は、受講前に自習しておくこと(サンスクリットやヒンディーの文法書で自習することができる)。

(その他(オフィスアワー等))

この授業を履修する学生は、後期に開講される「サンスクリット初級演習(ヴェーダ語)」も履修することが望ましい。どちらを先に履修してもかまわない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系79

科目ナンバリング		G-LET13 71653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 天野 恭子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級演習(初期サンスクリット[ヴェーダ語])									
[授業の概要・目的]											
サンスクリット基礎文法の既習者を対象とする初級演習。ヴェーダ聖典の原文を講読しながら、初期サンスクリット(ヴェーダ語)の文法や原典講読の方法論の基礎を習得する。											
[到達目標]											
サンスクリット語の文章を正確に分析する技法を学び、どの時代の、どのジャンルのサンスクリット文献にも対応できる読解力の基礎を身につける。特に、語形等に独特の特徴を持つ初期サンスクリット語(ヴェーダ語)をも読解できる力を身につける。											
[授業計画と内容]											
Lanman, C. R., A Sanskrit Readerを教科書とし、その中のヴェーダ聖典を引用している部分を学習する。 引用されているヴェーダ聖典は、韻文で作られた讃歌や、散文で記された神学的祭式解釈など、幅広いジャンルを含むが、そのような様々な文体、内容に触れる。参加者は、A Sanskrit Readerに記載されている語彙集を用いて事前に原文を訳し、授業で発表するが、それに加え、原典を実際に研究する際に必要な専門書を授業の中で紹介し、使用の手ほどきをする。											
第1回 ヴェーダ聖典についての概論。 第2回～第15回 テキスト精読(リグヴェーダ、マイトラーヤニー・サンヒター、シャタパタ・ブラーフマナ)。											
[履修要件]											
サンスクリット文法既習者。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(講読の予習および授業内容の復習の状況)によって評価する。											
[教科書]											
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』 ISBN:978-81-208-1363-2 (インド学研究室にて購入できる。)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回の予習・復習が必須である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系80

科目ナンバリング		G-LET13 71653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		Reading German Indology and Buddhology									
[授業の概要・目的]											
<p>We will read representative examples of important styles of German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, so as to develop students' abilities to read and understand academic German on their own.</p> <p>The aims of the course are (1) to introduce students into major works of German Indology and Buddhology, (2) to familiarize them with main stylistic features of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit, as well as (3) ultimately to develop students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
[到達目標]											
Students will develop their abilities to read and understand German academic writings on their own.											
[授業計画と内容]											
The choice of texts depends on student interest and specialization. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs (15 weeks).											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
Active participation in the classroom, preparation of translations from German at home.											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
Preparation of German textual passages to be translated and discussed. Approximately one to two hours per week.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系81

科目ナンバリング		G-LET13 71653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語及び英語
題目		印度古典学・仏教学フランス語文献の講読									
[授業の概要・目的]											
Rolf A. Stein(1911-1999)によって書かれた「La civilisation tibétaine」の様々な個所を講読する。本傑作は、地理的、歴史的、社会的、文化的、宗教的、哲学的なあらゆる観点からのアプローチによりチベットの文明を紹介しており、チベット語また中国語の原典、チベット渡航者による見聞録、そして現代研究に基づいて書かれている。授業では、特にチベットを偉大なインドと中国文明の交点と考えることでチベットにおける仏教の伝承を中心に考察する。											
[到達目標]											
印度古典学・仏教学に関するフランス語の二次文献を自立的に使えるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1回 イントロダクション 第2－15回 テキストの講読											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による（参加度と発表から総合的に判断する）。											
[教科書]											
コピーを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） Rolf A. Stein 『La civilisation tibétaine』（Paris: L'Asiatheque, 1996 (1987)） コピーを配布する。											
[授業外学修（予習・復習）等]											
毎授業の前、講読する箇所への予習が必要である。毎回、学生一人がフランス語を和訳および英訳し発表する。											
（その他（オフィスアワー等））											
DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系82

科目ナンバリング		G-LET49 89616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>											
【到達目標】											
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

[履修要件]

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

[成績評価の方法・観点]

- ・平常点(練習問題への理解度、および理解への積極性、50点)
- ・年度末筆記試験(50点)。

[教科書]

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:萩原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社)ISBN:978-4393101728

必要に応じて、補助資料(プリント)を配布します。

[参考書等]

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店)ISBN:978-4000202220

[授業外学修(予習・復習)等]

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくること。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系83

科目ナンバリング		G-LET49 89617 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(4時間コース)(語学) Sanskrit(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey			
配当 学年	1回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月5,木5	授業 形態	語学	使用 言語	英語
題目		Sanskrit Grammar									
【授業の概要・目的】											
This course targets at students with no prior knowledge of Sanskrit and offers a systematic introduction to the language. The main focus is laid upon learning the foundations of grammar, developing a basic vocabulary, and acquiring skills in understanding of Sanskrit texts.											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - to read and write in Devanagari-script (also used for Hindi) - to gain a systematic overview of basic and intermediate grammar of Classical Sanskrit - to develop skills of reading and interpreting simple prose and verse in Classical Sanskrit - to develop basic skills in composing prose sentences in Classical Sanskrit 											
【授業計画と内容】											
<p>We will largely follow the plan laid out in M. Deshpande ' s manual “ Samskrita-Subodhini: A Sanskrit Primer ” .</p> <p>The overall duration of the course is 30 weeks (15 + 15). We will spend the main bulk of this time (ca. 25 weeks) on the study and practice of Sanskrit grammar. During the final ca. five weeks of the course we will turn to reading of simple Sanskrit texts.</p>											
【履修要件】											
Classes will be held in English with translational help provided by a Japanese TA.											
【成績評価の方法・観点】											
Active participation in the classroom, review of studied materials, biweekly homework.											
【教科書】											
<p>M. Deshpande 『 Samskrita-Subodhini: A Sanskrit Primer 』 (The University of Michigan Press) ISBN: 9780891480792</p> <p>E.D. Perry 『 A Sanskrit Primer 』 (Nabu Press 2011) ISBN:178794733</p>											
----- サンスクリット(4時間コース)(語学)2へ続く -----											

サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)

[参考書等]

(参考書)

Arthur A. MacDonell 『A Sanskrit Grammar for Students』 (OUP, 1971)

[授業外学修(予習・復習)等]

Homework involves preparing translations from Sanskrit into English and translations from English into Sanskrit. Weekly review of grammatical categories and memorization of vocabulary. The expected preparation time is approximately two to three hours per week.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系84

科目ナンバリング		G-LET49 89633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語(初級)(語学) Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 国際教養学部 准教授 小松 久恵			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語(初級)									
【授業の概要・目的】											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初等文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
【到達目標】											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
【授業計画と内容】											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
前期											
1. 導入【1週】											
2. 文字と発音【4週】											
3. 文法と会話【9週】											
4. 中間試験【1週】											
5. 中間試験のフィードバック【1週】											
後期											
6. 文法と会話【8週】											
7. 文法と絵本・新聞講読【6週】											
8. 期末試験【1週】											
9. 期末試験のフィードバック【1週】											
【履修要件】											
授業には継続的に参加すること。											
----- ヒンディー語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ヒンディー語（初級）(語学)(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点（30％）と筆記試験（期末30、年度末40）によって評価する。

【教科書】

町田和彦『ニューエクスプレス、ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）

【参考書等】

（参考書）

辞書については初回の授業で紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関係の情報に関心を持つこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 89659 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語(中級)I Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級I									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な文章を精読できるようになる。 2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。 3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。 4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話ほか 第6～10週目：インド神話関連の物語 第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。 また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。 ・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第12課の文法項目）習得していること。（初級文法でここまで到達していない場合は受講不可） 											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%） 期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- ヒンディー語(中級)I(2)へ続く -----											

ヒンディー語 (中級) I(2)

(関連URL)

<https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsqE37tZIkuvqVPTa7g>(Hindi Fairy Tales)
<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Aacharya)
<https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw>(Akbar Birbal Stories)
https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqgG618HNX8qg(Panchatantra Stories in Hindi)
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))
http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV (インドのニュース・報道専門番組))
<https://www.youtube.com/user/aajtaktv>(Aaj Tak (インドのヒンディー語新聞))
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)
<https://publication.aa-ken.jp/>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、 『初級ヒンディー語文型練習帳』)
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))

[授業外学修 (予習・復習) 等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

(その他 (オフィスアワー等))

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 89660 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（中級）II Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級 II									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な文章を精読できるようになる。 2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。 3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。 4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：現代の短篇小説、ヒンディー語映画の詩歌 第6～10週目：新聞記事、TVニュース 第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。 また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。 ・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第12課の文法項目）習得していること。（初級文法でここまで到達していない場合は受講不可） 											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%） 期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- ヒンディー語（中級）II(2)へ続く -----											

ヒンディー語（中級）II(2)

（関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Acharya)
https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw(Indian Stories For Kids)
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtwcyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))
[http://khabar.ndtv.com/\(NDTV \(インドのニュース・報道専門番組\)\)](http://khabar.ndtv.com/(NDTV)
<https://www.youtube.com/user/aajtaktv>(Aaj Tak (インドのニュース・報道専門番組))
[http://www.jansatta.com/\(Jansatta \(インドのヒンディー語新聞\)\)](http://www.jansatta.com/(Jansatta)
http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))
<https://publication.aa-ken.jp>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、 『初級ヒンディー語文型練習帳』)
[https://flipgrid.com/\(FLIPGRID \(教育用Video SNSサービス\)\)](https://flipgrid.com/(FLIPGRID)
[https://www.bookwidgets.com/\(BookWidgets \(復習用オンライン・アプリケーション\)\)](https://www.bookwidgets.com/(BookWidgets)

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

（その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系87

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠研究									
[授業の概要・目的]											
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。											
[授業計画と内容]											
授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。授業は、初回に『菩提道次第大論』について概説し、二回目から十四回目は、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の同特殊講義をあわせて受講することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠研究									
[授業の概要・目的]											
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、十四回目までの授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。授業は、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。必要があれば、初回に『菩提道次第大論』について概説する。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の同特殊講義を受講していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏教漢語の語義解釈：梵語的側面と漢語的側面第3年度(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>漢字仏教語（仏教漢語）は中国と日本の仏教思想史の発展を知るための基本である。 中国の仏教徒は、サンスクリット語原典を逐一比較することなく、専ら漢語で仏教を理解した。 その結果、仏教漢語を理解する際に、インド本来の語義に加え、漢語特有の中国的解釈法を重ね合わせ、一語を二重三重に解釈して、意味や思想に幅を持たせる重層的効果を実現した。 この授業では、漢語に基づく仏教理解が、インド文化から何を継承し、中国でいかなる独自の展開を遂げたかを、基本的仏教語の語義を原文をもとに解明する。このことは仏教という外来文化を理解するための文化的・言語的・学術的背景を知ることにも役立つ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。 二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。 三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて以下3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点 2. 仏教漢文の訓読法 3. 電子化された一次資料の使い方 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的な一次資料と工具書 第2回：大蔵経の基礎知識と特徴と歴史、および特に注意すべき事柄 第3回：大正大蔵経を使用する時の注意と電子テキストの利用法 第4回：仏教漢語「懺悔」と「悔過」のインド語と中国的解釈 第5回： 同上 第6回： 同上 第7回：仏教漢語「鉢」と「應器」のインド語と中国的解釈 第8回： 同上 第9回：仏教漢語「方便」の中国的解釈 第10回：仏教漢語「世俗諦」と「勝義諦」のインド仏教的意味と中国的解釈 第11回： 同上 第12回： 同上 第13回：仏教漢語「南無」と「{口奄}」の意味と中国的解釈 第14回：前期に扱った諸語を整理する 第15回：総括</p>											
----- 仏教学(特殊講義) (2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文講読を担当する。積極的に意見と質問を出す）
自らの疑問や調べた内容を授業中に示し、出席者たち全員で意見交換してほしい。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

授業は毎回，配布資料を作成し，それに基づいて原文を読み，現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば，授業中にその都度知らせます。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして，授業で精読する箇所を下読みし，自分自身の訳を準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏教漢語の語義解釈：梵語的側面と漢語的側面第3年度(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>漢字仏教語（仏教漢語）は中国と日本の仏教思想史の発展を知るための基本である。 中国の仏教徒は、サンスクリット語原典を逐一比較することなく、専ら漢語で仏教を理解した。 その結果、仏教漢語を理解する際に、インド本来の語義に加え、漢語特有の中国的解釈法を重ね合わせ、一語を二重三重に解釈して、意味や思想に幅を持たせる重層的効果を実現した。 この授業では、漢語に基づく仏教理解が、インド文化から何を継承し、中国でいかなる独自の展開を遂げたかを、基本的仏教語の語義を原文をもとに解明する。このことは仏教という外来文化を理解するための文化的・言語的・学術的背景を知ることにも役立つ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。 二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。 三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて以下3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点 2. 仏教漢文の訓読法 3. 電子化された一次資料の使い方 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的一次資料と工具書 第2回：大蔵経の基礎知識と特徴と歴史、および特に注意すべき事柄 第3回：大正大蔵経を使用する時の注意と電子テキストの利用法 第4回：仏教漢語「戒」「律」「戒律」のインド語と中国的解釈 第5回： 同上 第6回： 同上 第7回：仏教漢語「現量という複合語の解釈」の解釈法とサンスクリットの複合語を解釈するための中国的表現 第8回： 同上 第9回： 同上 第10回：仏教で用いる音写語記号「引」と「二合」の意味 第11回： 同上 第12回：仏教語「悉達」と「悉達多」の解説法：音写語か意味の訳か 第13回： 同上 第14回：後期に扱った内容を整理する 第15回：前期と後期を通じて総括する</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（原文講読を担当する。積極的に意見と質問を出す）
自らの疑問や調べた内容を授業中に示し、出席者たち全員で意見交換してほしい。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀医科大学 医学部 教授 室寺 義仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『瑜伽師地論』におけるブツダ所説の伝承(ア ガマ)についての解説の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>ゴータマ・ブツダは、紀元前500年～300年頃の或る時期、ガンジス川の中流域を活動の中心地として、80年の生涯を送った人物であるが、東アジアに広まる仏教の創始者となる。20代の終わり頃、ブツダは覚醒体験を経て、その数ヶ月後、自覚内容を言葉化したとき、有情/衆生の存在の中核には「苦」があること(「苦諦」)を宣言した。この真理内容は、「四諦」「五蘊」「縁起」の所説として今に伝わる。このブツダの所説を伝える伝承(ア ガマ)が、古典インド文化圏における大乘仏教の二潮流の一つ、瑜伽行派の根本論書である『瑜伽師地論』の中において、どのような言葉として伝わり(パ リに伝承される文言との比較吟味を行い)、また、解説(ヴィバンガ)が行われるのか、サンスクリットで(現存する写本から知られる限りの)当該論書に伝わるアーガマ伝承を主たる検証の対象とし、7世紀の漢訳(玄奘訳)や9世紀のチベット訳を参照しながら精査・考察する。</p>											
【到達目標】											
サンスクリット原典テキスト、並びに、チベット訳・漢訳の翻訳テキストに対する文献学的分析手法を習得すること。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記の項目内容に沿った形で、まず、『瑜伽師地論』の概説から始め、ブツダの言葉の伝承(アーガマ)についての基本的知識の確認を行い、『瑜伽師地論』「撰異門分」に伝わるアーガマ、並びに、その中の(ブツダの)用語に対する解説について、注目すべき用語(例えば、「四念処」など)を取り上げ、文献学的な分析を行う。</p> <p>第1回 1. 『瑜伽師地論』の概説 第2回 2. ブツダ所説の伝承(アーガマ)、特に、パーリ「大念処経」の所説について 第3回 (1) パーリ・ニカーヤと漢訳・阿含について 第4回 (2) 『瑜伽師地論』「撰異門分」に伝わるアーガマについて 第5回～第15回 サンスクリット・テキストの講読 第5回から第15回は、『瑜伽師地論』のサンスクリット・テキストと(可能な限り、写本を参照する予定であるが、「撰異門分」はサンスクリットの断片しか伝わらないため)、パーリやチベット訳・漢訳との比較吟味を行いながら、『瑜伽師地論』に伝わるブツダの所説を伝える個々のアーガマを精読し、分析を行う。</p>											
【履修要件】											
サンスクリット語、パーリ語、古典チベット語を履修済みであること。											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点。
各授業での講読担当者を予め定めて発表してもらいます。
テキスト解説に対する緻密・正確度をもって評価します。

[教科書]

授業中に指示する
テキストは、適宜、コピー配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業では講読担当者を予め定めて発表してもらいますが、担当者以外も自らサンスクリット・原典テキスト、並びに、比較吟味すべきチベット訳や漢訳も併せて読み比べ、予習した上で、授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

室寺への連絡は、murojiji@belle.shiga-med.ac.jp 宛にメール連絡をして下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀医科大学 医学部 教授 室寺 義仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『瑜伽師地論』におけるブッダ固有の「大悲」についての解説の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>前期授業で扱ったテキスト箇所 of 解説内容との吟味を行いつつ、継続して『瑜伽師地論』を精読する。併せて、ブッダは瞑想実践中に一切世界の有情/衆生を個々に見定めたとき、悲しみ(カルナー)の極みに至り、あらゆる生き物が苦しみから脱(のが)れてあれかしとの思願を発する。後の仏教徒たちによって、「大悲」(マハー・カルナー)という用語で語り継がれ、大乘仏教徒たちの理想像である「菩薩」の思願と重ね合わされるようになる。この「大悲」について、『瑜伽師地論』における解説について解説することを主たる目的として、大乘の初期経典(例えば、『八千頌般若経』)やアビダルマの諸論書、並びに、中観派の諸論書(特に、『プラサンナパダー』)における捉え方を比較しながら、思索を深めて行く。</p> <p>なお、学位論文(卒業論文、並びに、博士課程論文)の作成を目指している受講者の希望に応じて、その研究対象テキストを精読することも考える。</p>											
【到達目標】											
サンクリット原典テキスト、並びに、チベット訳・漢訳の翻訳テキストに対する文献学的分析手法を習得すること。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記の項目内容に沿った形で、まず、ブッダ瞑想中の悲しみの思願、そして、「大悲」についての経典伝承や、大乘経、並びに、仏教諸論書での「大悲」の捉え方の概要を講義し、次いで、テキストの精読へと進む。</p> <p>第1回 「大悲」についての概説、特に、パーリに伝わる「梵天勧請」について</p> <p>第2回 (1) パーリ・ニカーヤに伝わる「悲しみ」の思願と、アビダルマの教義解釈</p> <p>第3回 (2) 大乘の初期経典における「大悲」の捉え方</p> <p>第4回 (3) 大乘の諸論書における「大悲」の捉え方</p> <p>第5回～第15回 サンスクリット・テキストの講読</p> <p>第5回から第15回は、『阿毘達磨俱舍論』における基本的な「大悲」についての教義解釈を確認する。その上で、「大悲」を謳う大乘経(『八千頌般若経』『無量寿経』『十地経』など)、並びに、大乘の諸論書(『プラサンナパダー』など)のサンスクリット・テキストを精読して行く。</p>											
【履修要件】											
サンスクリット語、パーリ語、古典チベット語を履修済みであること。											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点。
各授業での講読担当者を予め定めて発表してもらいます。
テキスト解読に対する緻密・正確度をもって評価します。

[教科書]

授業中に指示する
テキストは、適宜、コピー配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業では講読担当者を予め定めて発表してもらいますが、担当者以外も自らサンスクリット・原典テキスト、並びに、比較吟味すべきチベット訳や漢訳も併せて読み比べ、予習した上で、授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

室寺への連絡は、murojiji@belle.shiga-med.ac.jp 宛にメール連絡をして下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系93

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		チベット仏教瞑想論 / Theories of Meditation in Tibetan Buddhism (I)									
【授業の概要・目的】											
<p>We will investigate the relation between oral/textual tradition (Tibetan: thos pa), philosophical inquiry (bsam pa) and meditative practices (sgom pa) in Tibet, by focusing on the literature of theories of meditation and of spiritual advice.</p> <p>We will provide first a general overview of such various literary genres and of the history of meditation and yoga in Tibet. Then we will focus especially on the tradition of the School of the Ancients (rNying ma pa), following its classification of Buddhist teachings which culminates in the Great Perfection (rDzogs chen), considered as the pinnacle of both sUtra-s and tantra-s.</p> <p>We will read a selection of texts by Klong chen Rab 'byams pa (1308-1363), 'Jigs med gling pa (1730-1798), etc.</p> <p>We will intend to elucidate such materials by situating them in the broader history of Buddhist philosophy, psychology and epistemology. Especially, we will consider two main cognitive faculties, "mindfulness" and "clear comprehension" (dran pa dang shes bzhin), and their training in connection to the soteriological question of the recognition of the "nature of mind" (sems nyid).</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - Acquiring the fundamental knowledge of theories of meditation in Tibetan Buddhism - Developing Tibetan reading skills and critical research methodology in this field 											
【授業計画と内容】											
<p>Class 1. Introduction</p> <p>Classes 2-14. Reading selected Tibetan texts</p> <p>Class 15. Wrap-up session and feedback</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Evaluation is made according to active participation and presentation.											
----- 仏教学(特殊講義) (2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

Tibetan texts and secondary literature will be provided or indicated at each class for the preparation of the next class.

(その他(オフィスアワー等))

DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系94

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		チベット仏教瞑想論 / Theories of Meditation in Tibetan Buddhism (II)									
【授業の概要・目的】											
<p>We will investigate the relation between oral/textual tradition (Tibetan: thos pa), philosophical inquiry (bsam pa) and meditative practices (sgom pa) in Tibet, by focusing on the literature of theories of meditation and of spiritual advice.</p> <p>We will provide first a general overview of such various literary genres and of the history of meditation and yoga in Tibet. Then we will focus especially on the tradition of the School of the Ancients (rNying ma pa), following its classification of Buddhist teachings which culminates in the Great Perfection (rDzogs chen), considered as the pinnacle of both sUtra-s and tantra-s.</p> <p>We will read a selection of texts by Klong chen Rab 'byams pa (1308-1363), 'Jigs med gling pa (1730-1798), etc.</p> <p>We will intend to elucidate such materials by situating them in the broader history of Buddhist philosophy, psychology and epistemology. Especially, we will consider two main cognitive faculties, "mindfulness" and "clear comprehension" (dran pa dang shes bzhin), and their training in connection to the soteriological question of the recognition of the "nature of mind" (sems nyid).</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - Acquiring the fundamental knowledge of theories of meditation in Tibetan Buddhism - Developing Tibetan reading skills and critical research methodology in this field 											
【授業計画と内容】											
<p>Class 1. Introduction</p> <p>Classes 2-14. Reading selected Tibetan texts</p> <p>Class 15. Wrap-up session and feedback</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Evaluation is made according to active participation and presentation.											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Tibetan texts and secondary literature will be provided or indicated at each class for the preparation of the next class.

(その他(オフィスアワー等))

DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の僧伝を読む：『続高僧伝』講読（一）									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂がなされ、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。なお時間の関係上適宜省略しつつ読み進める。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>基本は講義形式と講読形式を交互に併用して進める。僧伝の読解にあたっては受講者の状況に応じて、一部分の現代語訳、それが難しい場合は各版本の文字の異同の確認を担当してもらう。</p> <p>前期は主に訳経篇に収録された北朝後期から隋代の僧をとりあげ、北周の廢仏と隋文帝の仏教復興政策について考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>内容面</p> <p>一、北朝・隋代の主要な僧の経歴を把握し、仏教史の理解に資する。</p> <p>二、国家からの断圧・道教側からの批判などの難題に対し、僧がいかに対処したかを学ぶ。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A T などの電子仏典資料について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：『続高僧伝』を読むために必要な基本的資料と工具書</p> <p>第2回：『続高僧伝』道宣の略伝・諸版本・訳注レジュメ作成方法の説明</p> <p>第5回：『続高僧伝』菩提流支・勒那摩提・般若流支</p> <p>第6回：『続高僧伝』講読（1）</p> <p>第7回：『続高僧伝』那連提黎耶舍</p> <p>第8回：『続高僧伝』講読（2）</p> <p>第9回：『続高僧伝』闍那崛多</p> <p>第10回：『続高僧伝』講読（3）</p>											
----- 仏教学(特殊講義) (2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

- 第11回：『続高僧伝』達摩笈多
第12回：『続高僧伝』講読(4)
第13回：『続高僧伝』彦琮
第14回：『続高僧伝』講読(5)
第15回：『続高僧伝』真諦の弟子たち

【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する

【成績評価の方法・観点】

平常点(授業内での発言・発表状況)100%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8,9,10』(大東出版社)(書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの)
『大乘仏典 中国・日本篇』(中央公論社)(『続高僧伝』の何人かの伝記について現代語訳と注を掲載)
『新国訳大蔵経・『続高僧伝』1』(大蔵出版)
その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

予習：配付資料をもとにあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し(国訳一切経)などを調べておく。
復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 61831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の僧伝を読む：『続高僧伝』講読（二）									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の实地踏査をもとに幾度も増補改訂がなされ、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。なお時間の関係上適宜省略しつつ読み進める。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>基本は講義形式と講読形式を交互に併用して進める。僧伝の読解にあたっては受講者の状況に応じて、一部分の現代語訳、それが難しい場合は各版本の文字の異同の確認を担当してもらう。</p> <p>後期は北朝後期から隋代の義解に優れた高僧をとりあげ、北周の廃仏と隋文帝の仏教復興政策について考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>内容面</p> <p>一、北朝・隋代の主要な僧の経歴を把握し、仏教史の理解に資する。</p> <p>二、国家からの断圧・道教側からの批判などの難題に対し、僧がいかに対処したかを学ぶ。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A T などの電子仏典資料について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：前期の内容を簡単に復習し、後期の内容について説明する。</p> <p>第2回：『続高僧伝』慧光伝</p> <p>第3回：『続高僧伝』講読（1）</p> <p>第4回：『続高僧伝』法上傳</p> <p>第5回：『続高僧伝』講読（2）</p> <p>第6回：『続高僧伝』靈裕伝</p> <p>第7回：『続高僧伝』講読（3）</p> <p>第8回：『続高僧伝』浄影寺慧遠伝</p> <p>第9回：『続高僧伝』講読（4）</p>											
----- 仏教学(特殊講義) (2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

- 第10回：『続高僧伝』曇延伝
第11回：『続高僧伝』講読(5)
第12回：『続高僧伝』曇遷伝
第13回：『続高僧伝』講読(6)
第14回：『続高僧伝』天台智顛伝
第15回：『続高僧伝』講読(7)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(授業内での発言・発表状況)100%。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8,9,10』(大東出版社)(書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの)

『大乘仏典 中国・日本篇』(中央公論社)

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

予習：配付資料をもとにあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し(国訳一切経)などを調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系97

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		インド後期中観派と空思想をめぐる諸問題研究									
[授業の概要・目的]											
一切法の空を主張する中観派には、その極端に見える主張のために初期から批判があったが、インド後期中観派の時期にはどのような問題設定や批判があり、中観派はそれにどう答えたのであろうか。本演習では、11世紀頃に活躍したプラジュニャーカラマティ著『入菩提行論細疏』「般若波羅蜜多章」を取り上げ、そこに見られる多様な議論の検討を通して、その当時の思想状況とインド後期中観派について理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
『入菩提行論細疏』「般若波羅蜜多章」に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド後期中観派について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行い、二回目から十四回目の授業では、『入菩提行論』を精読しながら、関連する諸問題について解説ならびに議論を行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の演習もあわせて受講することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系98

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		インド後期中観派と空思想をめぐる諸問題研究									
[授業の概要・目的]											
一切法の空を主張する中観派には、その極端に見える主張のために初期から批判があったが、インド後期中観派の時期にはどのような問題設定や批判があり、中観派はそれにどう答えたのであろうか。本演習では、11世紀頃に活躍したプラジュニャーカラマティ著『入菩提行論細疏』『般若波羅蜜多章』を取り上げ、そこに見られる多様な議論の検討を通して、その当時の思想状況とインド後期中観派について理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
『入菩提行論細疏』『般若波羅蜜多章』に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド後期中観派について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、十四回目までの授業では、『入菩提行論』を精読しながら、関連する諸問題について解説ならびに議論を行う。必要があれば、初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の演習も受講していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系99

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		駒澤大学 仏教学部 准教授 加納 和雄			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梵文仏典写本精読									
【授業の概要・目的】											
インド周辺諸国に伝存する梵文仏典写本は、失われたインド仏教の原像に近づくための一次資料であり、とくにチベットやネパールに伝来する梵文写本については近年めざましい研究成果が報告されている。授業では梵文仏典写本研究の現状を理解したうえで、実際に写本の解読を行いながら写本研究の方法論を習得することを目指す。											
【到達目標】											
梵文仏典写本の研究状況の大局を把握し、写本読解の基礎を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>授業においてはまず、ネパール・チベットに伝存する梵文仏典写本研究の現状を解説する。世界各地の研究機関が所蔵するコレクションを俯瞰して、それらがいかなる由来をもち、どの程度解読が進んでいるのかについて説明する。また、写本を読むための基礎知識として写本特有の文字の綴り方や奥書の読み方などについて学ぶ。そして、写本の所有者について明かし、その来歴と伝承過程について補足する。それらの基礎知識を習得した後は、写本解読の実践的な能力を養うために、未解読の写本をサンプルとして選り抜き、順次、授業において丹念に解読を進める。サンプルは、短めの断片写本を扱い(大乘仏典を中心とする予定だが出席者の要望にも応じる)、写本の読みに問題がある箇所を一つずつ洗い出して解決策を模索しながら精読してゆく。資料は適宜授業において配布する予定である。基本的に演習形式とするが初心者も歓迎する。今回は特に『俱舍論』の安慧釈の梵本について業品(4章)の40偈あたりから読解を行う。</p> <p>第一～三回 歴史的背景の確認と研究状況の概観 第四、五回 資料読解のための実践知識の習得 第六～十五回 資料の読解</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による。											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業配布資料を予習・復習すること。出席者には課題をそのつど課す。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系100

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター 准教授 熊谷 誠慈			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		仏教のこころ観 : 存在論的視点から (インド宗教哲学文献精読)									
【授業の概要・目的】											
<p>仏滅後100年頃に、仏教教団は保守的な上座部と革新的な大衆部とに分裂したとされる。それからさらに18とも20ともいわれる様々な学派が生じるにいたった。上座部系の主要な勢力の1つに説一切有部が存在する。チベット仏教文化圏においては、説一切有部、経量部、瑜伽行唯識学派、中観派をインド仏教の四大学派とみなし、説一切有部の代表的作品をヴァスバンドゥ著 Abhidharmakosa (俱舍論) とみなしている。Abhidharmakosaは、真諦や玄奘により漢訳され、7世紀には日本に伝わり俱舍宗が形成され、近代にいたるまで伝統仏教各派により基礎教学として広く学習された。したがって、Abhidharmakosaは、インドから東北アジア、東アジアに広く影響を与えた著作であるといえよう。</p> <p>本授業ではAbhidharmakosaの第一章(界品)およびその自注を精読する。同章では、人間存在の構成要素である五蘊、さらには認識の構成要素である十二処、十八界といった、仏教の基礎的な理論が説明される。同章を精読することで、とりわけ仏教の伝統的な「こころ観」について概観し理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はサンスクリット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにサンスクリット語を習得していることが望ましい。さらに、チベット語訳および漢訳も適宜参照することから、チベット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。ただし各言語でのテキストを読めない場合でも、授業中に提示する日本語訳にもとづいて、各自の専門分野の知識をバックグラウンドとして議論に加わるという形式での参加も認める。</p>											
【到達目標】											
古典サンスクリット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>初回はAbhidharmakosaのイントロダクションを行う。</p> <p>第2回～第15回は、Abhidharmakosaの精読・分析を行う。適宜、仏教の宗義書も精読し比較考察する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

成績評価は、平常点に基づいて行う。

[教科書]

授業中に指示する
テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読してくることを。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター 准教授 熊谷 誠慈			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		仏教のこころ観 : 存在論的視点から (インド宗教哲学文献精読)									
【授業の概要・目的】											
<p>仏滅後100年頃に、仏教教団は保守的な上座部と革新的な大衆部とに分裂したとされる。それからさらに18とも20ともいわれる様々な学派が生じるにいたった。上座部系の主要な勢力の1つに説一切有部が存在する。チベット仏教文化圏においては、説一切有部、経量部、瑜伽行唯識学派、中観派をインド仏教の四大学派とみなし、説一切有部の代表的作品をヴァスバンドゥ著 Abhidharmakosa (俱舍論) とみなしている。Abhidharmakosaは、真諦や玄奘により漢訳され、7世紀には日本に伝わり俱舍宗が形成され、近代にいたるまで伝統仏教各派により基礎教学として広く学習された。したがって、Abhidharmakosaは、インドから東北アジア、東アジアに広く影響を与えた著作であるといえよう。</p> <p>本授業ではAbhidharmakosaの第一章(界品)ならびに第二章(根品)、およびその自注を精読する。同章では、人間存在の構成要素である五蘊、さらには認識の構成要素である十二処、十八界といった、仏教の基礎的な範疇論が説明される。同章を精読することで、とりわけ仏教の伝統的な「こころ観」について概観し理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はサンスクリット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにサンスクリット語を習得していることが望ましい。さらに、チベット語訳および漢訳も適宜参照することから、チベット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。ただし各言語でのテキストを読めない場合でも、授業中に提示する日本語訳にもとづいて、各自の専門分野の知識をバックグラウンドとして議論に加わるという形式での参加も認める。</p>											
【到達目標】											
古典サンスクリット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。											
【授業計画と内容】											
初回～第15回で、Abhidharmakosaの精読・分析を行う。適宜、仏教の宗義書も精読し比較考察する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価は、平常点に基づいて行う。											
【教科書】											
授業中に指示する テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読してくる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36											
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		宗教情報センター 京都支社 研究員				佐藤 直実	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		大乘仏教經典の読解											
【授業の概要・目的】													
<p>最初期の大乗經典『阿しゆく仏国經』第4章の講読を行う。</p> <p>阿しゆく仏は、東方・妙喜世界を主宰する他土仏である。西方・極楽世界の阿弥陀仏と並び、東西他土仏の双璧をなす。最も古い他土仏の一人であり、後に四方四仏の東方仏として定着する。密教では金剛界曼荼羅の東方に据えられ、後期密教では、大日如来に代わり、曼荼羅の主尊になる場合もある。</p> <p>『阿しゆく仏国經』は、この阿しゆく仏の修行から成道、涅槃にいたるまでの半生と、その仏国土の様子を描く經典で、大乘仏教興起のなぞを解くための重要な資料である。漢訳が2種類、チベット語訳が1種類ある。</p> <p>本演習では、全6章ある『阿しゆく仏国經』の中から、妙喜世界の菩薩の様子を描く第4章をとりあげ、その修行のあり方や特徴を解読・解説する。</p> <p>妙喜世界の菩薩は、「如来の集団」「金剛不壊の集団」「如来の蔵に入る者」「無畏の城に入る者」と言われ、声聞・縁覚よりもはるかに優れていると説かれる。法を受持するには、自力と仏力の両者によらなければならないとも記され、この世の菩薩のあり方とは異なる記述が見られる。</p> <p>漢訳2訳を参照しながら、チベット語訳を読み進め、大乘仏教の発展過程についても外観したい。</p>													
【到達目標】													
<ol style="list-style-type: none"> 1) 古典チベット語で書かれた仏教經典の読解力の養成 2) 大乘仏教の基礎知識の習得 3) 仏教文献学の研究手法の習得 													
【授業計画と内容】													
<p>第1回 テキストの概説と資料配付</p> <p>第2-14回 『阿しゆく仏国經』第4章の講読</p> <p>第15回 フィードバック</p>													
【履修要件】													
<p>わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。</p>													
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----													

仏教学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。
テストは行わない。

[教科書]

授業中に資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に読むテキスト箇所の和訳。必要に応じて、その背景についても調べる。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 文化学部 教授 志賀 浄邦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		シャーンタラクシタ作『真実集成』及びカマラシーラ作『真実集成細注』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>8世紀インドおよびチベットにおいて活躍した学僧シャーンタラクシタによる著作『真実集成（Tattvasamgraha）』とその弟子カマラシーラによる『真実集成細注（Tattvasamgrahapanjika）』第9章「業とその報いの関係の考察」を講読する。本著作『真実集成』は独立作品でありながら、ダルマキールティの認識論・論理学の注釈書的な側面も合わせ持っている。本授業では、上記のテキストを精読することを通して、仏教徒の因果論・刹那滅論・業報論に対して、対論者からどのような批判が投げかけられたか、また仏教徒とインド哲学諸派の論争の争点はいかなるものであったかといった問題について考察することを目的とする。当該テキストには、対論者の見解が他の論書等から忠実に引用されている場合も少なくないため、テキストの読解と同時にサンスクリット断片の収集・精査も合わせて行いたい。</p> <p>また本著作には様々な学派の見解が引用・紹介されていることから、このテキストを読み解くことを通して7～8世紀インドの思想状況を概観することができる。『真実集成』の他の章（特に第8章「存続する存在の考察」）の記述とも比較しながら、本著作のインド思想史上における位置づけも試みたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・サンスクリットおよびチベット語で書かれたテキストを正確に読解することができるようになる。 ・テキスト上の問題点に気づき、それを発見・指摘し的確に修正できるようになる。 ・先行研究を批判的に検討した上で、独自の意見・見解を打ち出せるようになる。 ・電子データをはじめとする周辺資料を駆使することにより、チベット訳テキストをサンスクリット断片と同定できるようになる。 ・テキストを読解する過程で遭遇した問題に対して適切に問いを設定し、立論と論証によりそれを解決することができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業では『真実集成』及び『真実集成細注』第9章「業とその報いの関係の考察」を講読する。担当者が作成した校訂テキストを元に、先行研究等を参考にしながら、批判的に精読する。</p> <p>第1～2回 仏教認識論・論理学（特に刹那滅論と因果論）についての概説</p> <p>第3～5回 『真実集成』及び『真実集成細注』に関する概説</p> <p>第6～14回 『真実集成』及び『真実集成細注』第9章の講読と解説（受講生による輪読形式）</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>受講生と議論を交わしながら原典テキストを読み進めるという授業の性格上、授業各回の進度は異なる。</p>											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[履修要件]

サンスクリット，チベット語，英語の基本的な読解能力を必要とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点による。（毎時間の発表が100％）

[教科書]

授業中に指示する
その他，授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 講読するテキストを事前に配布するので，その回に読む箇所を事前に精読しておくこと。
- ・ テキスト上の問題点等について，指摘・質問できるよう準備しておくこと。
- ・ その回に読んだ箇所について再度読み直し，授業で議論された問題点等を再度確認しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業の前後に受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		パーリ語講読									
【授業の概要・目的】											
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す（Jaatakathavannanaa（ジャータカ（本生譚）注釈））に収録されている比較的短い動物寓話を読む予定）。</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>											
【到達目標】											
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーリ語について（言語的特徴などについて概説） ・精読に必要な辞書や文法書などの紹介 ・講読テキストのプリント配布 ・講読テキストに関する概説（物語の内容、関連テキストなど） <p>第2回－5回：テキスト講読（Sumsumaarajaataka ワ二本生）</p> <p>第6回－9回：テキスト講読（Kacchapajaataka カメ本生）</p> <p>第10回－14回：テキスト講読（Bakajaataka 青サギ本生）</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。 ・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。 											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

【履修要件】

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

【成績評価の方法・観点】

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。

（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

【教科書】

プリント配布

【参考書等】

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系105

科目ナンバリング		G-LET14 71841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 芳原 綾子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アルダマーガディー入門									
【授業の概要・目的】											
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点も多い。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、プラークリット(中期インド語)の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読みながら、プラークリットになれる。</p>											
【到達目標】											
<p>アルダマーガディーで書かれたテキストを読むことで、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつプラークリットの特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使うようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介 2回目:母音と子音の音韻変化 3回目:名詞変化 4回目:代名詞の変化 5回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形) 6回目:過去自制、分詞etc. 7回目~10回目:日常的に唱えられる定型句をまとめた『アーバッサヤ』第1章と、五大誓戒を述べる『ダサヴェーヤーリヤ』4章の散文部分 11回目~14回目:出家者にとっての禁止行為を述べる『ダサヴェーヤーリヤ』3章 15回目:14回までで残っている課題を含めた全体のまとめ</p>											
【履修要件】											
初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点:授業内での発言(和訳等含む)											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[教科書]

コピーを配布する

渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」 『ジャイナ教研究』 第14-16号, 2008--2010.
F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認しておく。

復習：各回、文法事項の確認

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系106

科目ナンバリング		G-LET14 71851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		Reading German Indology and Buddhology									
[授業の概要・目的]											
<p>We will read representative examples of important styles of German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, so as to develop students' abilities to read and understand academic German on their own.</p> <p>The aims of the course are (1) to introduce students into major works of German Indology and Buddhology, (2) to familiarize them with main stylistic features of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit, as well as (3) ultimately to develop students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
[到達目標]											
Students will develop their abilities to read and understand German academic writings on their own.											
[授業計画と内容]											
The choice of texts depends on student interest and specialization. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs (15 weeks).											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
Active participation in the classroom, preparation of translations from German at home.											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
Preparation of German textual passages to be translated and discussed. Approximately one to two hours per week.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系107

科目ナンバリング		G-LET14 71853 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読II) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語及び英語
題目		印度古典学・チベット学・仏教学フランス語文献の講読									
【授業の概要・目的】											
Rolf A. Stein(1911-1999)によって書かれた『La civilisation tibétaine』の様々な個所を講読する。本傑作は、地理的、歴史的、社会的、文化的、宗教的、哲学的なあらゆる観点からのアプローチによりチベットの文明を紹介しており、チベット語また中国語の原典、チベット渡航者による見聞録、そして現代研究に基づいて書かれている。授業では、特にチベットを偉大なインドと中国文明の交点と考えることでチベットにおける仏教の伝承を中心に考察する。											
【到達目標】											
印度古典学・チベット学・仏教学に関するフランス語の二次文献を自立的に使えるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イントロダクション 第2－15回 テキストの講読											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による（参加度と発表から総合的に判断する）。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） Rolf A. Stein 『La civilisation tibétaine』（Paris: L'Asiatheque, 1996 (1987)） コピーを配布する。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
毎授業の前、講読する箇所の予習が必要である。毎回、学生一人がフランス語を和訳し、発表する。											
（その他（オフィスアワー等））											
DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET49 89628 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（初級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
前期はチベット文字およびその読み方を習得し、チベット語の名詞の構造、文での使い方を理解する。											
【授業計画と内容】											
授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1週） 2. 文字と発音（4週） 3. 名詞（4週） 4. 形容詞（1週） 5. 助動詞（3週） 6. まとめ（1週） 7. フィードバック（1週） 											
<p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p>											
チベット語（初級）(語学)(2)へ続く											

チベット語（初級）(語学)(2)

【履修要件】

特にないが、後期のチベット語（初級）をあわせて受講することが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

成績は、学期末に行う試験（100％）によって決定する。
チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系109

科目ナンバリング		G-LET49 89629 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（初級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
後期は動詞の屈折を中心として学び、文の構造を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前期のチベット語（初級）に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞（5週） 2. 複文他（5週） 3. チベット語テキスト演習（4週） 4. フィードバック（1週） <p>基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。</p>											
【履修要件】											
前期のチベット語（初級）を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績は、学期末に行う試験（100%）によって決定する。 チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。</p>											
----- チベット語（初級）(語学)(2)へ続く -----											

チベット語（初級）(語学)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系110

科目ナンバリング		G-LET49 89630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げることで、広い分野の仏教文献に対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、多様なチベット語文献を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業では、時代によるチベット語自体の違いや、翻訳文献の中でも経典や注釈といったスタイルの違いも網羅するために、以下のような文献を順に取り上げる予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 古チベット語を含むチベット撰述仏教文献 2. サンスクリット経典からの翻訳文献 3. サンスクリット注釈からの翻訳文献 											
それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴を解説し、読解に必要な内容の説明を行う。その後各文献を四から五週程度かけて輪読する。											
第1回 インTRODクシヨN 第2回～第14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。授業中の発表により評価する。											
チベット語（中級）(語学)(2)へ続く											

チベット語（中級）(語学)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

それぞれのチベット語文献の性格に注意しながら予習し、問題点を整理しておくことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系111

科目ナンバリング		G-LET49 89630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げることで、広い分野の仏教文献に対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、多様なチベット語文献を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業では、独立した論書と他の論書に対する注釈といった翻訳文献中のスタイルの違いや、翻訳文献とチベット撰述文献の相違に対する理解を深めるため、以下のような文献を順に取り上げる予定である。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. サンスクリット論書からの翻訳文献 2. サンスクリット注釈からの翻訳文献 3. チベット撰述古典チベット語文献 											
それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴を解説し、読解に必要な内容の説明を行う。その後各文献を四から五週程度かけて輪読する。											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回～第14回 チベット語テキストの輪読</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。前期のチベット語（中級）を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。授業中の発表により評価する。											
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

チベット語（中級）(語学)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

それぞれのチベット語文献の性格に注意しながら予習し、問題点を整理しておくことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系112

科目ナンバリング		G-LET15 63130 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高橋 宏幸			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3,4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		シーリウス・イタリクス研究									
【授業の概要・目的】											
ラテン文学白銀期の叙事詩人シーリウス・イタリクスの詩作について考究する。本年度はPunica第7巻と第8巻を精読し、検討する。											
【到達目標】											
ラテン語原典の読解力を高める。 文献学的アプローチに習熟する。											
【授業計画と内容】											
シーリウス・イタリクスはこれまで広く読まれてきた作品とは言えない。しかし、そこには詩人が受け継いだ文学伝統を自身の表現に生かす創意工夫が見られる。唯一伝存する作品であるPunicaはリーウィウスの歴史書第21巻以降に記された第2次ポエニー戦争を題材としながら、神々の介入や運命の実現など作品の枠組み、また、個々の場面設定、表現手法など叙述全般においてウェルギリウス『アエネーイス』に多くを依拠している。こうした先行作品との比較に重きを置きながら、作品理解を試みる。											
第1回 全体のイントロダクション 第2回~第7回 第7巻1-750行 第8回~第15回 第8巻1-675行											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得し、なんらか原典を読んだ経験があること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点40パーセント、期末レポート60パーセント。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 西洋古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋古典学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

配布する注釈を熟読すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系113

科目ナンバリング		G-LET15 63131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ホラーティウス『カルミナ』精読I									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。第1巻から読み始めるが、具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『カルミナ』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系114

科目ナンバリング		G-LET15 63131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ホラーティウス『カルミナ』精読II									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。前期の続きから読み始めるため、具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『カルミナ』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系115

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高橋 宏幸			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ホメーロス『オデュッセイア』									
[授業の概要・目的]											
ホメーロスの英雄叙事詩を精読して、作品の結構、主題の展開を学び、表現とリズムを味わい、楽しむ。											
[到達目標]											
ギリシア語原典の読解力を身につける。 古典文学伝統の受容と継承についての感性を磨く。 ホメーロス特有の表現に慣れ親しむ。											
[授業計画と内容]											
『オデュッセイア』は英雄オデュッセウスの「帰国」を主題とし、神の怒りによって英雄がすべてを失ったあと、再び英雄に戻るまでを描く。口承伝統の中から生まれ、ギリシア文学の源流に位置しながら、そこにはすでにもう一つの英雄叙事詩『イーリアス』を意識して新しさを求める詩作態度が窺える。統一的主題とその展開に留意しながら、毎回70行前後を読み進む。											
第1回 全体のイントロダクション 第2回~第15回 『オデュッセイア』第7巻、第8巻											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点および期末試験。											
[教科書]											
W. B. Stanford 『Homer Odyssey Books 1-12』（もとはMacmillanだが、リプリントが複数(Bristol Cl. Pr., Nelson Thornes)あり、いずれでもよいので、事前に入手しておくこと。)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の下調べの他、教科書に挙げた注釈書をよく読んで授業に臨むこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系116

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 大学院言語文化研究科 准教授 平山 晃司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アンティポーン弁論選									
[授業の概要・目的]											
<p>トゥーキューディデースが「当代随一の才人」と評し、「法廷や民会で争う人に対して有益な助言を与えることにかけて、彼の右に出る者はいなかった」と伝えるアンティポーン（前480頃～411）は、アッティカ十大弁論家の筆頭であり、おそらくは訴訟当事者のために弁論を代作し、それを公刊した最初の人であった。完全な形で伝わる六篇の作品はいずれも殺人事件を扱うが、そのうち三篇は法廷弁論、「四部作集」（原告と被告が交互に二度ずつ行う四つの弁論から成る）と呼ばれる他の三篇は架空の事件を題材として書かれた習作であり、特に後者は最初期のアッティカ散文の実例として興味深い。両者の語法や文体の違いに注意しつつ作品を精読する。</p>											
[到達目標]											
<p>ギリシア語の読解力を向上させる。 古典期アテナイの社会の様相や法制度に関する知識を身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>毎回2～3ページずつ読み進める予定。</p> <p>第1回 導入（テキスト配布、注釈書の紹介など） 第2回～第15回 訳読</p>											
[履修要件]											
<p>ギリシア語文法を修得済みであること。</p>											
[成績評価の方法・観点]											
<p>出席状況、訳読の出来の良否などを勘案し、平常点によって評価する。</p>											
[教科書]											
<p>M. R. Dilts, D. J. Murphy 『Antiphontis et Andocidis orationes』 (Oxford University Press, 2018) ISBN: 9780199605477 コピーを配布する。</p>											
[参考書等]											
<p>（参考書） M. Gagarin 『Antiphon: The Speeches』 (Cambridge University Press, 1997) ISBN:9780521389310 コピーを配布する。</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
<p>毎回の授業に備えてテキストの指定された範囲を丁寧に読んでおくこと。</p> <p>（その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

文献文化学系117

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高橋 宏幸			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ホメーロス『オデュッセイア』									
[授業の概要・目的]											
ホメーロスの英雄叙事詩を精読して、作品の結構、主題の展開を学び、表現とリズムを味わい、楽しむ。											
[到達目標]											
ギリシア語原典の読解力を身につける。 古典文学伝統の受容と継承についての感性を磨く。 ホメーロス特有の表現に慣れ親しむ。											
[授業計画と内容]											
『オデュッセイア』は英雄オデュッセウスの「帰国」を主題とし、神の怒りによって英雄がすべてを失ったあと、再び英雄に戻るまでを描く。口承伝統の中から生まれ、ギリシア文学の源流に位置しながら、そこにはすでにもう一つの英雄叙事詩『イーリアス』を意識して新しさを求める詩作態度が窺える。統一的主題とその展開に留意しながら、毎回70行前後を読み進む。											
第1回 全体のイントロダクション 第2回~第15回 『オデュッセイア』第9巻、第10巻											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点および期末試験。											
[教科書]											
W. B. Stanford 『Homer Odyssey Books 1-12』(もとはMacmillanだが、リプリントが複数(Bristol Cl. Pr., Nelson Thornes)あり、いずれでもよいので、事前に入手しておくこと。)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の下調べの他、教科書に挙げた注釈書をよく読んで授業に臨むこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系118

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高橋 宏幸			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		セネカ『倫理書簡集』精読I									
[授業の概要・目的]											
<p>ローマを代表する文人セネカ晩年の著作『倫理書簡集』を精読して、「悪文」とも言われるセネカの文体に親しみながら、そこに提示される「よく生きる」ことの真髓を汲み取る。</p> <p>『倫理書簡集』は引退後のセネカが若い友人ルーキリウスに宛てて、哲学の道を勧める手紙という体裁をとり、124篇の書簡からなる。授業では、下に掲げる教科書に集められた書簡を順次読み進める。</p>											
[到達目標]											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>生の重みを言葉の重みに託した表現への感性を磨く。</p> <p>古典文学伝統の奥深さを再認識する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>下に掲げる教科書に添い、1回に3~5ページを読み進める。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回~14回：『倫理書簡集』を読む 第15回：フィードバック</p>											
[履修要件]											
ラテン語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
<p>Summers, W. C. 『Select Letters of Seneca』 (Bristol Classical Press 1983) ISBN:9780862921200 事前に購入しておくことが望ましいが、入手が難しい場合はコピーを配布する。</p>											
[参考書等]											
<p>(参考書)</p> <p>Edwards, C. 『Seneca: Selected Letters』 (Cambridge Greek and Latin Classics 2019) ISBN: 9780521465830</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
教科書の注釈を熟読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系119

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高橋 宏幸			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		セネカ『倫理書簡集』精読II									
[授業の概要・目的]											
<p>ローマを代表する文人セネカ晩年の著作『倫理書簡集』を精読して、「悪文」とも言われるセネカの文体に親しみながら、そこに提示される「よく生きる」ことの真髄を汲み取る。 『倫理書簡集』は引退後のセネカが若い友人ルーキリウスに宛てて、哲学の道を勧める手紙という体裁をとり、124篇の書簡からなる。授業では、下に掲げる教科書に集められた書簡を順次読み進める。</p>											
[到達目標]											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。 生の重みを言葉の重みに託した表現への感性を磨く。 古典文学伝統の奥深さを再認識する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>前期のセネカ『倫理書簡集』精読Iに引き続いて、毎回教科書を3~5ページ読み進める。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～14回：『倫理書簡集』を読む 第15回：フィードバック</p>											
[履修要件]											
ラテン語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
<p>Summers, W. C. 『Select Letters of Seneca』 (Bristol Classical Press 1983) ISBN:9780862921200 事前に購入しておくことが望ましいが、入手が難しい場合はコピーを配布する。</p>											
[参考書等]											
<p>(参考書) Edwards, C. 『Seneca: Selected Letters』 (Cambridge Greek and Latin Classics 2019) ISBN: 9780521465830</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
教科書の注釈を熟読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系120

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		オウィディウス『変身物語』精読I									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』第10巻を中心に精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。第10巻から読み始めるが、具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。該当箇所を読み終わった場合には、別の巻を扱う。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『変身物語』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----											

西洋古典学(演習) (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系121

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		オウィディウス『変身物語』精読II									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』第10巻を中心に精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。前期の続きから読み始めるため、具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。該当箇所を読み終わった場合には、別の巻を扱う。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『変身物語』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----											

西洋古典学(演習) (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『クラテュロス』を読む(3)									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に書き上げた対話篇『クラテュロス』の原典を精読します。しばしば言語学や言語哲学の先駆けと見做されるこの対話篇は「名前の正しさ」を主題とします。登場人物のクラテュロスは、名前の正しさは自然本性的に決まっていると主張するのに対して、ヘルモゲネスは、それは人々の同意や慣習で決まると考えます。二人の調停を依頼されたソクラテスは、この問題を詳しく究明することになるのですが、対話篇の大部分は、神の名前や哲学的に重要な言葉についての語源分析に当てられます。本授業では、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 											
【授業計画と内容】											
<p>最初の回で『クラテュロス』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページ程度講読を進めます。各参加者は、指名された箇所（通常15行ほど）をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがあります。</p>											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 『クラテュロス』 416a7-417b5の講読・検討</p> <p>第3回 『クラテュロス』 417b6-418d3の講読・検討</p> <p>第4回 『クラテュロス』 418d4-419e1の講読・検討</p> <p>第5回 『クラテュロス』 419e1-421b1の講読・検討</p> <p>第6回 『クラテュロス』 421b1-422c6の講読・検討</p> <p>第7回 『クラテュロス』 422c7-423d6の講読・検討</p> <p>第8回 『クラテュロス』 423d7-425a5の講読・検討</p> <p>第9回 『クラテュロス』 425a5-426d3の講読・検討</p> <p>第10回 『クラテュロス』 426d3-428a5の講読・検討</p> <p>第11回 『クラテュロス』 428a6-429c6の講読・検討</p> <p>第12回 『クラテュロス』 429c7-430d7の講読・検討</p>											
----- 西洋古典学(演習)(2)へ続く -----											

西洋古典学(演習)(2)

- 第13回 『クラテュロス』 430d8-432a4の講読・検討
第14回 『クラテュロス』 432a5-433b11の講読・検討
第15回 まとめ

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

【教科書】

Duke, E. A. et al. 『/Platonis Opera/ Tomus I (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1995.)

使用するテキストのコピーは授業で配布します。

【参考書等】

(参考書)

Francesco, Ademollo. 『/The Cratylus of Plato/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2011.)

Sedley, David. 『/Plato 's Cratylus/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2003.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修(予習・復習)等】

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET15 73141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『クラテュロス』を読む(4)									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に取り上げた対話篇『クラテュロス』の原典を精読します。しばしば言語学や言語哲学の先駆けと見做されるこの対話篇は「名前の正しさ」を主題とします。登場人物のクラテュロスは、名前の正しさは自然本性的に決まっていると主張するのに対して、ヘルモゲネスは、それは人々の同意や慣習で決まると考えます。二人の調停を依頼されたソクラテスは、この問題を詳しく究明することになるのですが、対話篇の大部分は、神の名前や哲学的に重要な言葉についての語源分析に当てられます。本授業では、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 											
【授業計画と内容】											
<p>最初の回で『クラテュロス』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページ程度講読を進めます。各参加者は、指名された箇所(通常15行ほど)をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。</p> <p>順当に進んだ場合、第7回目の授業で『クラテュロス』を読了するため、残りの授業は5世紀に書かれたプロクロスの『クラテュロス注解』のはじめの部分を読みます。</p> <p>最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがあります。</p>											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 『クラテュロス』433b12-434d1の講読・検討</p> <p>第3回 『クラテュロス』434d2-435e5の講読・検討</p> <p>第4回 『クラテュロス』435e6-437b2の講読・検討</p> <p>第5回 『クラテュロス』437b2-438b3 (VERSIO B)の講読・検討</p> <p>第6回 『クラテュロス』438b8-439d2の講読・検討</p> <p>第7回 『クラテュロス』439d3-440e7の講読・検討</p> <p>第8回 『クラテュロス』のまとめ</p> <p>第9回 プロクロス『クラテュロス注解』1-2の講読・検討</p>											
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----											

西洋古典学(演習) (2)

- 第10回 プロクロス 『クラテュロス注解』 3-4の講読・検討
第11回 プロクロス 『クラテュロス注解』 5-6の講読・検討
第12回 プロクロス 『クラテュロス注解』 7-8の講読・検討
第13回 プロクロス 『クラテュロス注解』 9-10の講読・検討
第14回 プロクロス 『クラテュロス注解』 11-12の講読・検討
第15回 全体のまとめ

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

【教科書】

Duke, E. A. et al. 『/Platonis Opera/ Tomus I (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1995.)

Pasquali, Georgio 『Proclus Diadochus /In Platonis Cratylum Commentaria/』 (Stuttgart and Leipzig: B. G. Teubner, 1994.)

使用するテキストのコピーは授業で配布します。

【参考書等】

(参考書)

Francesco, Ademollo. 『/The Cratylus of Plato/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2011.)

Sedley, David. 『/Plato 's Cratylus/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2003.)

Duvick, Brian 『/Proclus: On Plato Cratylus/』 (London and New York: Bloomsbury Academic, 2014.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修(予習・復習)等】

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系124

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語初級文法を終えた人を対象に、カエサル『ガリア戦記』を教材として、ラテン語の基礎力を養う機会を提供する。											
[到達目標]											
ラテン語の基本的な感覚を身につける。 語彙力を高める。 複雑な構文にも対処しうる読解力を養う。											
[授業計画と内容]											
初級文法のおさらいを行なう一方、初級者が見落とししやすい意味の区別、よく使われる言い回し、構文の特徴などに注意を喚起しながら、原文を読む。毎回、数章を読み進める。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第13回 第1巻第1章～ 第14回 全体のまとめ 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
配布する注釈を熟読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系125

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語初級文法を終えた人を対象に、カエサル『ガリア戦記』を教材として、ラテン語の基礎力を養う機会を提供する。											
[到達目標]											
ラテン語の基本的な感覚を身につける。 語彙力を高める。 複雑な構文にも対処しうる読解力を養う。											
[授業計画と内容]											
初級文法のおさらいを行なう一方、初級者が見落とししやすい意味の区別、よく使われる言い回し、構文の特徴などに注意を喚起しながら、原文を読む。毎回、数章を読み進める。 第1回 インTRODクシヨN 第2回～第13回 第1巻、前期授業からの続き。 第14回 全体のまとめ 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
注釈を熟読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系126

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山下 修一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語中級講読									
[授業の概要・目的]											
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、クセノポン『アナバシス』の精読を通して、古典ギリシア語の基礎力を養成する。											
[到達目標]											
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。											
[授業計画と内容]											
クセノポンの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。 授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。 初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)											
[履修要件]											
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)											
[教科書]											
E. C. Marchant (ed.) 『Xenophontis Opera Omnia, Expeditio Cyri』 (Oxford University Press) ISBN: 9780198145547 (テキスト) コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Maurice W. Mather, Joseph Hewitt 『Xenophon's Anabasis: Book 1-4』 (University of Oklahoma Press) ISBN:9780806113470 コピーを配布する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系127

科目ナンバリング		G-LET15 73151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山下 修一			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語中級講読									
[授業の概要・目的]											
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、ヘーロドトスの『歴史』の精読を通して、古典ギリシア語の基礎力を養成する。											
[到達目標]											
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。											
[授業計画と内容]											
<p>ヘーロドトスの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。</p> <p>授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。</p> <p>初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)</p>											
[履修要件]											
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)											
[教科書]											
N. G. Wilson (ed.) 『Herodoti Historiae - 』 (Oxford University Press) ISBN:9780199560707 (テキスト) コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Asheri, David, Alan Lloyd, and Aldo Corcella. 『A commentary on Herodotus』 (Oxford University Press) ISBN:9780199639366 コピーを配布する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET16 63231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア語文体論									
【授業の概要・目的】											
ロシア語学の一分野としてのロシア語文体論の基本的な概念について学ぶ。											
【到達目標】											
ロシア語学の概論について体系的な知識を得るほか、ことばの文体について考える。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には講義形式である。随時視聴覚教材などのマスメディアを用い、ロシア語の活きた具体例を示す。授業で得た知識をもとに、具体例を出してもらったり、練習問題を解いてもらうこともある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 文体の分類 3. 文体と語彙 4. 文体と語彙 5. 文体と借用語 6. 文体と音・文字 7. 文体と形態論 8. 文体と形態論 9. 文体と語形成論 10. 文体と語形成論 11. 文体と統語論 12. 文体と統語論 13. 文体的修辞法 14. 文体的修辞法 15. まとめ <p>授業回数は15回とする。</p>											
【履修要件】											
「ロシア語IIA, IIB」を履修済、あるいは同程度のロシア語の知識があること。											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価については、平常点（70%）・学期末レポート（30%）に基づくものとする。平常点は各授業への積極的な参加や課題への取り組みではかる。											
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(特殊講義) (2)

[教科書]

使用しない
教員の作成の資料を用いる。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
各自露和辞典を入手しておくこと。その他の文献は授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

ロシア語運用能力の向上に日々務めたい。
また日常の「ことば」に関心を持ち、言語学が関連する文学、社会学、歴史学などの他領域にもアンテナを張っておいてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET16 63231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア語形態論・統語論									
【授業の概要・目的】											
ロシア語形態論および統語論に関するロシア語テキストを輪読し、これまでの先行研究を整理するとともに、最新の知見を得る。											
【到達目標】											
先行研究の論点を整理し、批判的に読み取る力を養う。 ロシア語の学術論文の読解力を向上させる。 自身のロシア語学および言語学における研究テーマや研究手法を見直す。											
【授業計画と内容】											
ロシア語形態論および統語論に関してロシア語で書かれたテキストを輪読する。 テキストは、ロシア語母語話者向けの教科書のような平易なものから、また統語論に関する学術論文や学術書まで扱う。 各テキストを3-5回で読む。 Paducheva, E.V., O semantike sintaksisa. Materialy k transformacionnoj gramatike russkogo jazyka, Moskva: URSS, 2016. Solganik, G. Ja., Russkij jazyk i kul'tura rechi, Moskva: Aspekt-Press, 2016. Zolotova, G.A., Kommunikativnye aspekty russkogo jazyka, Moskva: URSS, 2010. その他2 - 3回を用い、受講者の関心に応じロシア語以外の言語における形態論・統語論の問題を扱うテキストを随時輪読する。											
【履修要件】											
ロシア語のテキストを辞書を用いて読むため、最低でもロシア語IIを履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（70%）と期末レポート（30%）で総合的に評価する。なお、平常点は各授業への積極的な参加や課題への取り組みで評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(特殊講義) (2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する
講読する箇所を授業時に配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

翌週の授業で扱うテキストの該当部分をあらかじめ予習しておくこと。
またテキストで扱われている事象の具体例を、(ロシア語または他の言語で)収集してきてもらうこともある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系130

科目ナンバリング		G-LET16 63231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トルストイ『アンナ・カレーナ』読解									
[授業の概要・目的]											
<p>レフ・トルストイの代表作『アンナ・カレーナ』の場面を選んで、読解していきます。トルストイの小説は、極めて論理的な文体で書かれている一方で、感覚的な喚起力に満ちています。ロシア語を適切な日本語に翻訳していくとともに、作品の考察や分析を試み、時代背景についての知識も深めます。</p>											
[到達目標]											
<p>1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 インTRODクシヨ トルストイという作家、および『アンナ・カレーナ』の概要について説明します。</p> <p>第2回～第14回 『アンナ・カレーナ』の重要な場面を読んでいきます。</p> <p>第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>											
[履修要件]											
ロシア語文法を習得していること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点]											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
テキストはプリントを配付します。											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に適宜紹介します。</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<p>次回に授業で読む箇所に事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

文献文化学系131

科目ナンバリング		G-LET16 63231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トルストイ『戦争と平和』読解									
[授業の概要・目的]											
19世紀ロシア文学の最高峰とも言われるレフ・トルストイの長篇小説『戦争と平和』の場面を選んで、読解していきます。トルストイの小説は、極めて論理的な文体で書かれている一方で、感覚的な喚起力に満ちています。ロシア語を適切な日本語に翻訳していくとともに、作品の考察や分析を試み、時代背景についての知識も深めます。											
[到達目標]											
1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨN トルストイという作家、および『戦争と平和』の概要について説明します。											
第2回～第14回 『戦争と平和』の重要な場面を読んでいきます。											
第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。 フィードバックについては授業中に指示します。											
[履修要件]											
ロシア語文法を習得していること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点]											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
テキストはプリントを配付します。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に適宜紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
次回に授業で読む箇所に事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系132

科目ナンバリング		G-LET16 63231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学（特殊講義） Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 有宗 昌子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		聖人伝を読む ロシア教会史に関する文献の講読									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、聖人伝とロシア教会史に関する文献の講読を通じて、ロシアのキリスト教文化とロシア社会に関する知識と理解を深めることにある。 ロシア、ウクライナ、ベラルーシなどの正教圏で列聖された様々な時代の聖人のうち、特に崇敬を集める聖人を取り扱う。関連するイコンや映像なども参照する。											
【到達目標】											
1) ロシア語の基本的な読解力と、宗教的文献のジャンルの一つである聖人伝の読解力の向上を目指します。 2) ロシア教会史と社会背景に関する知識と理解を深めます。											
【授業計画と内容】											
第1回 はじめに 授業の概略と進め方を説明し、文献の紹介を行います。											
第2回～第14回 講読： 一人の人物の聖人伝を1回ないし数回に分けて読み進める。											
第15回 まとめ フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
ロシア語の基本文法を理解していること（未修事項は適宜補います）。 辞書を使って読めること。独習でもかまいません。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点60%、期末レポート40%で評価します。											
【教科書】											
プリント、データを配付します。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- スラブ語学スラブ文学（特殊講義）(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学（特殊講義）(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介する本や論考、映像をできるだけ自分でも参照してみてください。

（その他（オフィスアワー等））

第1回授業で相談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 中野 悠希			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア語作文									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、これまでに身に付けたロシア語の語彙や文法の知識を活用してロシア語で文章を書く力を養う。特に、構文を構文に訳すという練習に重点を置く。ロシア語と日本語とでは文法構造も文化的背景も大きく異なるため、当然ロシア語特有の言い回し、日本語特有の言い回しというものがある。このため、単語ごとに訳していくだけでは、ロシア語として通じなかったり、ぎこちなくなったりすることがままある。単語を単語に置き換える技術は語彙力の伸長とともに自ずと身に付くが、構文を構文に置き換えるには慣れが必要で、相応の訓練を要する。構文ごとの訳し方の典型的なパターンを知り、練習を積み重ねることで、ロシア語の運用能力を一段と高めることが授業の狙いである。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) ロシア語でよく使われる表現を知り、日本語の表現との対応関係を把握する。 (2) 学んだ表現を活用・応用してロシア語で自己表現をする能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2回 時の表現(「～する時」など) 第3回 時の表現(「～する前に」「～してから」など) 第4回 条件の表し方1(「～なら」など) 第5回 条件の表し方2(「たとえ～でも」など) 第6回 原因・理由の表し方 第7回 結果の表し方 第8回 疑問詞の構文 第9回 否定小詞 第10回 比喻・様式の表し方 第11回 程度の表し方 第12回 主語的な名詞節の表し方 第13回 補語的な名詞節の表し方 第14回 関係節 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
中級程度のロシア語の知識があることが望ましい。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席・毎回の作文課題）30%、期末レポート（和文露訳）70%

[教科書]

磯谷孝 『ロシア語作文教程』（三省堂、1973年）

適宜プリントを配布するため、教科書を各自で入手する必要はない。

[参考書等]

（参考書）

米川哲夫、佐藤純一、中村喜和、栗原成郎 『ロシア語作文の基礎（第二版）』（白水社、1980年）

[授業外学修（予習・復習）等]

母語であれ外国語であれ、文章力は、能動的・実践的な試行錯誤を経なくては涵養されない。したがって授業時までには教科書の指定箇所を熟読し、作文課題に取り組んでおくことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業時間内および授業後の休憩時間に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系134

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -1									
【授業の概要・目的】											
平易なロシア文学史の論文の講読と、ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する学部生による研究報告											
【到達目標】											
1) 文学に関するロシア語論文の読解法を習得する。 2) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。 3) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨン 各自の関心に応じて研究発表のテーマ、及びその対論者を決め、だいたいのスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。											
第2回～9回 現代のロシア文学者I・スヒフの著作『すべての人のためのロシア文学』から、数名の詩人・作家の項目を講読します。											
第10～15回 学部生が順次、研究報告と質疑応答を行います。 大学院生は順次、司会や対論者を担当します。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
ロシア語の基礎的な知識が必要です。 スラブ語学スラブ文学専修の学部生・修士課程・博士課程生は必ず履修すること。											
【成績評価の方法・観点】											
報告と期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
-----スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く-----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[教科書]

講読のテキストはコピーを配付します。
報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。

[参考書等]

(参考書)
授業中に適宜紹介・アドヴァイスします。

[授業外学修(予習・復習)等]

講読の際には、事前に準備をしておくこと。
報告準備の過程では、事前に必ず教員の助言を受けること。

(その他(オフィスアワー等))

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系135

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -2									
【授業の概要・目的】											
平易なロシア文学史の論文の講読と、ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する学部生による研究報告											
【到達目標】											
<p>1) 文学に関するロシア語論文の読解法を習得する。</p> <p>2) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。</p> <p>3) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン 各自の関心に応じて研究発表のテーマ、及びその対論者を決め、だいたいのスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。</p> <p>第2回～9回 現代のロシア文学者I・スヒフの著作『すべての人のためのロシア文学』から、数名の詩人・作家の項目を講読します。</p> <p>第10～15回 学部生が順次、研究報告と質疑応答を行います。 大学院生は順次、司会や対論者を担当します。</p> <p>フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>											
【履修要件】											
<p>ロシア語の基礎的な知識が必要です。 スラブ語学スラブ文学専修の学部生・修士課程・博士課程生は必ず履修すること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
報告と期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
-----スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く-----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[教科書]

講読のテキストはコピーを配付します。
報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。

[参考書等]

(参考書)
授業中に適宜紹介・アドヴァイスします。

[授業外学修(予習・復習)等]

講読の際には、事前に準備をしておくこと。
報告準備の過程では、事前に必ず教員の助言を受けること。

(その他(オフィスアワー等))

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系136

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -1									
【授業の概要・目的】											
ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する、大学院生による研究報告											
【到達目標】											
1) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。 2) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨN 各自の関心に応じて研究発表のテーマを決め、前期のだいたいのスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。											
第2回～14回 大学院生が、順次、研究報告と質疑応答を行います。 学部生は、質疑応答に積極的に参加することが求められます。											
第15回 各報告の補足と、演習の総括を行います。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
スラブ語学スラブ文学専修の修士課程・博士課程生は必ず履修すること。 同じく学部生も履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
報告と期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
【教科書】											
報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に適宜紹介・アドヴァイスします。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

報告準備の過程で、事前に必ず教員の助言を受けること。

（その他（オフィスアワー等））

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系137

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -2									
[授業の概要・目的]											
ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する、大学院生による研究報告											
[到達目標]											
1) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。 2) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨン 各自の関心に応じて研究発表のテーマを決め、後期のだいたいのスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。											
第2回～14回 大学院生が、順次、研究報告と質疑応答を行います。 学部生は、質疑応答に積極的に参加することが求められます。											
第15回 各報告の補足と、演習の総括を行います。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
[履修要件]											
スラブ語学スラブ文学専修の修士課程・博士課程生は必ず履修すること。 同じく学部生も履修することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
報告と期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
[教科書]											
報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に適宜紹介・アドバイスをします。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
報告準備の過程で、事前に必ず教員の助言を受けること。											
(その他(オフィスアワー等))											
質疑応答に積極的・主体的に参加してください。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		バルト・スラヴ比較・対照言語学									
【授業の概要・目的】											
「バルト・スラヴ比較・対照言語学」と題し、主にバルト諸語のラトビア語をもとに、スラヴ語（主にロシア語）と比較・対照しながら、言語学の様々な側面概説する。											
【到達目標】											
ラトビア語の音声、語彙、文法に関する概説を通して、自分が研究しているスラヴ諸語やその他の言語との対照を行い、ことばのしくみの共通点と相違点を理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 音と文字 3. 語彙 4. 固有名詞 5. 形態論 名詞・形容詞・副詞 6. 形態論 動詞 7. アスペクト 8. 語形成論 9. 主観的評価 10. 借用 11. 統語論 12. 言語とアイデンティティ 13. 方言 14. 予備 15. フィードバック 											
【履修要件】											
ヨーロッパの言語、とりわけスラヴ語の履修歴があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（各回の授業に関するコメント）：60% 期末レポート：40%											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

堀口大樹 『ニューエクスプレスプラス ラトヴィア語』(白水社、2018年)

櫻井映子 『ニューエクスプレスプラス リトアニア語』(白水社、2019年)

三谷恵子 『比較で読み解くスラヴ語のしくみ』(白水社、2016年)

[授業外学修(予習・復習)等]

学修、研究している言語に常日頃から真摯に取り組むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系139

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		スラブ語入門									
【授業の概要・目的】											
「スラブ語入門」と題し、ロシア語を中心としたスラブ諸語の文法の基本的な仕組みについて、ロシア語で書かれた平易なテキストを読みながら理解する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を中心としたスラブ諸語の構造や仕組み、歴史について理解を深める。 ・辞書を用いてロシア語のテキストを読む力を高める。 											
【授業計画と内容】											
<p>本授業では、スラブ諸語の概要についてそれぞれ3回で概観する。 また受講者の関心に応じて、下記以外のスラブ語を取り上げる場合もある。</p> <p>1-3 ロシア語 4-6 ウクライナ語 7-9 ベラルーシ語 10-12 ポーランド語 13-15 ブルガリア語</p>											
【履修要件】											
<p>ロシア語の初級文法の知識があること。 また、言語学の基礎知識があることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価については、毎回読むテキストの予習や課題（60%）、学期末レポート（40%）に基づくものとする。</p>											
【教科書】											
<p>『スラブ語入門』(三省堂、2011年) ほか 『比較で読み解くスラブ語のしくみ』(白水社、2019年) 『Academia』(Academia、2005年)</p> <p>毎回の授業で読むテキストの箇所は、授業で配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 三谷恵子 『スラブ語入門』(三省堂、2011年) 三谷恵子 『比較で読み解くスラブ語のしくみ』(白水社、2019年)</p>											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

河野六郎ほか 『言語学大辞典』 (三省堂)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回の授業で読むテキストの予習をすること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系140

科目ナンバリング		G-LET16 73241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		ロシア国立研究大学高等経済学院東 洋学・西洋古典学研究所・准教授 Fedorova Anastasia			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3,4	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Russo-Japanese Cultural Dialogue Through Images									
【授業の概要・目的】											
<p>This course explores the rich history of cultural encounters between Japan and Russia, starting in the Edo period and leading to the two countries' latest attempts at co-producing animated films. Both countries have traditionally formed their identities by negotiating a special place between the East and the West, and have tried to actively learn from each other. Drawing on examples from personal diaries, memoirs, painting, film and animation, we will explore how the mutual perception between Japan and Russia has transformed overtime in accordance with various political, economic and cultural changes that occurred both globally and domestically.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will be able to identify the unique aspects of cultural interactions between Japan and Russia, while simultaneously interpreting them in a larger theoretical framework of cross-cultural exchange.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 Introduction (each week is consisted of 2 class unites/3 hours) Week 2 Japan and Russia during the Edo Period Week 3 Russo-Japanese War (1904-1905) Week 4 Transnational Cultures of Modernism (I): Painting, Literature, Theater Week 5 Transnational Cultures of Modernism (II): Film Week 6 Japanese Fascination with Marxsim Week 7 Soviet Fascination with Japanese Material Culture Week 8 Interacting through Manga and Anime</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Active participation in class; Test(s) based on information from weekly reading assignments; Final essay written in English (8000 words)</p>											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[教科書]

Reading assignments will be distributed in class.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

Reading assignments will be given from multiple sources including:

Thomas J. Rimer ed., *A Hidden fire : Russian and Japanese cultural encounters, 1868-1926* (1995)

Yulia Mikhailova, William M. Steele, eds., *Japan and Russia: Three Centuries of Mutual Images* (2008)

Sho Konishi, *Anarchist Modernity: Cooperatism and Japanese-Russian Intellectual Relations in Modern Japan* (2013)

[授業外学修(予習・復習)等]

Students must be prepared to comment and critically analyze the reading assignments weekly.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系141

科目ナンバリング		G-LET16 73251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		20世紀ロシア文学を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、ユーリー・トリーフォノフ『茸の秋のこと』、ユーリー・カザコフ『12月の二人』などの短編を読んでいます。20世紀後半のロシア文学を代表する彼らの文体は、簡潔かつ明晰で論理的です。語彙は平易かつ豊富です。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。</p>											
【到達目標】											
<p>1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODakション 20世紀後半のロシア/ソ連文学の概要とその研究の基本文献について説明します。</p> <p>第2回～第8回 トリーフォノフの短編『茸の秋のこと』を精読し、語彙、視覚イメージ、文体、作品の構造、時代的・思想的背景、文学的系譜なども考慮に入れつつ、テキストを分析します。</p> <p>第9～14回 カザコフの短編『12月の二人』について、上記と同じことをします。</p> <p>第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>											
【履修要件】											
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
-----スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く-----											

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[教科書]

テキストはプリントを配付します。

[参考書等]

(参考書)

授業中に適宜紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系142

科目ナンバリング		G-LET16 73251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代ロシア文学講読									
【授業の概要・目的】											
<p>ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、ソ連崩壊後の1990年代を代表する作家ヴィクトル・ペレ ヴィンの短編を講読します。ペレ ヴィンの世界は奇抜で幻想的である一方、平易で明晰な文体で書かれています。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。</p>											
【到達目標】											
<p>1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODakション ペレ ヴィンという作家、および講読作品の概要について説明します。</p> <p>第2回～第8回 『青い火影』中の1編『天上界のタンバリン』を講読します。</p> <p>第9回～第14回 『虫の生活』中の1編『パラダイス』を講読します。</p> <p>第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>											
【履修要件】											
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
----- スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[教科書]

テキストはプリントを配付します。

[参考書等]

(参考書)

授業中に適宜紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系143

科目ナンバリング		G-LET16 73251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ロシア語論文講読									
[授業の概要・目的]											
ロシア語の読解・運用能力を向上させ、合わせてロシア語による論文の作法・スタイル・表現などに習熟する目的で、人文社会系分野のロシア語学術論文の講読を行う。											
[到達目標]											
ロシア語の人文社会系分野の学術論文を辞書・参考書などを利用しながら読み、その内容を理解し、重要なポイントをまとめられるようになる。											
[授業計画と内容]											
各回とも授業担当教員の指定する論文につき、パートごとに担当者を決め、輪読する形式とする。											
第1回～第5回 ロシア文化に関する論文を講読する 第6回～第10回 歴史学関連の論文を講読する 第11回～第15回 民族学・文化人類学関連の論文を講読する											
[履修要件]											
ロシア語の基本文法を習得済みであること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点50%、期末レポート50%で評価する。											
[教科書]											
使用しない 教材となる論文をプリントで配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 各自必要な辞書等を持参・利用すること。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
当該回に読み進めるパートについて、あらかじめ辞書等を用いて一通り目を通し、内容を理解し、翻訳ができるようにしておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
連絡先 obiya[AT]cseas.kyoto-u.ac.jp											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET49 69661 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（初級I） Polishnbsp (Lectures)nbsp				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。</p> <p>期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ポーランド語の基礎知識（文字、アクセント、語尾変化、発音など）【1週】 2．基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙【1週】 3．基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化【1週】 4．ここまでの内容の確認と練習【1週】 5．名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け【1週】 6．名詞の単数生格、panとpaniの用法【1週】 7．名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方【1週】 8．ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認【1週】 9．名詞の単数複数対格、動詞の第1変化（-m,-sz型）【1週】 10．動詞の第2変化（-e,-isz型）、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現【1週】 11．動詞の第3変化（-e,-esz型）、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格【1週】 12．sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉【1週】 13．前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習【1週】 14．映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる【1週】 15．定期試験【1週】 16．フィードバック【1週】 											
【履修要件】											
特になし											
----- ポーランド語（初級I）(2)へ続く -----											

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69662 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語 (初級I) Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習します。</p> <p>期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【1週】 2 . 動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【1週】 3 . 動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【1週】 4 . 動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【1週】 5 . 命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【1週】 6 . 移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞【1週】 7 . 関係代名詞ktoryの用法【1週】 8 . ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【1週】 9 . 仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【1週】 10 . sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【1週】 11 . 副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【1週】 12 . 非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【1週】 13 . 一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【1週】 14 . ポーランドの文化に触れる【1週】 15 . 定期試験【1週】 16 . フィードバック【1週】 											
【履修要件】											
前期のポーランド語 (初級I) の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。											
----- ポーランド語 (初級I) (2)へ続く -----											

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 89642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っただけ決めた資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系147

科目ナンバリング		G-LET49 89642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語（中級II）（語学） Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っただけ決めた資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69646 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語（初級） Russian I				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。											
【到達目標】											
1) ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。 2) ロシア語の基礎的な文法を習得する。											
【授業計画と内容】											
授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。 序：文字と発音 第1課 「これはナターシャです」：平叙文 第2課 「私はナターシャではありません」：人称代名詞・疑問文・否定文 第3課 「これは私のスーツケースです」：所有代名詞・指示代名詞 第4課 「あそこに古い写真があります」：形容詞と名詞の性 第5課 「雑誌を読んでいます」：動詞現在形第1変化 第6課 「日本語を話します」：動詞現在形第2変化・複数形 第7課 「彼女はどこに住んでいるのですか」：不規則動詞と前置格 第8課 「電話を持っていますか」：所有の表現・命令形 第9課 「音楽を聴いているのですか」：不規則動詞と対格 第10課 「小包を送りたい」：運動の動詞と行先の表現 第11課 「日本文学を勉強していました」：動詞の過去形 第12課 「家にいました」：様々な過去時制 第13課 「今晚はお客様が来ます」：動詞の未来形・不規則動詞 第14課 「カサがありません」：生格の用法											
フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
【教科書】											
プリントを配付します。											
----- ロシア語（初級）(2)へ続く -----											

ロシア語（初級）(2)

[参考書等]

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET49 69647 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語（中級） Russian II				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の基礎文法を完成させる。 2) 辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。											
【授業計画と内容】											
授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。（第1回～第6回） 第15課 「夫にプレゼントを買いたいのです」：与格の表現 第16課 「紅茶は普通ミルクを入れて飲みます」：造格の表現 第17課 「日本料理店でアントンを見かけました」：活動体名詞の対格・形容詞の格変化 第18課 「それがアントンでないとどうして分かるのですか？」：動詞の完了体と不完了体 第19課 「捨てるのなら手伝います」：時制のまとめ・助動詞的用法 第20課 「もし私が鳥だったら」：仮定法 その後、ロシア語の文章を読むのに必要な文法事項をさらに学びます。（第7回～12回） ・関係詞 ・副動詞 ・形動詞 ・被動相 文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。（第13回～第14回） 第15回 まとめ フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
ロシア語（初級）を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
----- ロシア語（中級）(2)へ続く -----											

ロシア語（中級）(2)

[教科書]

プリントを配付します。

[参考書等]

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系150

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「病気」で読むドイツ文学									
【授業の概要・目的】											
<p>文学においては、さまざまな形で「病気」が描かれる。それは往々にして、スーザン・ソントグの言う意味での「隠喩としての病」であり、現実に存在する病気と同一視してはならない。現実に存在する病気の名を冠した文学上のモチーフは、たとえば宗教的・道徳的・政治的なレベルでの価値づけをその病気のイメージに追加することにより、ある種の暴力性を実社会において発揮するからである。この授業では、ドイツ文学に描かれた「病気」のモチーフを追い、それがどのような暴力性を帯びているかを確認したうえで、その描写にどのような生産的な意義があるのかを考えていく。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文学に描かれる「病気」と現実の病気との違いを認識できるようになる 2. 文学に「病気」が描かれることの意義とは何かについて、自分自身の考えを持てるようになる 											
【授業計画と内容】											
<p>前半は講義形式で授業を進める。「病気」のモチーフが重要な役割を果たしているいくつかのテキストを取り上げ、精読を実演する。後半は受講者に同様の手順で自分の好きなテキストについて発表してもらう。</p> <p>第1回 イントロダクション 文学に描かれた「病気」 第2回 ハルトマン『哀れなハインリヒ』 キリスト教的な意味における「隠喩としての病」 第3回 ビューヒナー『ヴォイツェック』 精神疾患のモチーフ 第4回 シュピーリ『ハイジ』 ストレスと病気 第5回 トーマス・マン『ヴェニスに死す』 伝染病のイメージ 第6回 カフカ『田舎医者』 医師の役割 第7回 デーブリン『ベルリン・アレクサンダー広場』 境界例としての文学 第8～14回 受講者による発表 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中の小課題にもとづく平常点（50％）および期末レポート（50％）で評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱ったものに限らず、できるだけ多くの文学作品を実際に手に取って読んでみてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系151

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		神話とドイツ文学									
【授業の概要・目的】											
この授業では、神話や伝説のモチーフが、ドイツ文学のなかでどのような役割をはたしてきたかを考察する。前半ではギリシア・ローマ神話を、後半ではそれ以外の神話や伝説を取り上げる。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ文学の作家や作品にかんする知識と理解を深める。 ・神話や伝説にかんする知識と理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>各回のテーマは次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 プロメテウス 3 パンドラ 4 ピグマリオン 5 オルフェウス 6 セイレン 7 前半のまとめ 8 水の精 9 ユーディトとサロメ 10 放蕩息子 11 トリスタンとイゾルデ 12 タンホイザー 13 ファウスト 14 ドン・ファン 15 後半のまとめ 											
【履修要件】											
ドイツ語の知識は必要としない。											
【成績評価の方法・観点】											
授業時のコメントペーパー（50％）と期末レポート（50％）によって評価する。期末レポートについては、到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
-----ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く-----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げる作品を、できるだけ自分で読んでみることを。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系152

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		言語学入門									
[授業の概要・目的]											
研究発表（ゼミ形式）による。ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。言語学の諸分野（音論、形態論、統語論等の諸領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的考究を進める。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。											
[到達目標]											
今日の言語学の手法と併せて、言語の史的考察による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題について考究する力が身に付くようにする。個別言語にとどまらず、言語一般の体系性が把握できることを目指す。											
[授業計画と内容]											
ゲルマン語学の諸分野（音論・形態論・統語論・意味論などの領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく考究を進める。言語の理論的アプローチによる種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する。											
第1回～第10回 研究発表（ゼミ形式）院生による。 第11回～第13回 研究発表（ゼミ形式）学部生による 第14回～第15回 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
主に研究発表の形式をとる。発表など平常点を主に成績評価を行う。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 河崎 靖 『ゲルマン語学への誘い』（現代書館） 河崎 靖 『ゲルマン語基礎語彙集』（大学書林）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
こちらで用意する教材に関し、授業の前後（予習・復習）に課題を課し、授業時に発表できる準備をしてもらう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系153

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	ドイツ語
題目		Einführung in die deutsche Lyrik (I)									
【授業の概要・目的】											
Der Kurs bietet eine allgemeine Einführung in Methoden der Formanalyse und inhaltlichen Interpretation (auch hinsichtlich der Performanz) deutscher Gedichte. Zudem werden anhand ausgewählter Texte vom Mittelalter bis zum 18. Jahrhundert typische Themenkreise und Stilmerkmale der Lyrik verschiedener Literaturepochen vorgestellt.											
【到達目標】											
Die Studenten sollen die Eigenheiten der lyrischen Stile unterschiedlicher Zeiten und ihre Bedeutung kennen lernen und damit in die Lage versetzt werden, einen Text selbständig einer bestimmten Stilrichtung und Zeit zuzuordnen zu können und ihn auf dieser Grundlage zu interpretieren.											
【授業計画と内容】											
Jede Woche werden Gedichte wichtiger Autoren einer Epoche vorgestellt und vor dem historischen und kulturellen Hintergrund der Zeit interpretiert. Der Lehrer gibt die notwendigen Informationen, mit deren Hilfe die Studenten die Interpretation selbst vornehmen können. 1.-2. Woche: Einführung in die Formanalyse. 3.-15. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Gedichtsbeispiele verschiedener literarischer Epochen (auch nach Absprache mit den Studenten). 16. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernenen.											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.

[授業外学修(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

(その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系154

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	ドイツ語
題目		Einführung in die deutsche Lyrik (II)									
【授業の概要・目的】											
Der Kurs bietet eine allgemeine Einführung in Methoden der Formanalyse und inhaltlichen Interpretation (auch hinsichtlich der Performanz) deutscher Gedichte. Zudem werden anhand ausgewählter Texte des 19. und 20. Jahrhunderts typische Themenkreise und Stilmerkmale der Lyrik verschiedener Literaturepochen vorgestellt.											
【到達目標】											
Die Studenten sollen die Eigenheiten der lyrischen Stile unterschiedlicher Zeiten und ihre Bedeutung kennen lernen und damit in die Lage versetzt werden, einen Text selbständig einer bestimmten Stilrichtung und Zeit zuzuordnen zu können und ihn auf dieser Grundlage zu interpretieren.											
【授業計画と内容】											
Jede Woche werden Gedichte wichtiger Autoren einer Epoche vorgestellt und vor dem historischen und kulturellen Hintergrund der Zeit interpretiert. Der Lehrer gibt die notwendigen Informationen, mit deren Hilfe die Studenten die Interpretation selbst vornehmen können. 1.-2. Woche: Einführung in die Formanalyse. 3.-15. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Gedichtsbeispiele verschiedener literarischer Epochen (auch nach Absprache mit den Studenten). 16. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernenen.											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.

[授業外学修(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

(その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系155

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リズムの哲学									
【授業の概要・目的】											
リズムは音楽の根源である。リズムを欠いた音楽は音楽ではない。しかしリズムは、例えば労働やスポーツや演劇、さらには絵画（例えば印象派における「タッチ」）など、人間のあらゆる活動の基底でもある。この授業ではヨーロッパの音楽ならびに音楽思想を通して、リズムとは何かを問う。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
第一回～第三回：生の哲学のリズム論（ベルグソン、クラークス、エルンスト・クルトのリズム哲学を扱う） 第四回～第六回：リズムとビート（パルス）の違い（定量記譜法、小節線の誕生、時計の進歩、そしてニュートンの時間などを参照しつつ、西洋音楽のデジタル性＝離散性について考える） 第七～第八回：木村敏の時間論とリズム 第九回～第十回：リオタールの非人間の哲学とリズム 第十一～十二回：レヴィ＝ストロースのボレロ論 第十三回～第十五回：「音楽の散文」の概念史（ワーグナーおよびシェーンベルクの著作に即し、スクエアに分節された時間からの音楽の解放の歴史をたどる）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基づく。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
毎回レジメを配布する

[参考書等]

(参考書)
木村敏 『時間と自己』(中公新書)
山崎正和 『リズムの哲学ノート』

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET17 63331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リズム史としての西洋音楽史									
【授業の概要・目的】											
人間がどう時間を感じていたか それは音楽の中に如実にあらわれる。この授業ではネウマ譜に代わって定量記譜法が登場した中世、小節線が引かれるようになったバロック、そして小節線のスクエアな時間からの解放を探究した20世紀を中心として、時間意識の変化としての西洋音楽史を辿る。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
第一回から第三回：リズムとビートは違う（ウィーン古典派で確立された拍節リズム、ロマン派の時代に出てきた音楽の散文の概念、モダン・ジャズにおけるポリリズム、1970年代の西ドイツにおけるクラウトロックを検討する） 第四回～第六回：時間計測としての音楽史（ネウマ譜からの定量記譜法の誕生、小節線の誕生、拍節リズムの誕生を扱う） 第七回～第八回：時間を逆行させる夢（マショー、アルバン・ベルクと十二音技法、メシアンの逆行不能のリズムを扱う） 第九回～第十一回：シュトックハウゼンの音楽論（トータルセリーの危機、点の音楽、群の音楽、時間と空間の同一性を論じる） 第十二回～第十三回：クセナキスと確率論 第十四回～第十五回：ジョン・ケージ（プリペアドピアノにおける極度に管理された時間から4分33秒における無分節の時間への移行および近藤譲の「線の音楽」について）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
毎回レジメを配る予定

[参考書等]

(参考書)
岡田暁生 『西洋音楽史』(中公新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に言及した音楽についてYoutubeなどで適宜聴いておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系157

科目ナンバリング		G-LET17 6M181 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学（特殊講義） German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 細見 和之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ベンヤミンの『ドイツ・ロマン主義における芸術批評の概念』に見られる彼の初期思想									
[授業の概要・目的]											
この講義では、ベンヤミンの博士論文『ドイツ・ロマン主義における芸術批評の概念』を新しいドイツ語版の全集で精読することで、ベンヤミンの初期思想を深く理解することを目的とする。また、ドイツ語の原文を精読することで、受講者が高度なドイツ語の読解能力を身に付けることも目指す。											
[到達目標]											
受講生は、この講義をつうじて、ベンヤミンの初期思想の大枠について学ぶとともに、広く20世紀という時代のなかで思想家がどのように生きてきたかについて、ゆたかな知識を得ることができる。また、高度なドイツ語の読解能力を身に付けることができる。											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨN ベンヤミンの思想の大枠と、そのなかでの『ドイツ・ロマン主義における芸術批評の概念』の位置、またその内容について、概略を説明する。 第2回から第14回 ドイツ語原文の精読 『ドイツ・ロマン主義における芸術批評の概念』をドイツ語版の原文で冒頭から精読する。 第15回 まとめ ベンヤミンの初期思想をめぐって受講者が討論することを主たる内容とする。											
[履修要件]											
ドイツ語の最低限の読解能力を有すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（90点）、討論参加（10点）を基本にして、総合的に判定する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
ドイツ語原文の精読が基本になりますので、必ず予習をして臨んでください。背景的な知識がかなり必要になりますが、授業中に指示する参考文献も併読して、ベンヤミンの思想を軸に、ホロコーストをあいだに挟んだ20世紀の思想の展開に対して強い関心をもっていただきたいと思います。											
（その他（オフィスアワー等））											
毎週、火曜日、水曜日の昼休みには、原則として研究室にいますので、お気軽にお訪ねください。それ以外の時間帯での相談はメールでアポイントを取っていただければと思います。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET17 73345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦 文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(1)									
【授業の概要・目的】											
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。 ・研究発表とディスカッションの技法を身につける。 											
【授業計画と内容】											
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。											
第1回 はじめに： 研究発表の要領を説明し、前期の発表日程について協議する。											
第2回～第3回 博士後期課程1回生による研究発表： 前年度に提出した修士論文の内容の報告。											
第4回～第7回 修士課程1回生による研究発表： 前年度に提出した卒業論文の内容の報告。											
第8回～第11回 博士後期課程2・3回生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。											
第12回～第14回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。											
第15回 まとめ： 前期の授業の総括。											
【履修要件】											
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
【教科書】											
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(演習III)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅲ)(2)

[参考書等]

(参考書)

発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET17 73345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦 文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(2)									
【授業の概要・目的】											
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。 ・研究発表とディスカッションの技法を身につける。 											
【授業計画と内容】											
<p>受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。</p> <p>第1回～第3回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文の中間報告。</p> <p>第4回～第5回 学部4回生による研究発表： 卒業論文の中間報告。</p> <p>第6回～第11回 博士後期課程学生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。</p> <p>第12回～第14回 修士課程1回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。</p> <p>第15回 学部3回生による研究発表： 卒業論文作成に向けての中間報告</p>											
【履修要件】											
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
【教科書】											
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 発表者が、必要に応じて紹介する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(演習III)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅲ)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系160

科目ナンバリング		G-LET17 7M183 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Goethe: Die Leiden des jungen Werther (1)									
[授業の概要・目的]											
この授業では、若きゲーテの代表作『若きヴェルターの悩み』（1774）を読む。同時に、18世紀ドイツ文学の諸問題についても考えてみたい。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀ドイツ文学の作品の読解力を高める。 ・ゲーテの文学世界に親しむ。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 はじめに： ゲーテの生涯と作品について解説する。</p> <p>第2回～第14回 テキスト講読： テキストの前半部を精読する。</p> <p>第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。</p>											
[履修要件]											
ドイツ語中級以上の語学力があること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系161

科目ナンバリング		G-LET17 7M183 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Goethe: Die Leiden des jungen Werther (2)									
[授業の概要・目的]											
この授業では、若きゲーテの代表作『若きヴェルターの悩み』（1774）を読む。同時に、18世紀ドイツ文学の諸問題についても考えてみたい。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀ドイツ文学の作品の読解力を高める。 ・ゲーテの文学世界に親しむ。 											
[授業計画と内容]											
第1回～第14回 テクスト講読： テクストの後半部を精読する。 第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。											
[履修要件]											
ドイツ語中級以上の語学力があること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系162

科目ナンバリング		G-LET17 7M183 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学と政治									
[授業の概要・目的]											
<p>「文学と政治」は、古くて新しいテーマである。文学は、いわゆるアンガジユマンの文学のような例外を除いて、しばしば政治とは無関係の中立的な営みであるかのように装われるが、実際には常に時代の政治状況の中から生み出され、時代の政治状況との関わりで読まれるものである。この授業では、特に非政治的であると見なされがちなドイツ文学作品の事例に注目し、その作品についての研究史を概観しながら、そこにどのような政治的問題が関連しうるかを考えていく。</p>											
[到達目標]											
<p>当該分野の研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み、自分自身の視点を打ち出すことができるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文を読む予定であるが、必要に応じて個々の文学作品も視野に入れる。授業の進行予定は以下のとおり。</p> <p>第1回 授業テーマの解説 第2～14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
中級以上のドイツ語の読解能力があること											
[成績評価の方法・観点]											
平常点のみで評価。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系163

科目ナンバリング		G-LET17 7M183 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学と政治									
[授業の概要・目的]											
<p>「文学と政治」は、古くて新しいテーマである。文学は、いわゆるアンガジユマンの文学のような例外を除いて、しばしば政治とは無関係の中立的な営みであるかのように装われるが、実際には常に時代の政治状況の中から生み出され、時代の政治状況との関わりで読まれるものである。この授業では、特に非政治的であると見なされがちなドイツ文学作品の事例に注目し、その作品についての研究史を概観しながら、そこにどのような政治的問題が関連しうるかを考えていく。</p>											
[到達目標]											
<p>当該分野の研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み、自分自身の視点を打ち出すことができるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>前期に引き続き、基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文を読む。 取り上げるテーマとテキストについては、受講者の希望を考慮しつつ決定する。</p> <p>第1回 前期の復習と今期の課題の設定 第2～14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
中級以上のドイツ語の読解能力があること											
[成績評価の方法・観点]											
平常点のみで評価											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系164

科目ナンバリング		G-LET17 7M183 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究所 教授 細見 和之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ベンヤミン 『ドイツ・ロマン主義における芸術批評の概念』における批評概念について。									
【授業の概要・目的】											
この演習では、ベンヤミンの『ドイツ・ロマン主義における芸術批評の概念』の第2部を新しいドイツ語版全集の原文で精読することで、ベンヤミンの批評概念について理解するとともに、受講者が高度なドイツ語の読解能力を身に付けることを目指す。あわせて、受講者自身の研究発表の機会を授業のなかに組み込むことで、受講者が研究者として発信する力を身に付けることも目指す。											
【到達目標】											
受講生は、この演習をつうじて、ベンヤミンの批評概念について学ぶとともに、広く20世紀という時代のなかで思想家がどのように生きてきたかについて、ゆたかな知識を得ることができる。また、高度なドイツ語の読解能力を身に付けることができる。さらに、自分自身の発表の機会をつうじて、研究者として自らの研究内容を発信する力を身に付けることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨン ベンヤミンの思想全体のなかでの『ドイツ・ロマン主義における芸術批評の概念』の位置について、またそのなかでの批評概念について、概略的な解説をくわえる。 第2回から第14回 ドイツ語テキストの精読と受講者の発表 『ドイツ・ロマン主義における芸術批評の概念』第2部をドイツ語の原文で精読するとともに、受講生による発表の時間を組み込む。 第15回 まとめ ベンヤミンの批評概念について、受講者で討論することを主たる内容とする。											
【履修要件】											
ドイツ語の最低限の読解能力を有すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(70点)、発表(20点)、討論参加(10点)を基本にして、総合的に判定する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- ドイツ語学ドイツ文学(演習)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

ドイツ語論文の精読が基本になりますので、必ず予習をして臨んでください。背景的な知識がかなり必要になりますが、授業中に指示する参考文献も併読して、ベンヤミンの批評概念を軸に、ホロコーストをあいだに挟んだ20世紀の思想の展開に対して強い関心をもっていただきたいと思います。また、自分の発表に際しては、それぞれの研究テーマに引き寄せて、積極的に取り組んでください。

(その他(オフィスアワー等))

毎週、火曜日、水曜日の昼休みには、原則として研究室にいるようにしていますので、お気軽にお訪ねください。それ以外の時間帯の場合、メールでアポイントを取っていただくとありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系165

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		John Donne, Songs and Sonnets研究									
【授業の概要・目的】											
初期近代イングランドを代表する詩人の一人であるJohn Donneが書いた詩の内、Songs and Sonnetsと総称される恋愛詩の数篇に解説を加えながら精読し、詩中で提示される諸問題を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期近代の詩の読み方を身につける。 ・ John Donneの詩言語の特徴を理解し、そのリズムを身につける。 ・ 授業で扱う詩に描かれた当時の社会と英文学の関係を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション John Donne並びに授業で扱う詩の解説</p> <p>第2回：The Messageの精読と解釈</p> <p>第3回：The Baitの精読と解釈</p> <p>第4回：The Broken Heartの精読と解釈</p> <p>第5回：A Volediction Forbidding Moriningの精読と解釈</p> <p>第6回：The Good Morrow / Songの精読と解釈</p> <p>第7回：The Sun Risingの精読と解釈</p> <p>第8回：Love's Usury / The Canonization前半の精読と解釈</p> <p>第9回：The Canonization後半 / The Triple Foolの精読と解釈</p> <p>第10回：The Anniversaryの精読と解釈</p> <p>第11回：Love's Growthの精読と解釈</p> <p>第12回：Love's Exchangeの精読と解釈</p> <p>第13回：Love's Alchemyの精読と解釈</p> <p>第14回：The Fleaの精読と解釈</p> <p>第15回：全体のまとめ</p> <p>フィードバックについては授業中に指示をする。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

中間ならびに期末レポートにより評価する(40%, 60%)。題目、体裁等詳細については授業中に指示をする。

定期試験は行わない。

[教科書]

John Donne 『John Donne ' s Poetry (Norton Critical Text)』 (W.W.Norton) ISBN:978-0393926484

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

各回に割り当てた詩については、英英辞典などを使って十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、レポート作成の準備を行うこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 佐々木 徹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イギリスの伝記文学									
【授業の概要・目的】											
イギリス人は伝記好きな国民と言われる。たしかに書店に行くと、さまざまな人物にかんする伝記がたくさんおいてある。本講義においては、英文学史における重要な伝記作品をいくつか取り上げ、それらを具体的に検討し、文化的背景にも触れつつ、このジャンルにかかわる諸問題を考察する。											
【到達目標】											
伝記文学に関する基本的な知識を獲得するとともに、それを発展的に生かす能力を養う。また、伝記文学を批評的に読解するとは具体的に何をすることなのか、考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
Class 1 イントロダクション Class 2 Thomas More (Life of Richard III, Roper's Life of Thomas More) Class 3 Samuel Johnson (Essay on Biography) Class 4 Samuel Johnson (Life of Richard Savage) Class 5 James Boswell (Life of Samuel Johnson) Class 6 James Boswell (Life of Samuel Johnson) Class 7 Robert Southey (Life of Nelson) Class 8 Walter Scott (Life of Napoleon Buonaparte) Class 9 John G. Lockhart (Life of Walter Scott) Class 10 Elizabeth Gaskell (Life of Charlotte Bronte) Class 11 John Forster (Life of Charles Dickens) Class 12 James A. Froude (Life of Thomas Carlyle) Class 13 Lytton Strachey (Eminent Victorians) Class 14 Virginia Woolf (“ The New Biography ” “ The Art of Biography ”) Class 15 フィードバック (研究室で授業関連の質問に答える)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、学期末レポートによって評価する。											
----- 英語学英米文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義) (2)

[教科書]

必要に応じてプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習、復習については授業中に説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは月曜 14:15 ~ 15:15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多文化的空間としての中西部									
【授業の概要・目的】											
<p>様々な文化が相互嵌入する空間としての中西部を描いた英語テキストを通じて、アメリカ文化の多様性、異人種間の交流の歴史を学び、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。異文化交流の実践の一環として、本学の留学生あるいは外国人教員を招請し、異文化に身を置くことについて、受講生も交えて英語でのパネルディスカッションを行い、異文化間コミュニケーションの理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 											
【授業計画と内容】											
<p>注意：順番は入れ替わる可能性があるため、必ず初回授業にて配布するシラバスを参照すること</p> <p>第1回：【序論】中西部の地域的特徴をSherwood AndersonやWilla Catherなどの中西部出身の作家のテキストを通じて概括する</p> <p>第2回：Ernest Hemingway, “ Big Two-Hearted River ” Part Iにおける自然とヒト</p> <p>第3回：Ernest Hemingway, “ Big Two-Hearted River ” Part IIにおける自然とヒト</p> <p>第4回：Richard Wright, Native Sonの1930年代シカゴにおける都市と人種（1）</p> <p>第5回：Richard Wright, Native Sonの1930年代シカゴにおける都市と人種（2）</p> <p>第6回：Stuart Dybek, The Coast of Chicagoのシカゴの下町文化における多様性（1）</p> <p>第7回：Stuart Dybek, The Coast of Chicagoのシカゴの下町文化における多様性（2）</p> <p>第8回：【異文化体験についてのパネルディスカッション】前半のまとめとして、これまで授業で学んできた知見を活かして、本学の留学生等、外国から来た人々と英語で意見交換を行う</p> <p>第9回：James Alan McPhersonのElbow Room所収の短編における家庭と人種（1）</p> <p>第10回：James Alan McPhersonのElbow Room所収の短編における家庭と人種（2）</p> <p>第11回：Eminem主演映画『8 Mile』における貧困白人家庭とラップ・ミュージック</p> <p>第12回：Barack Obama, Dreams from My Fatherにおける継承と移動（1）</p> <p>第13回：Barack Obama, Dreams from My Fatherにおける継承と移動（2）</p> <p>第14回：レポート・ワークショップ</p> <p>第15回：【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての中西部を包括的に理解する</p>											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントは次回で取りあげる。発表は担当するテキストに関するもので、20分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

基本的にテキストはウェブにアップロードする
すでにネット上で読むことができるものは、その旨指示をする

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

事前にテキストを必ず読んでから授業に参加すること。内容確認のために毎回小テストを行う予定。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		翻訳実践									
【授業の概要・目的】											
異文化を理解するための根幹的な作業の一つが異なる文化を媒介する言語の翻訳である。本授業では、翻訳を通して英語圏の文化、社会、歴史に関する一般的な知識を習得すること、そして翻訳の実践とその際に生じる諸問題の考察を通じて、文化の多様性への関心と敬意を培い、文化間の交流・架橋の試みに伴う困難や意義を具体的に身をもって学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する。 ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。 ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画（各回のテーマ）</p> <p>第1回：イントロダクション～異文化理解と翻訳</p> <p>第2回：翻訳を通じた異文化との出会い～その基礎と心得、現状と課題</p> <p>第3回：コミュニケーションとしての翻訳（1）：異文化間架橋に伴う困難の諸側面を概観する</p> <p>第4回：コミュニケーションとしての翻訳（2）：英語と日本語の差異および背景となる英語圏文化と日本文化の差異のイメージをつかむ</p> <p>第5回：英語的思考と日本語的思考（1）：翻訳技術の必要性の背後にある英語圏と日本の言語文化的差異を理解する</p> <p>第6回：英語的思考と日本語的思考（2）：英語と日本語の言語構造に反映された英語圏と日本の文化的差異を理解する</p> <p>第7回：異文化テキストの同化の仕方（1）：英語と日本語の言語文化間の差異を踏まえた適切な距離の縮め方を探る</p> <p>第8回：異文化テキストの同化の仕方（2）：日本語と英語における代名詞の位置づけの違いとその言語文化的意味合いを考察する</p> <p>第9回：異文化テキストの異質性の活かし方（1）：訳語の統一等によって英語と日本語との根本的なずれ（ひいては異文化間の世界観のずれ）をあえて可視化し、そうした違和を異文化の異質性としてテキストに残すことの意義を考える</p> <p>第10回：異文化テキストの異質性の活かし方（2）：ルビ等の活用法から英語文化を日本語に同化させつつもその異質性を維持尊重するための折衷的手段を検討する</p> <p>第11回：言語と文化の差異を超えて（1）：言葉の意味に加えて音やリズムも翻訳に生かすという難題に取り組んでみることで、言語文化的越境の新たな可能性を探る</p> <p>第12回：言語と文化の差異を超えて（2）：英語の言葉遊びを日本語に置き換える方法を模索することを通じて、言語とユーモアの関係の文化間差異を検討し、その架橋の可能性を探る</p> <p>第13回：翻訳の限界と可能性（1）：感覚的表現、詩的表現等、文化的差異の深層に根差した難解な表現を安易な解釈を避けつつ日本語化してみることで、異文化との邂逅から生じる創造的可能</p>											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

性を探る

第14回：翻訳の限界と可能性（2）：ここまでの実践を踏まえて翻訳を通じた異文化間コミュニケーションの限界と可能性について考察する

第15回：まとめとディスカッション：翻訳にまつわる諸問題について、留学生や外国人教員を交えて受講者全員でディスカッションを行う

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（60％）と期末の翻訳課題（40％）を合わせて評価する。平常点は、学期を通じた授業への貢献度を評価する。期末課題については、到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

David Bellos 『Is That a Fish in Your Ear?: The Amazing Adventure of Translation』（Penguin）ISBN: 978-0241954300

【授業外学修（予習・復習）等】

各回、こちらで指定した英文テキスト（短めのもの）を数名の担当者が翻訳した原稿を全員で検討するという形で授業を進めるので、翻訳担当の受講者には、翻訳原稿および翻訳の際に気になった点をまとめたメモを事前にメールで提出してもらおう。他の受講者も、その回のテキストを熟読して自分なりの翻訳のイメージを形作り、担当者の翻訳についての的確なコメントができるよう準備しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 谷口 一美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知文法・構文文法研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。											
第1回：ガイダンス 第2回：認知文法(論文1前半) 第3回：認知文法(論文1後半) 第4回：認知文法(論文2前半) 第5回：認知文法(論文2後半) 第6回：構文文法(論文1前半) 第7回：構文文法(論文1後半) 第8回：構文文法(論文2前半) 第9回：構文文法(論文2後半) 第10回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1前半) 第11回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1後半) 第12回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2前半) 第13回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2後半) 第14回：全体の総活とディスカッション 第15回：フィードバック											
【履修要件】											
認知言語学の基礎知識を備えていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(30%)、学期末のレポート(70%)から総合的に評価する。											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[教科書]

論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 谷口 一美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知意味論研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：認知言語学の理論的概要 第3回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（導入） 第4回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（考察） 第5回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（導入） 第6回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（考察） 第7回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（導入） 第8回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（考察） 第9回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（導入） 第10回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（考察） 第11回：イメージ・スキーマと言語の意味（導入） 第12回：イメージ・スキーマと言語の意味（考察） 第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。 											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート（70%）、授業への取り組みの状況（30%）から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古英語入門(1)									
【授業の概要・目的】											
この講義では、古英語(Old English)の入門書として定評のある_Introduction to Old English_を手がかりに古英語文法の修得をめざす。あわせて、平易な原典テキスト(散文・韻文)の読解を行う。											
【到達目標】											
この授業では、											
<ul style="list-style-type: none"> ・古英語の文法にかかわる基本的な事項(音韻・形態・語彙・統語等)を学ぶだけでなく、インド ・ヨーロッパ語としての英語、ゲルマン語の一つとしての英語という視点から英語の諸特徴を考察すること ・現代英語との関連を常に意識し、現代英語に対する理解を深めること ・語形変化表とグロッサリーと想像力を駆使しながら、原典テキストを読み解けるようになることを目標にする。 											
【授業計画と内容】											
第1回 英語史の復習：ゲルマン語の中の英語 第2回 古英語の綴りと発音 第3回 古英語の語彙 第4回 古英語の文法(1)：名詞類の屈折 第5回 古英語の文法(2)：動詞の屈折 第6回 古英語の文法(3)：法 第7回 古英語の文法(4)：語順 第8回 古英詩の韻律 第9回 古英詩の語彙 第10回 古英詩の統語法 第11回 原典テキスト講読：The Story of Caeligdmon (1) 第12回 原典テキスト講読：The Story of Caeligdmon (2) 第13回 原典テキスト講読：The Dream of the Rood (1) 第14回 原典テキスト講読：The Dream of the Rood (2) 第15回 まとめ											
【履修要件】											
「英語史」の概説科目を履修済みか、同時に履修することが望ましい。											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点およびレポートを同等の重みで評価する。評価方法も含めて、授業の進め方を第1回目に説明するので、受講を考えている人は必ず出席すること。

[教科書]

Peter S. Baker 『_Introduction to Old English_ 3rd ed.』 (Wiley-Blackwell) ISBN:978-0-470-65984-7

[参考書等]

(参考書)

第1回目の授業で参考文献のリストを配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

・授業で取り上げられた項目について英語史の概説書・研究書を参照し、理解を深めることが求められる。

・「英語」とは言っても新しい外国語を学ぶのと同じなので、むやみに欠席すると授業について行けなくなることに必至。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系172

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古英語入門(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>後期の講義では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古英語の原典テキスト（韻文）の精読を通じて、前期に学んだ基本的な古英語文法に関する知識の定着を図る ・中英語期以降の脚韻詩との比較・対照を通じて、古英語頭韻詩の言語、題材に対する理解を深める <p>ことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古英語の文法にかかわる基本的な事項（音韻・形態・語彙・統語等）を学ぶだけでなく、インド ・ヨーロッパ語としての英語、ゲルマン語の一つとしての英語という視点から英語の諸特徴を考察すること ・現代英語との関連を常に意識し、現代英語に対する理解を深めること ・語形変化表とグロッサリーと想像力を駆使しながら、原典テキストを読み解けるようになること <p>を目標にする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 Beowulf (1)</p> <p>第3回 Beowulf (2)</p> <p>第4回 Beowulf (3)</p> <p>第5回 Beowulf (4)</p> <p>第6回 The Battle of Finnesburh (1)</p> <p>第7回 The Battle of Maldon (1)</p> <p>第8回 The Battle of Maldon (2)</p> <p>第9回 The Battle of Maldon (3)</p> <p>第10回 The Battle of Maldon (4)</p> <p>第11回 The Wanderer</p> <p>第12回 The Wife's Lament</p> <p>第13回 The Husband' Message</p> <p>第14回 Riddles</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>進捗状況に応じて、材料を入れ替える可能性もある。</p>											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

「特殊講義」ではあるがテキストの精読を重視するので、受講者には入念な事前準備が求められる。

[履修要件]

「英語史」の概説を履修済みであること、または履修中であることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点およびレポートを同等の重みで評価する。評価方法も含めて、授業の進め方を第1回目に説明するので、受講を考えている人は必ず出席すること。

[教科書]

Peter S. Baker 『Introduction to Old English 3rd edition』 (Wiley-Blackwell) ISBN:9780470659847

[参考書等]

(参考書)

第1回目の授業で参考文献のリストを配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ 受講にあたっては入念な下調べが要求される。
- ・ 授業で取り上げられた項目について英語史の概説書・研究書を参照し、理解を深めることが求められる。
- ・ 「英語」とは言っても新しい外国語を学ぶのと同じなので、むやみに欠席すると授業について行けなくなることに必至。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 出口 菜摘			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Adrienne Richの第4詩集『生きるのに必要なもの』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>アメリカの詩人アドリエンヌ・リッチ（1929-2012）はハーヴァード大学ラドクリフ・カレッジ在学中の1951年、詩集『世界の変化』A Change of Worldでデビューした。初期作品のスタイルは内容面においても形式面においても抑制的な傾向がみられるが、第3詩集『義理の娘のスナップショット』（Snapshots of a Daughter-in-Law 1963）から、自身の体験を反映したものへと変化をみせる。リッチは60年代から公民権運動や反戦運動、フェミニズム運動に積極的にに関わり、アカデミズムの外からメッセージを発し続けた詩人であり、文学史においては力強い声を持つ詩人と位置づけられている。しかし、第4詩集『生きるのに必要なもの』（1966）には、詩人の揺らぎやためらいが垣間見られ、リッチが独自のスタイルを形成するプロセスを示してくれる。本授業では、本詩集を通じて、彼女の作品の受容と詩人像を再考する。</p>											
【到達目標】											
<p>リッチは文学の枠を超え、フェミニズムの批評家・運動家としても重要な人物である。リッチが提示した「強制的異性愛」や「レズビアン連続体」といった概念、一人称複数“ We ”をめぐる連帯の限界と可能性をめぐる批判は、今日の問題に接続されるだろう。本授業では、リッチの作品を読むことで、読解力だけではなく、第2波フェミニズム運動の基本的事項を習得する。</p> <p>リッチの作品は彼女の思想的な枠組み（もしくは女性というジェンダーやリッチのセクシュアリティ）から論じられる傾向がある。リッチの作品の「詩的さ」というべきものが、このような批評の言説といかに連動し、テキストの意味を産出してきたか考えることで、作品と批評の相互関係についての視座を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.Necessities of Life 2.In the Woods 3.The Corpse-Plant 4.The Trees 5.Like This Together 6.Breakfast in a Bowling Alley in Utica, New York 7.Two Songs 8.The Parting 9.The Stranger 10.After Dark 11.Mourning Picture 12."I Am in Danger--Sir--" 13.Halfway 14.Noon 15.フィードバック 											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点50%(コメントやディスカッション等)と期末レポート50%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。

【教科書】

使用しない
初回授業でプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

作品を精読したうえで、テーマに関して問題意識を明確にして授業に臨むこと。また、関連する先行研究や関連資料にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員の連絡先は以下の通り。n_deguchi@kpu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 教授 里内 克巳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Emily Dickinsonの詩を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>アメリカの詩人Emily Dickinson(1830-86)の詩を鑑賞し、作品としての特質や、その背後にある文化的・歴史的背景を理解する。</p> <p>現在最も入手しやすいディキンソン詩の対訳本と、批評家Helen Vendlerによるアンソロジーとを併用し、英詩に親しんでいない受講生でも無理なく入っていける授業を行ないたい。まず上記2冊に共通して取り上げられている詩31編を対象に、日本語による注釈と訳、そして英語による批評的コメントを参照しつつ、受講者が1編ずつ丁寧に解説を試みる作業を授業の軸とする(1回の授業につき3~4編を扱う予定)。余裕があれば、アンソロジー所収の詩から気に入ったものを受講生が選び、発表するという形で更に読み進める。ディキンソンを扱った最近の伝記映画も鑑賞し、詩が書かれたバックグラウンドを把握することも試みる。</p>											
【到達目標】											
<p>英語で書かれた詩作品を読み、スタイルやレトリックなどの工夫について説明できる。</p> <p>作品が書かれた伝記的・歴史的な背景について説明できる。</p> <p>作品の内容や、それを読んで感じたこと・考えたことを、分かりやすく他の人に伝え、共有することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
(暫定的なスケジュール表) 数字はジョンソン番詩集に付された番号											
第1回 イン트로ダクション											
第2回 76, 126, 131番											
第3回 165, 214, 216番											
第4回 228, 249, 254番											
第5回 258, 280, 303番											
第6回 324, 328, 333番											
第7回 ディキンソンの生涯(映画鑑賞とディスカッション)											
第8回 338, 341, 441番											
第9回 448, 449, 465番											
第10回 501, 585, 712番											
第11回 883, 986, 1052番											
第12回 1068, 1129, 1275, 1540番											
第13回 ディキンソンの生涯(映画鑑賞とディスカッション)											
第14回 授業の振り返り											
第15回 フィードバック(学習相談・レポートへのコメントなど)											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点80点＋学期末レポート20点により評価する。
平常点とは、出欠・発表・授業参加の仕方を総合したもので、基本的に減点法で評価を行う。学期末レポートについては、授業が半分まで進んだ12月に詳細を通知するが、授業での学びを振り返ると共に、自身で調べ考察したことを盛り込むようなエッセイ・ライティング（日本語ないしは英語）の課題となる予定である。

【教科書】

亀井俊介 編 『対訳ディキンソン詩集 アメリカ詩人選(3)』（岩波文庫）ISBN: 4-00-323101-5
Helen Vendler 『Dickinson: Selected Poems and Commentaries』（Belknap Press）ISBN:0674066383

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業で扱う詩をあらかじめきちんと読み、自分なりに理解したうえで授業に臨むのが大前提となる。1回の授業につき半日程度の準備時間が必要になるので、毎週の授業外での学習計画をよく考えて立てる必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは設けられていない。授業時間外で質問・相談したいことがあれば、電子メールで連絡できる。

satouchi@lang.osaka-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系175

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		佛教大学 文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Vladimir Nabokov研究									
【授業の概要・目的】											
Vladimir Nabokov (1899-1977)の小説Glory(1971、ロシア語版は1932年)を精読する。一つ一つのことばと詳細を丁寧に拾い上げながら読むことによって、ナボコフ自身が本作品に見られると言う「純粹とメランコリーの絶頂」を確認することを目的とする。また、微細ないくつかの出来事、モチーフのつながりに注目しながら読み解く。											
【到達目標】											
比較的難解な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨン											
第2回 1 - 4 章輪読											
第3回 5 - 8 章輪読											
第4回 9 - 12 章輪読											
第5回 13 - 16 章輪読											
第6回 17 - 20 章輪読											
第7回 21 - 24 章輪読											
第8回 25 - 28 章輪読											
第9回 29 - 32 章輪読											
第10回 33 - 36 章輪読											
第11回 37 - 40 章輪読											
第12回 41 - 44 章輪読											
第13回 45 - 48 章輪読											
第14回 残りの輪読											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点70点+学期末レポート30点として評価する。
平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。
レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析しているか、といった点を評価する。

[教科書]

Vladimir Nabokov 『Glory』 (Penguin 2006) ISBN:ISBN-10 : 0141188510

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

一回の授業で3、4章ぶんの輪読をします。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉田 恭子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Reading Like a Writer									
【授業の概要・目的】											
この講義ではアメリカの小説家Francine Proseによる小説読書・創作論Reading Like a Writer: A Guide for People Who Love Books and for Those Who Want to Write Them (Harper Collins, 2006)を講読し、小説の精読技法と創作技法の関係性について考察する。「作家のように読む」ことは特別な技術なのか?それによって読者はどのような洞察が得られるのか考えたい。											
【到達目標】											
(1)一般読者向けの小説批評を英語で読み理解できる。 (2)小説の基本的な諸要素の機能を理解し、実際の作品分析に応用できるようになる。 (3)精読プロセスと創作プロセスの関係性について考察を試みる。											
【授業計画と内容】											
第1回 「作家のように読む」とは?精読と創作技法 第2回 One: Close Reading 第3回 Two: Words 第4回 Three: Sentences (1) 第5回 Three: Sentences (2) 第6回 Four: Paragraphs 第7回 Five: Narration 第8回 Six: Character 第9回 Seven: Dialogue (1) 第10回 Seven: Dialogue (2) 第11回 Eight: Details 第12回 Nine: Gesture 第13回 Ten: Learning from Chekhov 第14回 Eleven: Reading for Courage 第15回 期末レポートフィードバック・ふりかえり											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の(1)~(3)の達成度について、授業参加20%、発表20%、期末レポート60%で評価する。発表とレポートの詳細については授業で説明する。											
【教科書】											
Francine Prose 『Reading Like a Writer: A Guide for People Who Love Books and for Those Who Want to Write Them』 (Harper Collins, 2006) ISBN:9780060777050											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

初回授業で説明する

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 木島 菜菜子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『オリバー・ツイスト』を読む(前半)									
【授業の概要・目的】											
『オリバー・ツイスト』は、ディケンズの作品の中でも、映画化や新訳の出版などで日本でもよく知られている作品である。本講義では、作品執筆の背景などを考慮にいれながらテクストを丁寧に読み解き、作品の読みどころについて考えることを目的とする。											
【到達目標】											
文学作品の読解は、文法的または表面的なものだけでは不十分で、社会状況、文学伝統、作者の韜晦などを考慮にいれながら行わなければならない。本講義の到達目標は、『オリバー・ツイスト』を例にこのような読みを試みることで、基本的かつ応用のきく作品読解の力を養うことである。											
【授業計画と内容】											
第1回 題目:イントロダクション 授業の進め方の説明 Charles Dickensについて											
第2回 題目:Dickensの作品群 生涯にわたって書かれた作品群の概説と評価の変遷											
第3回 題目:Book 1 Chapter 1 作品の書き出しと執筆の背景、副題'The Parish Boy's Progress'について											
第4回 題目:Book 1 Chapter 2 作品の時代、作品のIllustrationについて											
第5回 題目:Book 1 Chapter 3~5											
第6回 題目:Book 1 Chapter 6~8											
第7回 題目:Book 1 Chapter 9~11											
第8回 題目:Book 1 Chapter 12~14											
第9回 題目:Book 1 Chapter 15~17											
第10回 題目:Book 1 Chapter 18~20											
第11回 題目:Book 1 Chapter 21~22 Book 1のまとめ											
第12回 題目:Book 2 Chapter 1~3											
第13回 題目:Book 2 Chapter 4~6											
第14回 題目:Book 2 Chapter 7~9											
第15回 題目:Book 2 Chapter 10~11 前期で読んだところまでのまとめ											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。

【成績評価の方法・観点】

平常点（各回のコメントペーパー）：40%
期末レポート：60%

【教科書】

Charles Dickens 『Oliver Twist』（Penguin, 2003）ISBN:978-0-141-43974-7（Edited by Philip Horne）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

あらかじめ授業で進む範囲に目を通しておいてください。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 木島 菜菜子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『オリバー・ツイスト』を読む(後半)									
【授業の概要・目的】											
『オリバー・ツイスト』は、ディケンズの作品の中でも、映画化や新訳の出版などで日本でもよく知られている作品である。本講義では、作品執筆の背景などを考慮にいれながらテクストを丁寧に読み解き、作品の読みどころについて考えることを目的とする。											
【到達目標】											
文学作品の読解は、文法的または表面的なものだけでは不十分で、社会状況、文学伝統、作者の韜晦などを考慮にいれながら行わなければならない。本講義の到達目標は、『オリバー・ツイスト』を例にこのような読みを試みることで、基本的かつ応用のきく作品読解の力を養うことである。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 題目:Book 1とBook 2 Chapter 11までの総括 作品のこれまでの読みどころについて、総括的に考察する。</p> <p>第2回 題目:Dickensの時代 19世紀イギリスの社会背景を講義する。</p> <p>第3回 題目:Book 2 Chapter 12~14 Book 2のまとめ</p> <p>第4回 題目:Book 3 Chapter 1~3</p> <p>第5回 題目:Book 3 Chapter 4~6</p> <p>第6回 題目:Book 3 Chapter 7~9</p> <p>第7回 題目:Book 3 Chapter 10~12</p> <p>第8回 題目:Book 3 Chapter 13~15</p> <p>第9回 題目:Book 3のまとめ、 Book 1 Chapter 17 "streaky, well-cured bacon"について</p> <p>第10回 題目:ディケンズと都市</p> <p>第11回 題目:ディケンズと犯罪</p> <p>第12回 題目:先行する作品論の検証(1)</p> <p>第13回 題目:先行する作品論の検証(2)</p> <p>第14回 題目:先行する作品論の検証(3)</p> <p>第15回 題目:フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：40%
期末レポート：60%

[教科書]

Charles Dickens 『Oliver Twist』（Penguin, 2003）ISBN:978-0-141-43974-7（Edited by Philip Horne）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

あらかじめ授業で進む範囲に目を通しておいてください。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Karin L. Swanson			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Elementary Academic Writing in the Humanities									
【授業の概要・目的】											
This course is designed to assist students who wish to refine their English writing skills, particularly those skills needed to compose advanced-level academic papers and to create polished essays such as those characteristic of literary criticism.											
【到達目標】											
This class's primary goal is improvement of skills related to academic writing. At the completion of the class, students who have successfully understood, practiced and mastered these skills will be able to formulate and organize their ideas for an essay, work through successive drafts or versions of the essay, engage in self- and peer-editing, and to revise their writing through these stages.											
【授業計画と内容】											
Each meeting of the class will be a continuation of the previous one, meaning that regular attendance is necessary in order not to fall behind.											
There will be weekly homework which will be checked at the beginning of the class, sometimes being from the textbook and other times being editing of students' writing.											
In some cases, this will be followed by instruction in rhetorical language or grammar related to specific types of essay writing.											
The semester will be almost equally divided into three study units: moving from paragraph to short essay writing, descriptive essays, and finally narrative essays.											
Week 1 - Introduction to the class, Goals of Academic Writing, textbook overview, begin Unit 1 - moving from paragraph to short essay.											
Week 2 - Focus on topic sentences, simple and compound sentences, paragraph structure.											
Week 3 - Focus on use of dependent clauses, controlling ideas and avoiding run-on sentences.											
Week 4 - Focus on developing unity and coherence, supporting sentences and patterns of organization.											
Week 5 - Organization of a short essay, thesis statements, body paragraphs and conclusion.											
Week 6 - Begin Unit 2 - Descriptive Essays - Discussion of essay organization, freewriting exercise.											
Week 7 - Use of idea bubbles (or word webs) to make an outline.											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

Week 8 - Use of details and similes in descriptive essays, adjective order, writing a first draft.

Week 9 - Peer editing the first draft, editing and re-writing the descriptive essay, writing a second draft.

Week 10 - Descriptive Essay timed writing exercise on a theme assigned by the instructor.

Week 11 - Begin Unit 3 - Narrative Essays - reading and discussion of examples of a short narrative essay, freewriting exercise, brainstorming ideas and vocabulary for a narrative essay.

Week 12 - More examples of short narrative essays, outlining your own essay, focus on sequence markers, subordinating conjunctions.

Week 13 - Adding details, writing a first draft, peer editing, use of past continuous verbs.

Week 14 - Editing the first draft, incorporation of peer editing comments and re-writing a second draft.

Week 15 - Narrative Essay timed writing exercise on a theme given by the instructor.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

There are no examinations as this is a writing class.

Evaluation will be decided in the following way:

Attendance 26% (2% per class with two allowed absences. Bonus points awarded for perfect attendance)

Homework in the textbook 26%

Completed essays 48%

【教科書】

A. Savage & P. Mayer 『Effective Academic Writing 2: The Short Essay (second edition)』 (Oxford University Press) ISBN:ISBN 978-0-19-432347-5 (Textbook is required)

Students should bring the textbook to the first class as we will begin it from that first session.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Weekly homework will be assigned and checked for completion the following week.

英語学英米文学(特殊講義)(3)へ続く

英語学英米文学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Karin L. Swanson			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Advanced Academic Writing in the Humanities									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is designed to assist students who wish to further refine their English writing skills, particularly those skills needed to compose advanced-level academic papers and to create polished essays such as those characteristic of literary criticism.</p>											
【到達目標】											
<p>The class`s primary goal remains, as in the first semester, an improvement of skills related to academic writing.</p> <p>Building on the foundation built during the spring term, students will continue to structure, compose and refine essays from conceptual to finished stages.</p> <p>At the completion of the course, students will have increased the varieties of essays they have written, which will give them not only expertise, but confidence to go on to longer essays. They will be able to more independently formulate longer essays from start to completion, and will have increased their critical thinking.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Each meeting of the class will be a continuation of the previous week`s, making regular attendance necessary in order not to fall behind.</p> <p>There will be weekly homework, which will be checked at the beginning of the class, sometimes being from the textbook, other times editing of students` writing.</p> <p>In some cases, this will be followed by introduction of rhetorical language or grammar presentations related to specific types of essays.</p> <p>The class will be divided into three study units, focusing on three types of essays: Opinion, Compare and Contrast, and Cause and Effect.</p> <p>Week 1 - Introduction for new students, begin Unit 4 - Compare and Contrast Essays, reading an example and discussion of topic, freewriting exercise.</p> <p>Week 2 - Brainstorming ideas and relevant vocabulary for a compare and contrast essay, identifying audience and purpose , use of a Venn diagram as an outlining tool, writing an outline.</p> <p>Week 3 - Reading examples of compare and contrast essays, examining the structure focusing on connectors in sentences, writing a first draft and peer editing.</p>											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

Week 4 - Use of comparative adjectives, adverbs, nouns and their use, editing the first draft and re-writing a second draft.

Week 5 - Review of key language and grammar points of unit 4, compare and contrast essay timed writing exercise on a theme given by the instructor.

Week 6 - Begin Unit 5 - Opinion Essays - Reading and discussion of an opinion essay example, freewriting exercise.

Week 7 - Brainstorming ideas, vocabulary and identifying audience and purpose of the essay, essay organization, structure and writing the outline, reading two more short examples.

Week 8 - Using facts to support an opinion, differentiating facts from opinions, recognizing counter-arguments, and refutations, writing a first draft and peer editing.

Week 9 - Using quantity expressions effectively in support of your opinion, connectors showing support and opposition, self-editing the first draft and re-writing.

Week 10 - Review of key language and grammar points of Unit 5, opinion essay timed writing on a theme given by the instructor.

Week 11 - Begin Unit 6 - Cause and Effect Essays - Reading an example, discussing a cause and effect situation, brainstorming ideas and appropriate vocabulary, identifying audience and purpose, freewriting exercise.

Week 12 - Cause and effect organization, an effective example, skillful use of examples to support ideas , writing an outline for the essay.

Week 13 - Examining the organization of a well-done cause and effect essay, using phrasal verbs, writing and peer editing a first draft, review of future tense verbs used in cause and effect essays.

Week 14 - Use of conditionals, editing the first draft and re-writing, review of focus language and grammar points of unit 6.

Week 15 - Cause and effect essay timed writing exercise on a theme given by the instructor.

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

There are no examinations for this writing class.

Evaluation will be determined as follows:

Attendance 26% (2% per class with two absences allowable. Bonus points awarded for perfect attendance.)

Homework in the textbook 26%

Completed Essays 48%

英語学英米文学(特殊講義)(3)へ続く

英語学英米文学(特殊講義)(3)

[教科書]

A. Savage & P. Mayer 『Effective Academic Writing 2: The Short Essay (second edition)』 (Oxford University Press) ISBN:ISBN 978-0-19-432347-5 (Textbook is required)

Students should bring the textbook to the first class as well as always bringing a dictionary to be used when writing.

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Weekly homework will be assigned and checked for completion.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学（特殊講義） English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 南谷 奉良			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		痛み から読む英文学									
【授業の概要・目的】											
<p>情動論や感情史研究の興隆とともに近年注目されている、人文学からアプローチする主観的な情動体験としての「痛み」を中心に、英文学のテキストを再考する。「痛み」は誰の生にもありふれた、しかし言語化や数値化、共有が困難な事象である。本講義では19世紀から20世紀中盤の時間軸に書かれた、動物/女性/子供の痛みを含む物語作品やエッセイを読み、実際に人間や動物が体験している 生きている痛み を歴史と文化の中から発見しながら、「痛みと文学」の関係性を考察し、言葉の力あるいはその無力さに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>「痛み」という経験・事象は歴史的にどのように生きられ、与えられ、耐えられ、どのように理解・表現されてきたのか。「痛み」にはどのような種類があり、人間や動物が生きる上でどのような意味と役割を有しているのか。こうした問題意識を念頭に、本講義では文学テキストの読解を通じて、様々な諸力とイデオロギーによって隠され、存在を消されてしまうこともある「痛み」を発見できる観察眼を磨くに加えて、その痛みを文化的に、歴史的に考察できるようになることを目的とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 人文学における痛み論の展開 第3回 文学と痛みについて－文献紹介・ディスカッション 第4回 Anna Sewell, Black Beauty: The Autobiography of a Horse 第5回 Margaret Marshall Saunders, Beautiful Joe: A Dog's Own Story 第6回 George Orwell, "Shooting an Elephant" 第7回 Ernest Hemingway, "An African Story" 第8回 Ernest Hemingway, " Indian Camp " 第9回 Samuel Warren, " Cancer " 第10回 Virginia Woolf, "On Being Ill" 第11回 James Joyce, "An Encounter" 第12回 James Joyce, A Portrait of the Artist as a Young Man 第13回 James Joyce, A Portrait of the Artist as a Young Man 第14回 George Orwell, Such, Such Were the Joys 第15回 まとめ+質疑応答</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英米文学（特殊講義）(2)へ続く -----											

英語学英米文学（特殊講義）(2)

[成績評価の方法・観点]

リアクションペーパーと授業参加度（30%）+ レポート（70%）で総合的に評価する。

[教科書]

テキストはPandAにアップする。「痛み」を描いた章や該当部分を事前に読んでおくこと。

[参考書等]

（参考書）

デイヴィッド・B・モリス 『痛みの文化史』（紀伊國屋書店、1998年）

伊東剛史, 後藤はる美（編著） 『痛みと感情のイギリス史』（東京外国語大学出版会、2017年）

特集 『痛むカラダ 当事者研究最前線』（現代思想2011年8月号、青土社、2011年）

E.ヘミングウェイ、W.S.モームほか 『病短編小説集』（石塚久郎監訳、平凡社、2016年）

W.C.ウィリアムズ、F.S. フィッツジェラルドほか 『医療短編小説集』（石塚久郎監訳、平凡社、2020年）

Elaine Scarry 『The Body in Pain: The Making and Unmaking of the World』（Oxford UP, 1985）

David Biro 『Listening to Pain: Finding Words, Compassion, and Relief』（W. W. Norton, 2011）

Joanna Bourke 『The Story of Pain: From Prayer to Painkillers』（Oxford UP, 2014）

[授業外学修（予習・復習）等]

レポートの課題は「痛みと文学」を予定し、履修者の関心に応じた論を立ててもらうため、あらかじめ身の回りに存在する「痛み」に関心を持ち、文献の収集を行なっておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系182

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 越智 博美			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		John Dos Passos, U.S.A. を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>作品解釈能力と英語読解力を向上すべく、John Dos PassosのU.S.A.三部作および関連文献の講読を行う。Dos Passosは42nd Parallel(1930), 1919(1932), Big Money(1936)の三作を1937年にU.S.A.というタイトルをつけ、最初と最後に文章を足してひとまとめにして出したが、このことによりこの3つの作品はどのような意味を持つことになるのだろうか。また一般に本作は実験的手法の組み合わせだった作品よしても知られているが、最終的にそれをどう考えるとよいだろうか。みなさんとともにこの作品を読みながら考えてみたいと思います。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 与えられた作品を精確に読み、作家独自の視点や表現を味わうとともに、アメリカ小説の語法に関する知識を広げる。 2. 1930年代の小説の大まかな流れを理解しながら作品を位置づける。 3. 小説の背景をなすアメリカ合衆国の歴史をある程度理解しながら作品と社会の交渉の過程を考察する。 4. 最終試験（教室内でのエッセイ作成）では、作品の要諦を説明し、みずからの解釈を論理的に表現する方法を実践的に学ぶ。 											
【授業計画と内容】											
<p>1日目(1～4回)：作家と作品の背景, 文学史について、42nd Parallelの導入部について 2日目(5～7回)：42nd Parallel, 1919 3日目(8～11回)：1919m The Big Money 4日目(12-15回)：The Big Money, 最終筆記試験, みなさんの見解の発表とフィードバック。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>ディスカッションへの参加 30% 発表時のパフォーマンス 40% 最終筆記試験 30%</p>											
----- 英語学英米文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(特殊講義)(2)

[教科書]

Dos Passos, John 『U.S.A.』 (The Library of America) ISBN:978-1-883011-14-7

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

初回授業までに、不明な単語を調べるなど、できるだけ内容を把握しておいてください。第一回は冒頭のU.S.A.の文章、および最初のNewsreelを読んでいくこととなります。そのあと、最初の物語章、最初のカメラ・アイ、最初の伝記章などはすべて読んでいきます。テキストを手にとっていただけではわかりませんが、15時間の授業で読み通すのは不可能ですから、部分的に取りあげながらということになるかと思えます。そうであっても実際に読んでみる経験そのものがとても大切です。のちほど特に取りあげる場所などを指定しますので、そこを注意して読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

hiromy@ka2.so-net.ne.jpまでメールにてご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 6M191 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(特殊講義) English and American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語のwriting systemとその歴史									
[授業の概要・目的]											
Vivian Cook & Des Ryan (編) のThe Routledge Handbook of the English Writing Systemに収録された論考を読みながら、英語の綴り字やパンクチュエーション等のwriting system全般について、その歴史や現在の姿を学びます。											
[到達目標]											
英語の綴り字やパンクチュエーションが確立するまでにどのような歴史があったかを学び、これを踏まえて現代英語における様々なヴァリエーションへの理解を深めることを目標とします。											
[授業計画と内容]											
授業計画と内容 1回目 イントロダクション 2回目～15回目 以下の作業の組み合わせによって進めていきます。 ・指定した教科書の講読 ・参考図書、関連する論文の講読 ・テーマごとに1名以上からなるグループによるプレゼンテーション											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
プレゼンテーションおよび授業への貢献度(70%)、簡易なレポート(30%)によって評価を行います。											
[教科書]											
Vivian Cook & Des Ryan (編) のThe Routledge Handbook of the English Writing Systemは、図書館のものを使用します。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
(関連URL)											
https://iyeyri.com/ (このURLを定期的にチェックしてください。)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
プレゼンテーションは集中講義期間内に、レポートは授業終了後に提出することになります。プレゼンテーションの準備を短時間で行うことが必要になりますので、期間中はできるだけ集中して授業の準備をする時間を確保するようにしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
必要な場合は、 https://iyeyri.com/contact からご連絡ください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系184

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学（演習） English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 佐々木 徹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		"The Life of Samuel Johnson" 精読									
【授業の概要・目的】											
この授業の目的は文学テキストの精密な読解能力を高めることにある。辞書を丁寧に引き、原文の一字一句も疎かにしない姿勢と共に、作品の背後にある社会に対しても理解を深めようとする態度を培う。											
【到達目標】											
難解な作品を精読することにより、文学研究の基礎力を高める。											
【授業計画と内容】											
ボズウェルの長大な『ジョンソン伝』はイギリス伝記文学の最高峰である。この縮約版を前期・後期で通読する。それでも1回の授業で相当な分量を読みこなすことが必要になってくる。慣れるまでは毎回3ページ程度のペースで進み、これを2回ほど行った後は、1回の授業でカバーする分量を10ページ程度に増やす。その際授業時間内で精読するのはやはり3ページほどで、残りのページについては質問を受け、適宜解説を加える。											
Class 1 pp. 1-3. Class 2 pp. 4-6. Class 3 pp. 7-12 Class 4 pp. 13-17. Class 5 pp. 18-27. Class 6 pp. 28-37. Class 7 pp. 38-47. Class 8 pp. 48-57 Class 9 pp. 58-67 Class 10 pp. 68-77 Class 11 pp. 78-87 Class 12 pp. 88-97 Class 13 pp. 98-107 Class 14 pp. 108-117 Class 15 フィードバック （研究室で授業関連の質問に答える）											
【履修要件】											
後期の英語学英米文学（演習）と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
----- 英語学英米文学（演習）(2)へ続く -----											

英語学英米文学（演習）(2)

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点で評価する。

【教科書】

James Boswell 『The Life of Samuel Johnson』（Penguin）ISBN:978-0140436624

授業には初回に配布するJohn Garrettの編集した縮約版を使用する。

各自、予習には詳しい注釈がついているペンギン版を用いること。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の目的はあくまでも精読であるから、毎回の授業のためには徹底的に辞書を引く、入念な予習が必要である。また、授業時間中に扱えない箇所については各自で読み進めることが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは月曜 14:15～15:15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系185

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学（演習） English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 佐々木 徹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		"The Life of Samuel Johnson" 精読									
【授業の概要・目的】											
この授業の目的は文学テキストの精密な読解能力を高めることにある。辞書を丁寧に引き、原文の一字一句も疎かにしない姿勢と共に、作品の背後にある社会に関しても理解を深めようとする態度を培う。											
【到達目標】											
難解な作品を精読することにより、文学研究の基礎力を高める。											
【授業計画と内容】											
[ジョンソン伝]を前期・後期で通読する。1回の授業でカバーする分量は10-15ページ程度。その際授業時間内で精読するの3ページほどで、残りのページについては質問を受け、適宜解説を加える。											
Class 1 pp. 118-37. Class 2 pp. 138-56. Class 3 pp. 157-67. Class 4 pp. 168-75. Class 5 pp. 176-95. Class 6 pp. 196-205. Class 7 pp. 206-225. Class 8 pp. 226-74. Class 9 pp. 275-93. Class 10 pp. 294-315. Class 11 pp. 316-30 Class 12 pp. 331-42 Class 13 pp. 343-51 Class 14 pp. 352-62 Class 15 フィードバック （研究室で授業関連の質問に答える）											
【履修要件】											
後期の英語学英米文学（演習）と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点で評価する。											
【教科書】											
James Boswell 『The Life of Samuel Johnson』（Penguin）ISBN: 978-0140436624 授業には初回に配布するJohn Garrettの編集した縮約版を使用する。											
----- 英語学英米文学（演習）(2)へ続く -----											

英語学英米文学（演習）(2)

各自、予習には詳しい注釈がついているペンギン版を用いること。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の目的はあくまでも精読であるから、毎回の授業のためには徹底的に辞書を引く、入念な予習が必要である。また、授業時間中に扱えない箇所については各自で読み進めることが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは月曜 14:15 ~ 15:15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		英語史研究の方法									
【授業の概要・目的】											
具体的な研究を通じて、英語史研究の方法を学びます。また、授業を通して、資料収集の方法、データ整理の方法、論文の作成方法など、研究に必要な手法を習得します。											
【到達目標】											
研究論文の多読を通じて、英語史全般についての体系的な知識を身につけます。同時に、その知識を自らの研究テーマを発展させるために多面的に利用する力を身につけます。											
【授業計画と内容】											
1回目 イン트로ダクション											
2回目～15回目 授業は、以下のような作業の組み合わせにより行います。 ・参考図書として指定したEnglish Historical Semanticsを講読し、近年の研究動向に触れる。 ・実際に学術雑誌に公刊された研究論文を読み、その問題点を指摘するとともに、学術的にどのような貢献がなされているかを議論する。(否定的な批判をするだけでなく、自分が同じテーマで論文を書く場合を想定した建設的な議論を行う。) ・参考図書や論文の中で取り上げられたテーマの中からトピックを選び、ミニリサーチを行う。 ・それぞれの研究テーマにしたがって、研究計画を作成し、その計画に沿って研究を進める。											
【履修要件】											
最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。出席できない場合は、事前に連絡を取ってください。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)により総合的に評価します。											
【教科書】											
Christian Kay and Kathryn Allan 『English Historical Semantics』 (Edinburgh University Press) ISBN: 0748644776											
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に指定された資料や論文を読み議論を行う際には、予習を行って議論に参加できるようにしておいてください。詳細は、授業中に指示します。

(その他(オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		英語史研究の方法									
【授業の概要・目的】											
具体的な研究を通じて、英語史研究の方法を学びます。また、授業を通して、資料収集の方法、データ整理の方法、論文の作成方法など、研究に必要な手法を習得します。											
【到達目標】											
研究論文の多読を通じて、英語史全般についての体系的な知識を身につけます。同時に、その知識を自らの研究テーマを発展させるために多面的に利用する力を身につけます。											
【授業計画と内容】											
1回目 イン트로ダクション											
2回目～15回目 授業は、以下のような作業の組み合わせにより行います。 ・参考図書として指定したEnglish Historical Semanticsを講読し、近年の研究動向に触れる。 ・実際に学術雑誌に公刊された研究論文を読み、その問題点を指摘するとともに、学術的にどのような貢献がなされているかを議論する。(否定的な批判をするだけでなく、自分が同じテーマで論文を書く場合を想定した建設的な議論を行う。) ・参考図書や論文の中で取り上げられたテーマの中からトピックを選び、ミニリサーチを行う。 ・それぞれの研究テーマにしたがって、研究計画を作成し、その計画に沿って研究を進める。											
【履修要件】											
最初の授業でガイダンスを行いますので、受講者は必ず出席するようにしてください。出席できない場合は、事前に連絡を取ってください。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への貢献度(70%)およびレポート(30%)により総合的に評価します。											
【教科書】											
Christian Kay and Kathryn Allan 『English Historical Semantics』 (Edinburgh University Press) ISBN: 0748644776 The Oxford Handbook of Lexicographyは、図書館のものを利用します。詳細は授業中に指示します。											
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に指定された資料や論文を読み議論を行う際には、予習を行って議論に参加できるようにしておいてください。詳細は、授業中に指示します。

(その他(オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		The Rape of Lucrece演習1									
【授業の概要・目的】											
William Shakespeare, The Rape of Lucreceの精読を通じて、この作家の文体、語彙に関する基本的な知識を習得し、その内容について考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ Oxford English Dictionary等の辞書の使い方を身につけ、これらを参照しながら、初期近代イギリス詩のテキストを自力で読めるようになる。 ・ 初期近代イギリス文学に関する基本的知識を身につけ、自ら論文のテーマを見つけられるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクション 作者ならびに作品についての解説と、時代背景の概説を行い、併せて、今後の演習の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 テクストの精読 各受講者に予め担当を割り振る方式によって、テキストを精読し、内容について討論する。</p> <p>場面毎の難易度の違いによって、また、受講者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、概ね一人あたり100行を目途に担当してもらう。</p> <p>一学期の授業で読み終わらない場合は後期に継続する。学期中に終了した場合は、受講者と相談の上、次に読む作品を決める。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点（担当箇所の解釈50%、テキスト全体の理解度50%）にて評価する。											
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(演習)(2)

[教科書]

William Shakespeare 『Shakespeare's Poems』 (Bloomsbury, 2007) ISBN:978-1903436875 (Arden Shakespeare Third Series)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

予めOxford English Dictionary等の辞書を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。授業後は作品中での当該箇所の意味について考察をすること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		The Rape of Lucrece演習2									
【授業の概要・目的】											
前期の演習1に引き続き、William Shakespeare, The Rape of Lucreceの精読を通じて、この作家の文体、語彙に関する基本的な知識を習得し、その内容について考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ Oxford English Dictionary等の辞書の使い方を身につけ、これらを参照しながら、初期近代イギリス詩のテキストを自力で読めるようになる。 ・ 初期近代イギリス文学に関する基本的知識を身につけ、自ら論文のテーマを見つけられるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1-15回 テキストの精読</p> <p>各受講者に予め担当を割り振る方式によって、テキストを精読し、内容について討論する。前期終了箇所から読み始める。その後扱う作品については受講者と相談の上 決定する。場面毎の難易度の違いによって、また、受講者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、概ね一人あたり100行を目途に担当してもらう。学期中にこの詩を読み終えた場合は、受講者と相談の上関連文献等の講読を行う。</p>											
【履修要件】											
前期の演習1からの継続受講を原則とする。後期からの受講を希望する者は初回に担当者に申し出ること。											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点（担当箇所の解釈50%、テキスト全体の理解度50%）にて評価する。											
【教科書】											
William Shakespeare 『Shakespeare's Poems』 (Bloomsbury, 2007) ISBN:978-1903436875 (Arden Shakespeare Third Series)											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 英語学英米文学(演習)(2)へ続く -----											

英語学英米文学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予めOxford English Dictionary等の辞書を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。授業後は作品中での当該箇所の意味について考察をすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系190

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Martin Edenを読む1									
[授業の概要・目的]											
Jack LondonのMartin Edenを精読する。筋立てとしては、作者自身の人生を彷彿とさせる半自伝的な作品だが、書き方にクセがある。本作は、Londonの代表作としては三番目ぐらいに挙げられるものではあるが、London本人のこともわかるし、彼の文章の傾向もわかる。アメリカ自然主義文学を代表するLondonという作家を理解するにはうってつけの作品。前期・後期で完読を目指す。											
[到達目標]											
アメリカ文学における主要作品を自分なりに解釈する勇気と胆力を養う。											
[授業計画と内容]											
本授業は受講者による発表・ディスカッションが主体となる。 第1回 イン트로ダクション 第2回から第15回 受講者による発表・ディスカッション											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
発表(60%)およびディスカッションでの貢献(40%)によって評価する。											
[教科書]											
London, Jack 『Martin Eden』 (Penguin Classics) ISBN:0140187723											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
本作のアノテーションを作成するぐらいの意気込みで調べてくること。 (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系191

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Martin Edenを読む2									
[授業の概要・目的]											
<p>Jack LondonのMartin Edenを精読する。筋立てとしては、作者自身の人生を彷彿とさせる半自伝的な作品だが、書き方にクセがある。本作は、Londonの代表作としては三番目ぐらいに挙げられるものではあるが、London本人のこともわかるし、彼の文章の傾向もわかる。アメリカ自然主義文学を代表するLondonという作家を理解するにはうってつけの作品。 * 後期から参加する場合は、事前に相談してください。</p>											
[到達目標]											
アメリカ文学における主要作品を自分なりに解釈する勇気と胆力を養う。											
[授業計画と内容]											
<p>本授業は受講者による発表・ディスカッションが主体となる。 第1回 イン트로ダクション（前期の復習） 第2回から第15回 受講者による発表・ディスカッション</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
発表（60％）およびディスカッションでの貢献（40％）によって評価する。											
[教科書]											
London, Jack 『Martin Eden』 (Penguin Classics) ISBN:0140187723											
[参考書等]											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
本作のアノテーションを作成するぐらいの意気込みで調べてくること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系192

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Henry James, The Wings of the Doveを読む(1)									
[授業の概要・目的]											
Henry Jamesのキャリア後期の代表作The Wings of the Dove (1902)を読む。難解な大部の小説の読解に取り組むことで、文学研究の地力を養う。											
[到達目標]											
文学テキスト読解の精度を高めること。細部をおろそかにせず小説を丁寧に読む姿勢を養うこと。一方で、難解な小説もある程度のスピードで読みこなす力をつけること。											
[授業計画と内容]											
<p>授業では精読(訳読)と発表形式を併用する。初めの数回は丁寧な訳読、慣れてきたところで担当者による発表も組み合わせて進度を上げる予定。発表当番はその回に読み進む範囲の内容や問題点等をまとめ、それをもとに参加者全員で議論することで作品理解を深める。</p> <p>授業スケジュールは以下のとおり。</p> <p>第1週：イントロダクション</p> <p>第2～14週：テキスト講読</p> <p>第15週：まとめとフィードバック</p> <p>前期は作品前半の200ページほどを読み進む予定。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
上記の到達目標の達成度に基づき、平常点(70%)と学期末の英語レポート(30%)で評価する。											
[教科書]											
Henry James 『The Wings of the Dove』(Penguin) ISBN:978-0141441283											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は必須。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系193

科目ナンバリング		G-LET20 7M193 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英米文学(演習) English and American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Henry James, The Wings of the Doveを読む(2)									
[授業の概要・目的]											
Henry Jamesのキャリア後期の代表作The Wings of the Dove (1902)を読む。難解な大部の小説の読解に取り組むことで、文学研究の地力を養う。											
[到達目標]											
文学テキスト読解の精度を高めること。細部をおろそかにせず小説を丁寧に読む姿勢を養うこと。一方で、難解な小説もある程度のスピードで読みこなす力をつけること。											
[授業計画と内容]											
<p>授業では精読(訳読)と発表形式を併用する。初めの数回は丁寧な訳読、慣れてきたところで担当者による発表も組み合わせて進度を上げる予定。発表当番はその回に読み進む範囲の内容や問題点等をまとめ、それをもとに参加者全員で議論することで作品理解を深める。</p> <p>授業スケジュールは以下のとおり。</p> <p>第1週：イントロダクション</p> <p>第2～14週：テキスト講読</p> <p>第15週：まとめとフィードバック</p> <p>前期は作品後半の300ページほどを読み進む予定。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
上記の到達目標の達成度に基づき、平常点(70%)と学期末の英語レポート(30%)で評価する。											
[教科書]											
Henry James 『The Wings of the Dove』(Penguin) ISBN:978-0141441283											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は必須。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系194

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		コルネイユの政治悲劇を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>古代に起源を持つジャンルである悲劇は、フランスにおいては16世紀の人文主義者たちによって復活し、コルネイユ (Pierre Corneille, 1606-1684) に代表される17世紀の劇作家によって近代劇として完成される。特に古代ローマの歴史に題材をもとめたコルネイユが1640年以降に発表した一連の「ローマ悲劇」によって17世紀悲劇の大きな流れ 政治的論理と私的論理との葛藤、権力をめぐる抗争劇 が決定されたといえる。</p> <p>この授業ではコルネイユの「ローマ悲劇」の特質について、同時代のフランスの政治状況との関係をも視野に入れて考察する。</p>											
【到達目標】											
フランス17世紀悲劇の特質とその成立の背景を理解する。フランス17世紀の政治的状況と演劇作品との関連性や影響関係を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のようなプランで授業を進める予定である。</p> <p>第1週 イン트로ダクション フランス17世紀の社会と演劇 第2週 コルネイユとリシュリュー 第3週 悲劇の題材としての「ローマ史」 第4～第8週 コルネイユの「ローマ悲劇」 第9～第13週 「フロンドの乱」と悲劇 - 『ニコメード』を中心に 第14週 まとめ コルネイユの「ローマ悲劇」の特質 第15週 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業での発表 (20%) および期末レポート (80%)											
【教科書】											
プリント等を配布する											
【参考書等】											
(参考書)											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系195

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	フランス語
題目		Les liaisons dangereuses (1782) : roman épistolaire et libertinage									
[授業の概要・目的]											
<p>Nous étudierons au cours de ce semestre un grand classique de la littérature française du XVIIIe siècle, Les Liaisons dangereuses. Quand ce roman épistolaire paraît en 1782 sous les seules initiales de Choderlos de Laclos, le succès et le scandale sont immédiats. Le roman met en scène la rivalité de deux grands libertins, le vicomte de Valmont et la marquise de Merteuil, et repose sur une construction narrative très élaborée. La fragmentation de la correspondance fait disparaître toute narration linéaire, la forme polyphonique mêle les voix des différents correspondants.</p>											
[到達目標]											
<p>Ce cours permettra aux étudiants de se familiariser avec un texte majeur, tout en enrichissant leur connaissance de la littérature, de la pensée et de la culture françaises du XVIIIe siècle. Il leur donnera également l'occasion de s'initier à différentes méthodes d'analyse et de critique littéraires.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>Après une introduction générale visant à cerner les grands enjeux du roman et à les contextualiser historiquement (séances 1-6), nous procéderons à des commentaires de texte et à une réflexion sur les adaptations cinématographiques de l'oeuvre (séances 7-14). La dernière séance sera dédiée à un moment d'échange (feedback, semaine 15).</p>											
[履修要件]											
<p>Ce cours est ouvert à tous les étudiants désireux d'approfondir leur connaissance de la culture française du XVIIIe siècle. Le cours sera dispensé intégralement en français.</p>											
[成績評価の方法・観点]											
<p>Les connaissances seront évaluées par le biais du contrôle continu (devoirs à la maison à rendre au milieu et à la fin du semestre). La note finale tiendra également compte de l'assiduité des étudiants et de leur participation au cours du semestre</p>											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
Les étudiants sont invités à lire les extraits de l'exemplier qui sont commentés en classe.											
(その他(オフィスアワー等))											
Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous.											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

文献文化学系196

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	フランス語
題目		Les fictions du regard étranger au XVIIIe siècle									
【授業の概要・目的】											
<p>Les voyages, réels ou imaginaires, constituent une dimension essentielle du XVIIIe siècle. La découverte des cultures étrangères donne aux écrivains l'occasion de réfléchir à leur propre société, et d'interroger le caractère relatif des points de vue, des normes ou des habitudes. Ce cours s'intéressera à un dispositif récurrent dans la littérature française du XVIIIe siècle : la fiction du regard étranger, qui permet de démystifier le champ politique, social ou religieux tout en échappant à la censure. Nous nous intéresserons plus particulièrement à deux romans épistolaires importants : Les Lettres persanes de Montesquieu (1721) et les Lettres d'une péruvienne de Mme de Graffigny (1747).</p>											
【到達目標】											
<p>Ce cours permettra aux étudiants d'enrichir leur connaissance de la littérature, de la pensée et de la culture françaises du XVIIIe siècle, tout en se familiarisant avec différentes méthodes d'analyse littéraire.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Après une introduction générale visant à cerner notre objet d'étude et à le contextualiser historiquement (séances 1-4), nous commenterons plus en détail les oeuvres de Montesquieu et de Graffigny (5-14). La semaine 15 sera dédiée à un moment d'échange (feedback)</p>											
【履修要件】											
<p>Ce cours est ouvert à tous les étudiants désireux d'approfondir leur connaissance de la culture française du XVIIIe siècle. Le cours sera dispensé intégralement en français.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Les connaissances seront évaluées par le biais du contrôle continu (devoirs à la maison à rendre au milieu et à la fin du semestre). La note finale tiendra également compte de l'assiduité des étudiants et de leur participation au cours du semestre.</p>											
【教科書】											
<p>使用しない Il est recommandé de lire les Lettres persanes (en version originale ou en traduction).</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

Les étudiants sont invités à lire à la maison les extraits de l'exemplier qui seront commentés en classe.

（その他（オフィスアワー等））

Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系197

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村上 祐二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		プルースト『ゲルマントのほう』を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>マルセル・プルーストの小説『失われた時を求めて』第3篇『ゲルマントのほう』第一部（1920年刊行）における、主人公によるフランス陸軍駐屯地ドンシエール滞在のエピソードを取り上げる。この場面では、物語の進展に並行して、知覚、睡眠、貴族、友愛、共食、風景、戦術などの多様な主題に関する考察が深められている。授業では、この場面をその生成過程に注目しながら精読することで、文学作品と社会・歴史との関係を考察する。</p>											
[到達目標]											
<p>文学作品を、草稿資料にさかのぼったうえで、複数の歴史的文脈にしたがって読み解くことにより、文学研究に必要な批判能力を身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>授業は以下のプランに即して進められる。 第1回～第2回 『ゲルマントのほう』の概要、ドンシエールの場面の生成過程を解説。 第3回～第14回 ドンシエールの場면을講読形式でフランス語原典により精読し、適宜プルーストの初期作品や書簡、草稿資料と照合しながら解説を加える。 第15回 総括。</p>											
[履修要件]											
フランス語文献を読む能力が必要とされる。											
[成績評価の方法・観点]											
<p>レポート（一回、100点満点、60点以上で合格） 到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては、高い点を与える。</p>											
[教科書]											
授業中にプリント等を配布する。											
[参考書等]											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業中に別途指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 森本 淳生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ステファヌ・マラルメ「詩と散文」I(2021)									
【授業の概要・目的】											
<p>今年度より、ステファヌ・マラルメの詩と散文を、今後数年間かけて一篇ずつ精読していきます。</p> <p>マラルメはフランス象徴主義の代表的な存在で、抒情的主体の表現を基本とするロマン主義の後を受けて、むしろ詩における発話主体の消滅や言語の非人称性にきわめて自覚的であった詩人でした。と同時に、『ディヴァガシオン』に収められた散文(「批評詩」)は、演劇やバレエ、見世物から穴掘りの労働者にいたるまで、同時代の社会事象に着目し、それを散文的な詩篇にまで高めたものとして知られています。詩・散文とも19世紀にとどまらず、20世紀に入ってから、ヴァレリーからサルトル、ブランショを経てデリダ、ランシエール、メイヤスと、現在にいたるまで大きな影響を与え続けています。</p> <p>詩篇についてはBertrand MarchalのLectures de Mallarméを参考書として精読します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語文法の諸項目に習熟し、それを実際の読解において使いこなせるようになる。 ・複雑な構文、豊富な語彙をもつ思想的テキストをある程度のスピードと正確さで読みこなせるようになる。 ・文章の細部の読解と全体的な理解とを有機的に結びつけ、立体的に読むことができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨN：授業の概要と進め方</p> <p>第2回 Salut：詩とマルシャルの註解を読む(以下同様)</p> <p>第3回 Apparition</p> <p>第4回 Les Fenêtres</p> <p>第5回 Las de l'amer repos...</p> <p>第6回 Dom du poème</p> <p>第7回 Ses purs ongles...</p> <p>第8回 Une dentelle s'abolit...</p> <p>第9回 中間まとめ</p> <p>第10-14回 Crise de vers</p> <p>第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
フランス語文法の概要を習得し一定の読解力を持っていること。											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 50%、期末試験 50%

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

担当者以外も必ず予習をして授業に臨んでください。「読み合わせ」の機会は外国語の読解力を獲得するうえできわめて重要です。予習をするなかで自分なりに問題点を洗い出し、「ひとりでも読んで・調べて分かること」「ひとりでは分からないこと」を自覚できるようになることは、狭義の文学研究でも広く役に立つはずです。

(その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET21 63631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学グローバル地域文化学部 伊藤 玄吾 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		フランス16世紀文学入門									
【授業の概要・目的】											
<p>フランスの16世紀は、中世から近代へと至る過程にあって、言語的・文学的にも宗教的・思想的にも極めて大きな変革を経験した時代である。著作家たちは、この時代特有の雑多にして豊潤、そして極めて柔軟なフランス語を縦横に駆使して、多彩で豊かな作品を数多く生み出した。本講義ではそうした作品群の中から代表的なテキストを抜粋し、原典を丁寧に読み解く練習を行うとともに、それらのテキストの含む言語史的・文学史的・宗教史的・思想史的問題を論じたい。世紀前半からは、国王フランソワ1世の姉マルグリット・ド・ナヴァールの作品およびその周辺の福音主義的傾向を持つ著作家たちの作品を、中期からはリヨンの詩人たちおよびプレイヤード派の詩人たちの作品を、そして世紀後半からは重要な日記や風刺作品、そしてバロック的な作風を持つデュ・バルタスの『聖週間』を扱う予定である。フランス文学史における16世紀文学の重要性を理解することはもちろん、より広いヨーロッパの同時代文学の文脈においてこれらの作品の持つ意義も考えたい。</p>											
【到達目標】											
<p>16世紀の代表的なフランス語作品についての知見を深め、その文学史的意義を理解するとともに、それを同時代の他のヨーロッパ文学と比較して考察することができるようになる。 現代フランス語とは異なる16世紀のフランス語の語彙と文法（とりわけ統語法）に関する基礎知識を習得するとともに、テキストをより正確に読み解く上で有用な各種参考文献の活用の仕方を学び、16世紀前期から末期までの異なる時期の、異なるジャンルの文献の読解に取り組むために必要な能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション：フランス16世紀文学を学ぶために 第2回 マルグリット・ド・ナヴァールとその周辺 1 第3回 マルグリット・ド・ナヴァールとその周辺 2 第4回 マルグリット・ド・ナヴァールとその周辺 3 第5回 リヨンの詩人たち（セーヴ、ラベ他）1 第6回 リヨンの詩人たち（セーヴ、ラベ他）2 第7回 プレイヤード派の詩人たち 1 第8回 プレイヤード派の詩人たち 2 第9回 プレイヤード派の詩人たち 3 第10回 16世紀の日記（ピエール・ド・レトワール『アンリ三世治下の日記』） 第11回 風刺と文学『サチール・メニッペ』 1 第12回 風刺と文学『サチール・メニッペ』 2 第13回 デュ・バルタス『聖週間』とバロック的世界 第14回 デュ・バルタス『聖週間』とバロック的世界 第15回 これまでの授業の統括</p>											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（４０％）と学期末のレポート（６０％）で、成績を評価する。
授業で学ぶテキスト読解上の基本事項を踏まえているか、またその上で自分なりの解釈を説得的に示しているかを評価する。

【教科書】

教材プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

学習対象のテキストについて予習し、あらかじめ各自が解釈についての見解を準備すること

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系200

科目ナンバリング		G-LET21 73645 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目		Expression, culture and society in French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course aims to help students increase their conversation ability while introducing them to French contemporary society and culture.</p> <p>Particular emphasis will be placed on interactional skills and class time will be spent engaging in debates and other speaking exercises.</p> <p>Various documents will be used, such as articles, radio or tv programs, documentaries, songs, etc. The course will address cultural, social and political issues. Each lecture will focus on a different topic.</p>											
【到達目標】											
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - gain confidence and experience in public speaking - improve their argumentative skills - engage in critical thinking and debate with others - explore intercultural issues - develop a deeper understanding of French contemporary society and culture 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will debate on various themes, through written and visual documents (week 2-14). Week 15 will be dedicated to feedback. This class requires active oral participation.</p>											
【履修要件】											
<p>The course is open to all students as soon as they can speak and understand enough French to read the documents and participate in a discussion.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Attendance and participation are essential for this course. Students are expected to fully and actively participate by expressing their own thoughts or opinions, but also listening carefully to others and asking questions. The students will be evaluated through continuous assessment : this includes oral participation, interaction with the others, but also a short presentation in front of the class.</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Students are invited to read the documents before the class.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系201

科目ナンバリング		G-LET21 73645 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目		Expression, culture and society in French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course aims to help students increase their conversation ability while introducing them to French contemporary society and culture.</p> <p>Particular emphasis will be placed on interactional skills and class time will be spent engaging in debates and other speaking exercises.</p> <p>Various documents will be used, such as articles, radio or tv programs, documentaries, songs, etc. The course will address cultural, social and political issues. Each lecture will focus on a different topic.</p>											
【到達目標】											
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - gain confidence and experience in public speaking - improve their argumentative skills - engage in critical thinking and debate with others - explore intercultural issues - develop a deeper understanding of French contemporary society and culture 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will debate on various themes, through written and visual documents (week 2-14).</p> <p>This class requires active oral participation.</p> <p>Total : 14 classes and 1 feedback</p>											
【履修要件】											
<p>The course is open to all students as soon as they can speak and understand enough French to read the documents and participate in a discussion.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Attendance and participation are essential for this course. Students are expected to fully and actively participate by expressing their own thoughts or opinions, but also listening carefully to others and asking questions. The students will be evaluated through continuous assessment : this includes oral participation, interaction with the others, but also a short presentation in front of the class.</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Students are invited to read the documents before the class.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系202

科目ナンバリング		G-LET21 7M202 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也 文学研究科 教授 増田 眞 文学研究科 准教授 村上 祐二			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Introduction aux méthodes de recherches en littérature française									
【授業の概要・目的】											
修士課程・博士後期課程の学生の研究発表とその内容についての議論を通して、研究の方法や作品分析の手法などを習得し、フランス語での論文執筆に必要な基礎力を形成する。											
【到達目標】											
フランス語学・フランス文学の学術論文作成の基本的な方法を理解し、修士論文、研究論文の執筆のために必要な能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
修士課程・博士後期課程の学生の研究発表を中心にプログラムを組む。概要は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・書誌目録の作成、資料収集の方法についての概説(第1回) ・修士1回生の卒業論文についての発表(4月-5月) ・修士2回生による修士論文の準備状況の発表(5月-7月) ・修士2回生による修士論文の中間発表(10月-12月) ・修士1回生による修士論文の準備状況の発表(12月-1月) ・博士後期課程の学生による博士論文の準備状況の発表(随時) ・学会発表予定者の口頭発表(随時) ・国内外の研究者による学術講演(随時) 											
【履修要件】											
受講者は自分の発表の準備に専心するのではなく、他の学生の発表にも興味をもち、議論に積極的に参加することが望まれる。また、専修が主催する学術講演会にも積極的に参加し、幅広い知見の獲得に努めることが求められる。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(自分の研究発表だけでなく、他の学生の発表へのコメント、講演会への積極的な参加など)により評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) Otto Klapp 『Bibliographie der französischen Literaturwissenschaft』(V. Klostermann)(最も体系的なフランス文学研究書誌(仏文研究室で閲覧可能))											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(演習)(2)

『Bibliographie de la littérature française (XVIe-XXIe siècles)』 (Revue d' Histoire littéraire de la France 誌の各年最終号に掲載されるフランス文学研究書誌)

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の発表のタイトルは1週間前までに周知されるので、議論を活発なものにするために、受講者は事前にそのテーマや作家・作品について知識をもっておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

自分の発表の準備に専心するのではなく、他の学生の発表にも興味をもち、議論に積極的に参加することが望まれる。また、専修が主催する学術講演会にも積極的に参加し、新たな知見の獲得に努めてほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系203

科目ナンバリング		G-LET21 7M203 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目		Argumentation, Academic writing and research methodology									
【授業の概要・目的】											
<p>This class is designed to help students develop their argumentative skills and will provide key techniques, guidelines and suggestions to improve their academic written communication in French. Various exercises will be carried out, such as summary, synthesis, or text commentary.</p> <p>Finally, the course will provide masters' students with efficient tools to write their thesis in French (i.e. defining a topic and formulating a problem statement, selecting and reviewing relevant literature, structuring the dissertation, etc.)</p>											
【到達目標】											
<p>Upon completion of the course, students should be able to :</p> <ul style="list-style-type: none"> - efficiently structure and develop an argumentation - provide texts that meet the demands of various academic purposes - master the methodology required to complete a master's thesis 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the main goals of the course, we will carry out various exercises and go through the different steps required to complete a master's thesis (weeks 2-14). Feedback: week 15.</p>											
【履修要件】											
<p>This course is opened to the students of the Faculty of Letters as well as to the students of other faculties (humanities, social sciences). A sufficient level of French is required, since the course will be given only in French.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>The students will be evaluated through continuous assessment Exercises will be regularly carried out and evaluated during the class. Some home assignments will be given throughout the semester.</p>											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(演習)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

Students are expected to prepare exercises at home and to actively participate during the class.

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系204

科目ナンバリング		G-LET21 7M203 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目		Argumentation, academic writing and research methodology									
【授業の概要・目的】											
<p>This class is designed to help students develop their argumentative skills and will provide key techniques, guidelines and suggestions to improve their academic written communication in French. Various exercises will be carried out, such as summary, synthesis, or text commentary.</p> <p>Finally, the course will provide masters' students with efficient tools to write their thesis in French (i.e. defining a topic and formulating a problem statement, selecting and reviewing relevant literature, structuring the dissertation, etc.)</p>											
【到達目標】											
<p>Upon completion of the course, students should be able to :</p> <ul style="list-style-type: none"> - efficiently structure and develop an argumentation - provide texts that meet the demands of various academic purposes - master the methodology required to complete a master's thesis 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the main goals of the course, we will carry out various exercises and go through the different steps required to complete a master's thesis (weeks 2-14). Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>											
【履修要件】											
<p>This course is opened to the students of the Faculty of Letters as well as to the students of other faculties (humanities, social sciences). A sufficient level of French is required, since the course will be given only in French.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>The students will be evaluated through continuous assessment Exercises will be regularly carried out and evaluated during the class. Some home assignments will be given throughout the semester.</p>											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

Documents will be given during the class.

[授業外学修(予習・復習)等]

Students are expected to prepare exercises at home and to actively participate during the class.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系205

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学外国語学部 准教授 菊池 正和			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ルイジ・ピランデッロ長編小説精読									
【授業の概要・目的】											
<p>近現代イタリア文学に関する基礎的素養を身につけ、文学作品の読解・研究能力を高める目的で、今年度はルイジ・ピランデッロの『撮影技師セラフィーノ・グッビオの手記』の精読を行う。また、作品研究のために関連資料や評論の講読も並行して行う予定である。授業方法としては、毎週輪読形式で精読を進めていく。出席者は教員が配布するテキストを毎週予習したうえで授業に臨み、意見・質問を出すこととする。</p>											
【到達目標】											
<p>現代の小説を正確に速く読解できるようになる。 当時の社会状況を補助線に作家の問題意識を正確に把握し、文体論と合わせて作家研究の手法を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 授業の概要の説明 第2回 本講義の視座と問題意識 ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』について 第3回～第8回 長編小説 “Quaderni di Serafino Gubbio operatore” の精読（第1手記、第2手記）と内容分析 第9回 ピランデッロの複製技術芸術論 “Se il film parlante abolira' il teatro” 講読 第10回～第15回 長編小説 “Quaderni di Serafino Gubbio operatore” の精読（第3手記、第4手記）と内容分析</p>											
【履修要件】											
<p>イタリア語の文法の学習は終えておくこと。 また、イタリアの近現代史の知識があることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への参加状況（60%）と期末レポート（40%）を基に評価する。</p>											
【教科書】											
<p>プリント等を配布する。</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Luigi Pirandello 『Quaderni di Serafino Gubbio operatore』 (Mondadori, 2012) ISBN:978-88-04-48761-6

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストの精読をベースにした授業なので予習が不可欠である。単語の意味を調べ終えた後にどれだけ内容理解に時間をとれるかが学習の鍵となる。

また、授業後は履修した箇所を音読すること。イタリア語を正確に発音しながら内容が頭に入ってくるまで繰り返し読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は授業前後、あるいは下記のメールアドレスで随時受け付ける。

m_kikuch@lang.osaka-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系206

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Torquato TassoのDialoghi									
[授業の概要・目的]											
16世紀のイタリアを代表する詩人トルクァート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテ やトスカーナ詩やインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。前期の授 業では、タッソの対話篇“ Il Beltramo overo de la cortesia ”を精読しながら、当時の宮廷における価 値観・道徳観とタッソの散文の特徴を検証します。											
[到達目標]											
ルネサンス期のイタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回：イントロダクション。											
第2回～14回：“ Il Beltramo overo de la cortesia ”の読解と考察											
第15回 フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
小テストをもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、予習が重要です。毎回簡単な小テストを行って予習の精度を確 認します。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系207

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Torquato TassoのDialoghi									
[授業の概要・目的]											
16世紀のイタリアを代表する詩人トルクァート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテ やトスカーナ詩やインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。後期の授 業では、タッソの対話篇“ Il Gianluca ovvero de le maschere ”を精読しながら、当時の宮廷における価 値観・道徳観とタッソの散文の特徴を検証します。											
[到達目標]											
ルネサンス期のイタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回：イントロダクション。											
第2回～14回：“ Il Gianluca ovvero de le maschere ”の読解と考察											
第15回 フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
小テストをもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、予習が重要です。毎回簡単な小テストを行って予習の精度を確 認します。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Corso Istituzionale di Storia della Letteratura Italiana. Giacomo Leopardi e il <pensiero poetante>									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso di storia della letteratura italiana di quest'anno sarà inaugurato da un modulo monografico su Giacomo Leopardi. Dopo una breve introduzione al contesto storico-culturale ottocentesco, il seminario prenderà in esame la biografia e l'opera dell'autore. Leggeremo e commenteremo alcuni dei più importanti "Canti", con una particolare attenzione alle fonti, antiche e moderne, della poesia leopardiana. Esamineremo inoltre passi particolarmente significativi delle "Operette morali" e dello "Zibaldone". Sarà così possibile indagare il rapporto tra poesia e filosofia, studiando uno dei grandi classici della letteratura italiana e quello che, con una felice definizione critica, è stato descritto come un <pensiero poetante>.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti analizzeranno la biografia e le opere di uno dei maggiori poeti italiani, Giacomo Leopardi, e sapranno contestualizzarle nell'ambito della letteratura dell'Ottocento. Leggeranno e studieranno i "Canti", mettendo a confronto i diversi commenti editi. Conosceranno gli elementi centrali del pensiero leopardiano e della sua speculazione filosofica. Dimostreranno queste competenze con una loro presentazione orale durante il corso. Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Primo semestre. Storia della letteratura italiana. Giacomo Leopardi e il <pensiero poetante>.</p> <p>1: Introduzione e contesto storico-culturale.</p> <p>2-15: Giacomo Leopardi: i "Canti", le "Operette morali" e lo "Zibaldone". Analisi dei testi e presentazioni orali preparate dagli studenti.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
È richiesto un ottimo livello di italiano.											
【成績評価の方法・観点】											
<p>La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l'esame. È consentita una sola assenza.</p>											
【教科書】											
<p>G. Leopardi, "Poesie e Prose", a cura di R. Damiani e M. A. Rigoni, Milano, Mondadori, 2003. G. Leopardi, "Zibaldone di pensieri", a cura di R. Damiani, Milano, Mondadori, 2014. "Lessico leopardiano", a cura di N. Bellucci, F. D'Intino, S. Gensini, Roma, Sapienza Università Editrice, 2014-2020 (consultabile online).</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

L. Blasucci, "Leopardi e i segnali dell ' infinito", Bologna, Il Mulino, 2001.
A. Prete, "Il pensiero poetante: saggio su Leopardi", Milano, Feltrinelli, 2006.

La bibliografia qui indicata costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系209

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Corso Istituzionale di Storia della Letteratura Italiana. Dante 2021: sulla fortuna moderna e contemporanea della "Commedia" in Italia.									
【授業の概要・目的】											
<p>Per celebrare l'anniversario dei 700 anni dalla morte di Dante Alighieri, il secondo semestre del corso di quest'anno verterà sulla secolare fortuna del 'divino poema'. Dopo un'introduzione generale alla "Commedia", il seminario prenderà in esame alcuni dei più significativi episodi della sua ricezione, in Italia, dal Settecento a oggi. Considerando l'opera critica e letteraria di grandi autori quali Vittorio Alfieri, Ugo Foscolo, Giovanni Pascoli, Primo Levi, Pier Paolo Pasolini e analizzando numerose riprese, imitazioni, riscritture, traduzioni, sarà possibile comprendere la straordinaria potenzialità comunicativa di un testo che, classico tra i classici, "non ha mai finito di dire quel che ha da dire".</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti leggeranno e commenteranno alcuni dei passi più memorabili della "Commedia"; ne studieranno quindi la lunga fortuna, focalizzandosi sul modo in cui il testo è stato letto e interpretato in diversi periodi storici. Sceglieranno ed esporranno alla classe, con una loro presentazione, un particolare episodio di ricezione della "Commedia". Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Secondo semestre. Storia della letteratura italiana. Dante 2021: sulla fortuna moderna e contemporanea della "Commedia" in Italia.</p> <p>1: Introduzione: Dante Alighieri e la "Commedia".</p> <p>2-15: Fortuna della "Commedia". Analisi di alcuni importanti episodi di ricezione del capolavoro dantesco. Presentazioni orali preparate dagli studenti.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
È richiesto un ottimo livello di italiano.											
【成績評価の方法・観点】											
<p>La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l'esame. È consentita una sola assenza.</p>											
【教科書】											
<p>D. Alighieri, "La Commedia", a cura di A.M. Chiavacci Leonardi, 3 voll., Milano, Mondadori, 2016. "Enciclopedia dantesca", Roma, Istituto della Enciclopedia italiana, 1970 (consultabile online).</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

La bibliografia qui indicata costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系210

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Corso Monografico di Letteratura Italiana. Poeti italiani del Novecento									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso prenderà in esame le opere di alcuni dei più importanti poeti italiani del Novecento. Dopo una contestualizzazione storica e un'introduzione sui caratteri distintivi e i modelli della poesia del XX secolo, si procederà a una lettura dei testi tratti dall'antologia mondadoriana di riferimento: "Poeti italiani del Novecento". Di ciascun autore verrà fornito un essenziale profilo biografico, preliminare all'analisi dell'opera. Verranno dunque commentati alcuni dei componimenti più significativi, con un'attenzione rivolta tanto al riconoscimento dei riferimenti culturali e delle fonti, quanto agli usi lessicali, alle figure retoriche e metriche. Ascoltando alcune delle voci più intense della letteratura italiana contemporanea, sarà possibile comprendere a fondo una stagione cruciale come quella novecentesca e acquisire gli strumenti per una autonoma lettura e analisi tematico-stilistica dei testi poetici.</p> <p>Seguirà, nel secondo semestre, un approfondimento su Eugenio Montale.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti impareranno a conoscere la poesia italiana del Novecento e il suo contesto storico-culturale. Leggeranno e commenteranno le opere di alcuni degli autori fondamentali di questa stagione letteraria, tra cui Guido Gozzano, Umberto Saba, Giuseppe Ungaretti, Salvatore Quasimodo, Mario Luzi, Giorgio Caproni, Vittorio Sereni, Pier Paolo Pasolini. Acquisiranno una buona capacità di analisi del testo poetico, padroneggiando le più importanti figure metriche e retoriche. Dimostreranno queste competenze in una presentazione orale, nella quale illustreranno alla classe una poesia a loro scelta, tra quelle raccolte nell'antologia mondadoriana. Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Primo semestre: Corso Monografico di Letteratura Italiana. Poeti italiani del Novecento</p> <p>1: Introduzione e contesto storico-culturale.</p> <p>2-15: Poeti italiani del Novecento. Lettura e commento dei testi. Presentazioni orali preparate dagli studenti.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
<p>È richiesto un ottimo livello di italiano.</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l'esame. È consentita una sola assenza.

[教科書]

"Poeti italiani del Novecento", a cura di P.V. Mengaldo, Milano, Mondadori, 2012.

P.G. Beltrami, "Gli strumenti della poesia. Guida alla metrica italiana", Bologna, Il Mulino, 2012.

G. Mazzoni, "Sulla poesia moderna", Bologna, Il Mulino, 2015.

La bibliografia qui indicata costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate delle letture da svolgere a casa. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系211

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Corso Monografico di Letteratura Italiana. L' opera poetica di Eugenio Montale, il "recto" e il "verso".									
【授業の概要・目的】											
<p>Dopo la ricognizione sulla poesia italiana del Novecento avviata nel primo semestre, il corso si concentrerà ora su uno dei massimi esponenti di questa stagione letteraria: il premio Nobel Eugenio Montale. Le conoscenze apprese si riveleranno indispensabili per indagare l'ampia parabola poetica montaliana, da "Ossi di seppia" ad "Altri versi". Riferendosi alla propria opera, il poeta ligure dichiarò in un'intervista di avere scritto un unico libro, di cui aveva offerto prima il "recto" ("Ossi di seppia", "Le occasioni", "La bufera e altro"), quindi il "verso" ("Satura", "Diario del '71 e del '72", "Quaderno di quattro anni", "Altri versi"). Nella sua varietà tematico-stilistica, l'opera poetica montaliana rappresenta un caso di studio particolarmente interessante e stimolante per concludere il corso annuale sulla poesia italiana del Novecento.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti analizzeranno la biografia e l'opera di uno degli autori fondamentali del Novecento italiano. Esamineranno una selezione di testi tratti dalle sette raccolte poetiche montaliane, analizzandone opportunamente temi e stile, con particolare attenzione al lessico. Familiarizzeranno con l'edizione critica dell'"Opera in versi", esempio straordinario nel panorama della filologia del Novecento, di collaborazione tra l'autore vivente e i suoi editori. Dimostreranno le competenze acquisite con una loro presentazione durante il corso. Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Secondo semestre: Corso Monografico di Letteratura Italiana. L'opera poetica di Eugenio Montale, il "recto" e il "verso".</p> <p>1: Introduzione e profilo biografico di Eugenio Montale.</p> <p>2-15: L'"Opera in versi". Lettura e commento dei testi. Presentazioni orali preparate dagli studenti.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
È richiesto un ottimo livello di italiano.											
【成績評価の方法・観点】											
La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l'esame. È consentita una sola assenza.											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

Montale, "L'opera in versi", a cura di R. Bettarini e G. Contini, Torino, Einaudi, 1980.

E. Montale, "Tutte le poesie", a cura di G. Zampa, Milano, Mondadori, 2017.

L. Blasucci, "Gli oggetti di Montale", Bologna, Il Mulino, 2002.

P.V. Mengaldo, "L'opera in versi di Eugenio Montale", in "La tradizione del Novecento", IV serie, Torino, Bollati-Boringhieri, 2000, pp. 66-113.

La bibliografia qui indicata costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate delle letture da svolgere a casa. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系212

科目ナンバリング		G-LET22 63731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学外国語学部 准教授 菊池 正和			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ルイジ・ピランデッロ長編小説精読									
【授業の概要・目的】											
<p>近現代イタリア文学に関する基礎的素養を身につけ、文学作品の読解・研究能力を高める目的で、今年度はルイジ・ピランデッロの『撮影技師セラフィーノ・グッビオの手記』の精読を行う。また、作品研究のために関連資料や評論の講読も並行して行う予定である。授業方法としては、毎週輪読形式で精読を進めていく。出席者は教員が配布するテキストを毎週予習したうえで授業に臨み、意見・質問を出すこととする。</p>											
【到達目標】											
<p>現代の小説を正確に速く読解できるようになる。 当時の社会状況を補助線に作家の問題意識を正確に把握し、文体論と合わせて作家研究の手法を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨN 授業の概要の説明 第2回～第11回 長編小説 “ Quaderni di Serafino Gubbio operatore ” の精読（第5手記～第7手記）と内容分析 第12回～第15回 “ Quaderni di Serafino Gubbio operatore ” に関する研究論文の精読</p>											
【履修要件】											
<p>イタリア語の文法の学習は終わっておくこと。 また、イタリアの近現代史の知識があることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への参加状況（60%）と期末レポート（40%）を基に評価する。</p>											
【教科書】											
<p>プリント等を配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） Luigi Pirandello 『Quaderni di Serafino Gubbio operatore』（Mondadori, 2012）ISBN:978-88-04-48761-6</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

テキストの精読をベースにした授業なので予習が不可欠である。単語の意味を調べ終えた後にどれだけ内容理解に時間をとれるかが学習の鍵となる。

また、授業後は履修した箇所を音読すること。イタリア語を正確に発音しながら内容が頭に入ってくるまで繰り返し読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業前後、あるいは下記のメールアドレスで随時受け付ける。

m_kikuch@lang.osaka-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系213

科目ナンバリング		G-LET22 73740 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	木1,2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及びイタリア語
題目		イタリア文学研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>研究論文執筆のための訓練と準備を目的とする演習です。《勉強》と《研究》の相違を明確に認識することから始めて、問題の設定と論証のプロセス、それらの表現方法、また文献目録の作り方や註や引用の仕方まで、実際の作業に即して論文作成の理解を深めていきます。</p>											
【到達目標】											
<p>修士論文提出年度に当たる参加者にとっては、これを完成させることが授業の目標となります。修士1回生は、この授業を通じて自身の修士論文のテーマを絞り込むことが課題となります。また博士課程の参加者は、博士論文の構想を考へること、各章のテーマを深めること、最終的に論文を完成に導くことが授業の目標となります。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>初回 ガイダンス：研究発表の手順について説明を行い、おおよそのスケジュールを確認します。</p> <p>2-3回 前年度の修士論文・卒業論文提出者の報告。</p> <p>4-14回 大学院生及び卒業論文提出予定者の研究報告。 修士・博士論文の計画段階から各自の研究テーマについて順次発表をします。他の参加者にも自由に意見を述べてもらいつつ具体的に検討を行います。発表の合間に、註・参考文献・引用方法など学術論文作成に必要な形式・体裁について説明します。また必要に応じて学術雑誌に掲載された論文を講読しながら、論文執筆の技術と注意事項を確認する予定です。学会発表などを予定している参加者には、その予行演習を行ってまいります。</p> <p>15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点：授業への参加状況、授業内での発言などに基づく。											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

発表前日までに研究室メンバー宛てに研究の要旨をメールで配布することが求められます。

(その他(オフィスアワー等))

原則的には隔週開講の授業ですが、学生の希望があればこれに限定されることなく時間の許す限り開講します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系214

科目ナンバリング		G-LET22 73741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペトラルカの抒情詩									
[授業の概要・目的]											
イタリアの抒情詩の源泉であるフランチェスコ・ペトラルカの詩集を精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。											
[到達目標]											
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。 古典文学の魅力を体感する。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めます。											
初回：イントロダクション											
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認したうえで作品の内容を精査していきます。											
第15回：フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
小テストをもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、十分な予習が求められます。毎回簡単な小テストを行って予習の精度を確認します。原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系215

科目ナンバリング		G-LET22 73741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペトルルカのソネット									
[授業の概要・目的]											
前期につづいて、フランチェスコ・ペトルルカの詩集を精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。											
[到達目標]											
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。 古典文学の魅力を体感する。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めます。											
初回：イントロダクション											
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察。 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認したうえで作品の内容を精査していきます。必要に応じてヴァチカン収蔵写本の表記を確かめながらテキストの校訂作業についても検証します。											
第15回：フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
小テストをもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、十分な予習が求められます。毎回簡単な小テストを行って予習の精度を確認します。原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

文献文化学系216

科目ナンバリング		G-LET22 73741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 国際教育総合センター 教授 河合 成雄			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		15世紀フィレンツェの思想と文化、およびその影響									
【授業の概要・目的】											
<p>イタリアでの文学だけでなく、15世紀、16世紀の思想的背景となったマルシリオ・フィチーノを中心とする思想について学ぶ。当時の思想を概観することによって、例えば、世界観に慣れ親しむことによって、文学の理解のみならず、美術史や科学史の理解を深めることを目的とする。また、フィチーノを中心に15世紀の文献を読むことによって、古典を読むイタリア語力を養う。</p>											
【到達目標】											
<p>15世紀当時の思想を学習することによって、主に文学への考察の幅を広げるようになる。他方、毎回、読んだことをディスカッションすることによって、イタリア語の読解力だけでなく、学んだ知識を基礎的な文献に即して発表する力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>通常授業14回、定期試験、フィードバック1回 第1回 全般的なイントロダクション 第2回 15世紀の思想背景についてのイントロダクション 第3回 マルシリオ・フィチーノについてのイントロダクション 第4回～第11回 主にフィチーノのイタリア語文献を読みながら、適宜、評論なども訳読しつつ、ディスカッションをする。 第12回～第14回 受講者の希望にしたがって、フィチーノの影響を受けた詩など（例えば、ミケランジェロの詩集）違うジャンルのものも題材に扱う。 期末試験 第15回 フィードバック 受講者の解答に対してコメントをして、論理の発展をはかる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>定期試験（80％）を中心に、平常点（20％）授業での訳読・発言などを加味して評価する。3名以下の場合は、平常点を重視することにする。その場合は、授業時において、評価方法について改めて告知する。</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
入手が難しいテキストも多いので授業時にプリント配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に精読・訳出する部分については、その都度指定するので、必ず読んでくること。

(その他(オフィスアワー等))

簡単な質問は授業の前後で受けます。大きな質問、および相談はその都度、遠隔(zoom使用)で受けます(要予約)。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

文献文化学系217

科目ナンバリング		G-LET22 73741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 国際教育総合センター 教授 河合 成雄			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		マルシリオ・フィッチーノの『愛について』とその文学的影響									
【授業の概要・目的】											
<p>マルシリオ・フィッチーノ(1433-1499)は、16世紀の文学に大きな影響を与えている。その著作の中でも『愛について』と『生について』は16世紀に版を重ね、全ヨーロッパでのベストセラーであった。授業ではとりわけ著者自身がイタリア語で書いた『愛について』から抜粋して読むことにより、文学史、だけでなく、科学史、美術史、哲学史等での重要性を明らかにし、フィッチーノ以後の文学を理解する視野を広げることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>15世紀当時の思想を学習することによって、主に文学への考察の幅を広げることができる。他方、毎回、読んだことをディスカッションすることによって、イタリア語の読解力だけでなく、学んだ知識を基礎的な文献に即して発表する力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>通常授業14回、定期試験、フィードバック1回 第1回 全般的なイントロダクション 第2回 「愛」の思想的背景についてイントロダクション 第3回 マルシリオ・フィッチーノについてのイントロダクション、とりわけ『愛について』を中心に 第4回～第12回 主にフィッチーノの『愛について(El libro dell'amore)』を読みながら、適宜、評論なども訳読をする。 第13回～第14回 授業のテーマにそって、受講者各自が選んだテキストの紹介をし、さらには、ディスカッションをする。 期末試験 15回 フィードバック 受講者の解答に対してコメントをして、論理の発展をはかる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>定期試験(80%)を中心に、平常点(20%)授業での訳読・発言などを加味して評価する。3名以下の場合は、平常点を重視することにする。その場合は、授業時において、評価方法について改めて告知する。</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
入手が難しいテキストも多いので授業時にプリント配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に精読・訳出する部分については、その都度指定するので、必ず読んでくること。

(その他(オフィスアワー等))

簡単な質問は授業の前後で受けます。大きな質問、および相談はその都度、遠隔(zoom使用)で受けます(要予約)。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET22 73764 PO36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(外国語実習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	実習	使用 言語	イタリア語
題目		Esercitazioni di lingua italiana: "Se una notte di inverno un viaggiatore"									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso di Esercitazioni di lingua italiana di quest'anno prenderà le mosse dalla lettura del celebre romanzo di Italo Calvino "Se una notte d' inverno un viaggiatore". Si tratta di un testo particolarmente indicato per perfezionare la conoscenza della lingua italiana, "un romanzo sul piacere di leggere romanzi", come lo definì il suo autore. Il protagonista è infatti un Lettore alle prese con un insolito libro: dieci "incipit" e nessuna conclusione. Seguendo le sue avventure, gli studenti avranno modo di esercitarsi su diversi tipi di testo, guidati dalla perizia narrativa di Calvino e dal suo raffinato gioco letterario.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti leggeranno e commenteranno un classico della letteratura italiana: "Se una notte d'inverno un viaggiatore". Acquisiranno una maggiore dimestichezza con l'italiano scritto: impareranno a orientarsi attraverso tipologie testuali e generi letterari diversi. A questa lettura verranno associati specifici esercizi di scrittura, per consentire di mettere in pratica le competenze acquisite e perfezionare così la conoscenza del lessico, della morfologia e della sintassi dell'italiano.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Esercitazioni di lingua italiana. Primo semestre: "Se una notte di inverno un viaggiatore"</p> <p>1. Introduzione 2-15. Lettura e commento del romanzo "Se una notte di inverno un viaggiatore". Esercitazioni e presentazioni preparate dagli studenti.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
<p>Corso destinato a studenti di italiano elementare o intermedio.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni, sulle esercitazioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l'esame. È consentita una sola assenza.</p>											
【教科書】											
<p>I. Calvino, "Romanzi e racconti", Milano, Mondadori, 2013.</p> <p>La bibliografia qui indicata costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture ed esercitazioni da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET22 73764 PO36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(外国語実習) Italian Language and Literature				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	実習	使用 言語	イタリア語
題目		Esercitazioni di lingua italiana: "Il castello dei destini incrociati"									
【授業の概要・目的】											
<p>Dopo la lettura di "Se una notte d'inverno un viaggiatore", il corso prosegue, nel secondo semestre, affrontando un altro romanzo di Calvino: "Il castello dei destini incrociati". Anche in questo caso, l'affascinante meccanismo narrativo ideato dall'autore si rivelerà particolarmente indicato per le nostre esercitazioni di lingua italiana. Seguendo la logica combinatoria dei tarocchi, quasi giocando a carte, lo studente imparerà a leggere e a comporre, in italiano, differenti tipologie di testo.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti leggeranno e commenteranno un classico della letteratura italiana: "Il castello dei destini incrociati". Acquisiranno una maggiore dimestichezza con l'italiano scritto: impareranno a orientarsi attraverso tipologie testuali e generi letterari diversi. A questa lettura verranno associati specifici esercizi di scrittura, per consentire di mettere in pratica le competenze acquisite e perfezionare così la conoscenza del lessico, della morfologia e della sintassi dell'italiano.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Esercitazioni di lingua italiana. Secondo semestre: "Il castello dei destini incrociati"</p> <p>1. Introduzione</p> <p>2-15. Lettura e commento del "Il castello dei destini incrociati". Esercitazioni e presentazioni preparate dagli studenti.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
<p>Corso destinato a studenti di italiano elementare o intermedio.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni, sulle esercitazioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l'esame. È consentita una sola assenza.</p>											
【教科書】											
<p>I. Calvino, "Romanzi e racconti", Milano, Mondadori, 2013.</p> <p>La bibliografia qui indicata costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture ed esercitazioni da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。